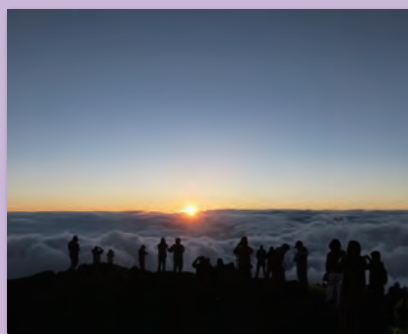


Tokyo Dental College Alumni Association



東京歯科大学同窓会 **120** 周年記念事業

医はこれ濟生ひとへに仁なり

『伝統そして未来への飛躍』



東京歯科大学
同窓会創立 **120** 周年記念

平成27年11月29日(日)



記念式典・講演会

11:00~13:15
東京歯科大学水道橋校舎新館「血脇記念ホール」



記念祝賀会

14:00~16:30
東京ドームホテル「天空」
司会：宮崎宣子（フリーアナウンサー）

東京歯科大学同窓会

東京歯科大学同窓会会報 第401号

目 次

東京歯科大学同窓会創立120周年記念特集	1～52
巻 頭 言	53
お知らせ	54～55
TDC アカデミア	56～58
会 務	59～66
理事会のうごき	67～68
渉 外	69
事業推進部	70～75
母校だより	76～78
準会員のページ	79～80
父兄会だより	81
支部のうごき	82～93
クラス会だより	94～95
OB 会・グループ・サークルだより	96
すいどうばし	97
庶務日誌	98～100
逝去会員	101
追 悼	101～103
投稿規定	104
へんしゅうこうき	105

表紙写真の説明

・『富士山頂からのご来光』

日時：2015年8月24日撮影

場所：富士山

平成10年卒 京橋支部 横田 東生先生 撮影

・横浜検疫所旧細菌研究室

・同窓会創立120周年記念ゴルフ大会の参加賞

・岡山県歯科医師会館玄関ホール高山先生胸像

・『巾着田の曼珠沙華』

日時：2015年9月20日撮影

場所：埼玉県日高市大字高麗本郷

昭和60年卒 横浜中央支部 皆川 雅彦先生 撮影

卒業アルバムから見た母校の変遷

－現在との比較－ その2

広報部委員 渡 邊 宇 一

前号に引き続き、大学のご厚意により図書館からお借りした卒業アルバムから、なつかしい写真と現在との比較を企画した（現在の写真は筆者撮影）。

血脇先生のマスコット人形

戦前、水道橋校舎では現在の東歯祭の前身とも言える「記念祭」が開催されていた。

右写真は血脇先生がご自身のマスコット人形と一緒に撮られた記念写真。画面右上には昭和9年に来日した野球の神様、ベーブ・ルースの似顔絵も見える。添え書きには「日本ノムシ歯ハ皆俺ガカットバシテヤル 實ハ俺モムシ歯ガ痛ムンダガネ…」と洒落たことが書かれている。

左下写真は昭和5年、学生会主催血脇先生還暦祝いの運動会に登場した風船の漫像。画面下に写っておられる血脇先生と比べてもかなり巨大なもので、運動会のシンボルだったのだろう。

これらのマスコット人形はおそらく当時の学生の作と思われるが、いずれも血脇先生への敬慕の念が具現化されたもので、これこそ血脇イズムの象徴といえるものではなかろうか。

右下写真は記念祭に展示された約7年前に没した野口英世先生のジオラマで、いかに当時の学生が血脇先生、野口先生を慕っていたかがよくわかる。



写真：昭和11(1936)年（七星会）より



写真：昭和8(1933)年（四海会）より



写真：昭和11(1936)年（七星会）より

市川



写真：昭和60(1985)年（三春会）より



写真：昭和60(1985)年（三春会）より



写真：昭和36(1961)年（久喜会）より



現在の市川駅前の様子。左写真と同地点。



写真：昭和36(1961)年（久喜会）より



現在の菅野駅前の様子。左写真と同地点。



写真：昭和37(1962)年（十期会）より



現在の市川総合病院駐車場の様子。
左写真とほぼ同地点。

現在の市川は変貌甚だしく、かつての面影は全く見られない。

左ページ上、左右の航空写真に記されたアルファベットの地点で撮影したものがこのページ4枚の写真である。

旧市川総合病院は、東京外かく環状道路の建設工事により取り壊され、いまはその跡形もない（A地点）。

旧進学課程の道路を挟んで向かい側、グラウンドへの入り口付近の様子（B地点）。いまはここに入出口は無い。

旧進学課程の跡地は、大手スーパー「マルエツ」となり（C地点）、駐車場は向いの市川総合病院と共同になっている。

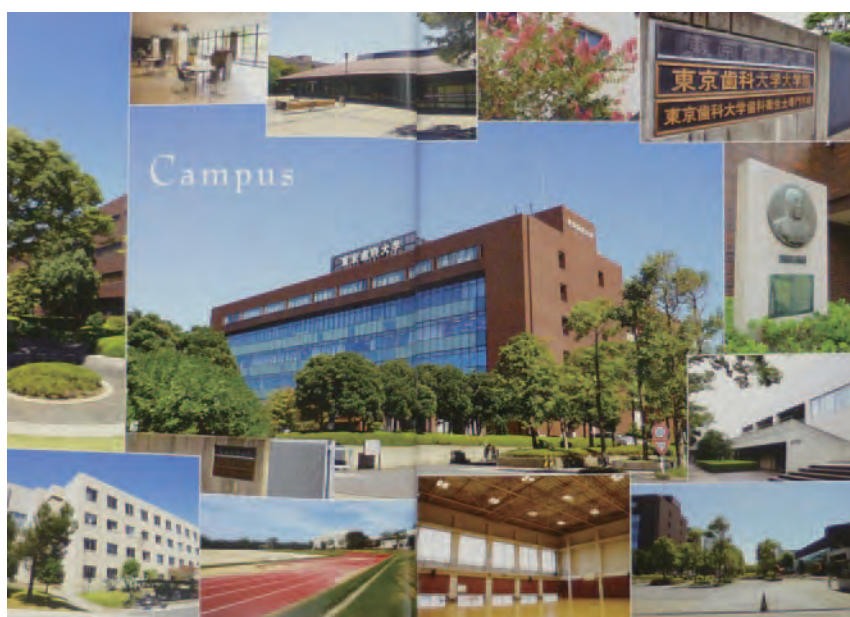
グラウンドは移転した新しい市川総合病院となり、現在最新の医療設備を整え、学生教育、地域医療に貢献している（D地点）。



稲毛



写真：昭和58(1983)年（水真会）より



写真：平成25(2013)年（良い歯会）より



写真：昭和60(1985)年（三春会）より

我らが稲毛である。

上写真は稲毛移転直後の航空写真で、海岸まで写っているものは珍しい。

画面左右を横切る鉄道は当初貨物線として計画されたもので、その後旅客線に用途変更され、昭和61年、京葉線として開通した。稲毛海岸駅付近の開発もまだこれからのものである。

左写真は水道橋移転直前の千葉校舎の様子。

下右写真は、高洲市民プール付近の現在の様子である。一見左写真と同じ風景だが、こじま公園のこじま号は解体されて無くなり、新高洲橋の袂にあった消防署の建物も無くなり、市民プールは震災による液状化被害のため、現在も休止中である。画面左遠景に幕張ツインタワーが望める。



写真：平成22（2010）年（創志会）より
稲毛の様子が描かれた楽しいイラスト。



現在大学正門脇には薬局を含んだコンビニエンスストアが開店している。

三崎神社通り



写真：昭和35(1960)年（八紫会）より



上写真はおよそ55年前の三崎神社通り。
画面左は三崎神社。現在左写真に見られる鳥居や灯籠はまだ建っていない。
画面中央に見られるトミーグリルは現在も盛業中。看板はなぜか「トミグリル」。

大学水道橋移転事業は滞りなく進捗し、さらなる発展を求めて、本館の西側、三崎神社通りに面したところに西棟が建設中である（左写真ブルーシートの部分）。

本館と西棟とは内部で渡り廊下で繋がりを、水道橋病院の拡張、臨床実習学生の学習を行うスペースとして活用される予定である。

未来に向けて東京歯科大学の新たな歴史のスタートである。



建設が進む本館西棟。画面上方に僅かに覗いて見えるのが本館。

100年の時を経た野口英世のカラー写真

広報部・副委員長 山口 雅 史

「野口博士ほど写真のお好きな研究者はいない」とも言われ、我が東京歯科大学にとってもゆかりの深い野口英世。彼が写るカラー写真が日本人最初のカラー写真だということを皆さまご存じであろうか。



写真：ニューヨークで撮った日本人で最初のカラー写真とされる。(1914年大正3年撮影)

青地のワイシャツに糊の効いた純白の襟、胸ポケットには黄色の花が挿してある。よほど日差しが強いのか目を細め、左手は見えないようにボーダー（帽子）が置かれ、右手にはしっかりステッキを持っている。また、背景は緑の木々が生い茂り、たいへん鮮やかな赤い花で囲まれている。大正3年に英世から小林 栄先生のもとに送られてきたもので、保存状態は大変に良く、この写真は現在猪苗代湖畔の野口英世記念館にて展示されている。

では、いったいつ誰がどうやって撮ったものであろうか。

実はイーストマン・コダック社が一般向けカラーフィルムを発売する遙か前、今から100年以上前に「オートクローム・リュミエール（Autochrome Lumière）」というカラー写真技法があった。オートクロームは、フランス人のオーギュスト・リュミエールとルイ・リュミエールの兄弟によって発明され、1903年に特許を取得した。そして1907年に写真乾板の形式で一般に販売が開始され、コダック社がコダクロームを販売する1930年代までは市場ではほぼ唯一のカラー写真の撮影法であった。あまり普及はしなかったが、フランスの銀行家アルベール・カーンがこの製版方法で72,000枚にもおよぶカラー写真を世界各地で撮影させ、20世紀初頭の世界を記録した重要資料として現在も博物館に残っている。そしてリュミエール

兄弟はトーマス・エジソンと並び称される映画発明者で、映画の父と呼ばれている。

この方法は、透明なデンプンの微粒子を「赤」「緑」「青紫」の三原色に染め、これをガラスやフィルターベース上に隙間がないようにモザイク状に散布し、透明なニスでコーティングして固定、その上にパンクロ乳剤を塗布してある。撮影はフィルムの裏側、つまりデンプンスクリーン側から行なうと、3色のスクリーンを透かし同じ色で乳剤が感光し、これを反転現像する。このフィルムを透過光で見ると、デンプンスクリーンを透過したポジカラーが見られる仕組みとなる。従来の三色分解ワンショットカメラ（1度に3枚の乾板を使用）と違って乾板1枚だけで撮影できたので、アマチュアを中心に支持を集めた。

写真とともに小林 栄先生のもとに送られた大正3年8月8日付の書簡には、「リュミエール氏の発見された現像法により自然色を得ており、友人ゲーツ博士の別荘にて撮影された。赤い花はバラで、胸のボタンに挿したるは菊の一種である」と説明が書かれている。写真はこの年に撮られたものと推定され、当時野口英世37歳であった。この書簡の中には「ご覧になるには晴天の日蒼色の空に向かって御見通し有之べく候」とあるので、故郷の青少年達が世界の最新技術を物珍しげにみなで透かして見ている様子が目に浮かぶようである。100年の時を超えて現存する日本人最初のカラー写真が野口英世だなんてなんだかとても誇らしく思えますよね。

同窓会創立120周年記念特別企画 ～血脇守之助先生「書」のご紹介 その2～

広報部・副委員長 福 井 雅 之

前号では主に古い卒業アルバムから血脇先生の書をご紹介しましたが、東京歯科大学の資料室には血脇先生の沢山の書の他に大学に関係する写真、昔の治療器具など貴重な資料が多数保存されています。今号は千葉校舎図書館1階の資料室のご厚意により館内を案内していただき血脇先生の書をご紹介いたします。



「世の中は五分の誠 二分俠氣
あとの三分は茶目でくらせよ」

前号でもご紹介した有名な書ですが、五分の「真味」ではなく「誠」になっているのは何故か？どちらが先に書かれたものなのか不明です。

掛け軸なら縦に長く書けるが、血脇先生のどの横長の書を見ても2行目は全て1字下げて書いてあり「真味」と書くと下の列が揃わないので体裁を考え「誠」に変えたのでしょうか？



「交友須帶三分俠氣」

葉根譚の「交友須帶三分俠氣 作人要存一點素心」

「友と交わるには須（すべか）らく三分の俠氣を帶ぶべく 人と作るには一点の素心を存するを要す」から引用したと思われる書。

血脇先生の有名な「世の中は五分の真味に二分俠氣…」もこれが元になっているのでしょうか？



三人の先生の寄せ書きになっている希少な掛け軸です。

「克忠克孝 よくちゅうよくこう」 血脇守之助先生
教育勅語より引用したと思われます。国や親に忠孝を尽くす という意。

「幸」 綿引朝光先生

「風香秋田城」 奥村鶴吉先生

東京歯科大学広報 第249号によると「寄せ書きは年号など不明だが、奥村先生の書は希少である。」と紹介されていました。

（綿引先生は存じ上げませんが奥村鶴吉先生は東京歯科医学専門学校校長を務め、大学昇格後は東京歯科大学初代学長をされた先生です。）

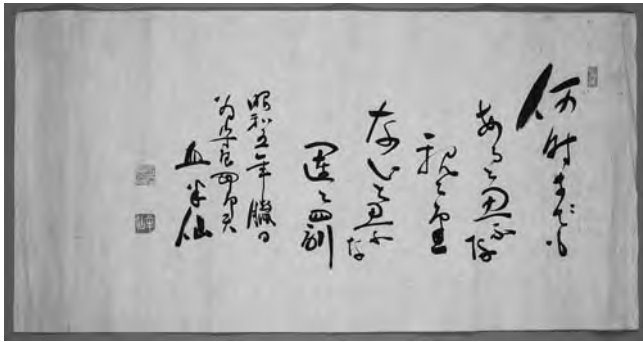
「清如水兮直如矢」

清きこと水の如く 直きこと矢の如く

出典は福沢諭吉「学問のすゝめ」第十一編中の一節と思われます。

慶應義塾出身の血脇先生らしい書といえます。





「何時までも あると思うな親と金
ないと思うな 運と罰」

この書も最後の部分は「災難」を「罰」に変えて
下が綺麗にそろうように書き換えているようです。

元になっているのは

「若き日に 汗流さずば 老いて後 涙となりて
悔いを残さん 忍耐はすべての扉を開く いつまで
もあると思うな 親と金 ないと思うな 運と災難
人の行く裏に道あり 花の山」



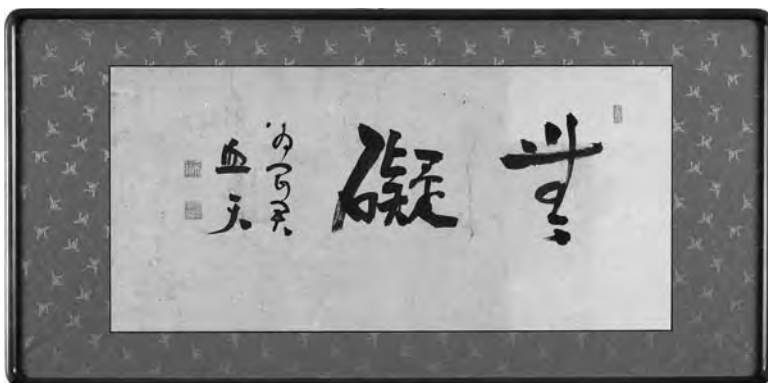
「Rise from your ashes」

珍しい英語の書。元は「rise from the ashes」

打撃から立ち直る、復興する という意。

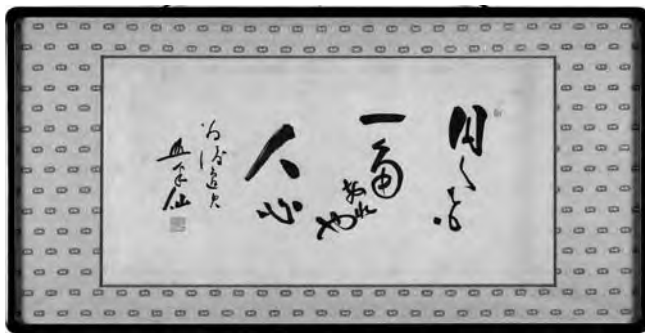
関東大震災の後に書かれたものなののでしょうか？

由来：不死鳥（phoenix）は死に際して自ら焼死
し、その灰から再び新たに生まれ変わるという古代
伝説からきています。



「無礙」 むげ

妨げのないこと、何物にもとらわれな
いこと



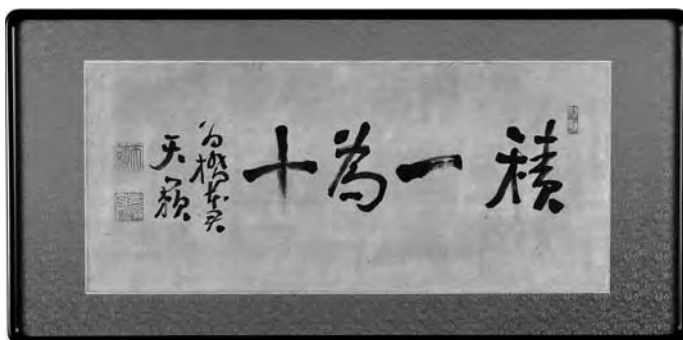
「円くとも 一角あれや 人心」
まるくとも ひとかどあれや ひとごろ

世間から、円満な人格者だと認められることは良いことには違いないが、それだけであってはならず、たまに怒ったり少々の頑固さなど少しくらい角があった方がよい、という意味。この後に「あまり丸きは転び易きぞ」と言葉が続く。



勿怒

怒る勿（なか）れ



積一為十 せきいちじゅう

元は「積小為大 せきしょうだい」
小を積みて大を為す が元になっていると思
われます。

資料室にはこの他血脇先生の沢山の書や高山紀齋先生の画，書籍，模型などが展示されています。
ご興味のある方はぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか？



資料室風景（大学 HP より）

（「書」の写真は全て資料室のご厚意により頂いたものを掲載しております）

🎵 🎵 🎵 🎵 🎵 120周年記念祝賀会情報 🎵 🎵 🎵 🎵 🎵

120周年記念祝賀会で歌声を披露してくれるレジェンドが全国ツアーを行なっているそうです。

全国ツアーの旅先から、同窓会会員へコメントが届きました。

先生方のお近くでコンサートが開催されるようでしたら、足をお運びになってはいかがでしょうか？…

東京歯科大学同窓会のみなさま

初めまして

11月29日の記念祝賀会でステージを務めさせていただきますレジェンドです。

僕たちはクラシックをベースに、古今東西の名曲の数々をオペラティックなコーラスでお送りするグループです。

ゆっくりとステージを楽しんでいただき、時には BRAVO！ のかけ声で盛り上げて頂ければ幸いです。

一緒に素敵な時間を楽しみましょう。

オペラユニット レジェンド MC 吉田知明



ピアニスト
大井 健

菅原浩史

内田智一

吉田知明

柿迫 秀

志村糧一

ピアニスト
西尾周祐

120th Junior Residents

夢・未来

同窓会創立120周年記念によせて(桔梗会)

創立120周年のテーマから「未来への飛躍」に焦点をあて、『夢・未来』と題して、今年卒業した先生方の歯科医師としての将来を語っていただきました。



石井悠佳里
千葉病院
研修歯科医

120期

私は総合病院の歯科口腔外科で研修を行っています。

総合病院である為、様々な既往を持った患者さんが多く、聞いたことのない疾患や教科書でしか見たことのない疾患を抱えた患者さんが当たり前のように受診し、歯科治療を行うのを目の当たりにし勉強の毎日を送っています。

外来以外にも化学療法や周術期、

ICUで人工呼吸管理中の患者さんの口腔ケアを行うなど、口腔内だけではなく全身管理を行うことの重要性を痛感しています。

目の前にある主訴だけでなく背景にある全身疾患や精神面など常に広い視野を持ち患者さんと接することのできる歯科医師を目指し研修に励んで参ります。



相原彩子
女子医科大学
研修歯科医

TDC

小谷田夕里名
こばやし
歯科クリニック
研修歯科医



dream

時が過ぎるのは早く、卒業から半年が経とうとしています。私は、新小岩のこばやし歯科クリニックで4月から研修させて頂いています。勉強漬けの6年生から一転、臨床で技術を磨く毎日です。若輩者ですが、これからもご指導、ご鞭撻頂ければ幸いです。

女性歯科医師として

「前」みたいに、口紅が塗れるようになりたい。」

私が5年生の臨床実習で術後経過観察中の患者さんに言われた言葉です。

噛めることはもちろん大事で、生きるために顎骨・舌を切除することもちろん絶対に必要な事だと思います。着飾ることは二の次三の次かもしれません。

でも、毎日化粧がちゃんとできること、マスクを外して歩けること、鏡を見たいと思えること、実際に「生きる」ことに直結しないことが生きていくための希望になるんじゃないかと思っています。自分が女性だから特にそう思うのかもしれませんが。

そんな気持ちに寄り添えるような歯科医師になるべく、来年からは顎補綴を専攻したいと思っています。

卒業して5ヶ月が経とうとしている。この5ヶ月で自分は何が出来るようになって、何がまだ出来ていないのか。研修が始まる時に立てた目標に向かって進んでいるのか。最近はそのことを考えることもなく、まずは飛び込んだ今の環境についていくことで精一杯になっている気がする。自分が考えた流れで動ける日など1日もなかった気がする。毎日何かしらの知らないこと、忘れていたこと、失敗に遭遇しその都度周囲の人々に助けてもらいながら少しずつ自分一人でも自信を持って出来ることが増えてきているのかもしれない。しかし、知らなかったこと全てを調べきてはいないし、その自信が100%成功するレベルのものではなく、上手いかなかったときの次の選択肢の数は圧倒的に足りていない。

この5ヶ月で感じた今後の課題を具体的に挙げればきりが無い。しかし、ひとつ明確に分かったことがある。それは自分が思っているより礼儀やコミュニケーションが上手くないということである。手技的な達成度に気持ちが向かいがちだが、患者、上司、関係職員、同期などたくさんの人と問診、カンファレンス、連携、対話していく職種であるからこそもう一つ伝え方に注意して過ごしていこうと感じている。「歯科医師たる前に人間たれ」を忘れていたのかもしれない。乱文お許し下さい。



大村雄介
市川総合病院
研修歯科医

未来

私は千葉病院を中心に、4ヶ月間開業医さんで研修を行います。

総合診療科では各々が患者を担当するので、流れが分かりやすく、多くの処置を行いました。開業医さんでは、簡単な処置から徐々に割り振っていただいています。回転の速さやスタッフとの連携に驚きました。

この5ヶ月間を通し、私が強く感じたことは、患者と話す重要性です。世間話をしたり、医師と患者の考えの差異を少なくしたりと、ラポールの形成を助けてくれます。今年は他の先生の処置を見学が多くあるので、信頼される歯科医師になれるよう話し方や工夫の仕方をどんどん取り入れていこうと思います。

秋葉知里
千葉病院
研修歯科医



120th
Junior Residents



岡澤亮平
自衛隊横須賀病院
歯科診療部
初任実務研修医

現在、自衛隊横須賀病院歯科診療部に勤務し、全麻での口腔外科手術や入院患者の口腔管理から一般の歯科治療まで学ぶ他、月1、2回海上自衛官としての訓練や米軍との合同演習や外部の研修会の参加などもあり忙しく充実した毎日です。歯科医官は一般公募なので全国の歯学部から幅広く人材を採用していることもあり、先生ごとに少しずつ手技が異なっていたりして大変勉強になり興味深いです。(実際指導医の先生にも、各大学のやり方が見られるので長所短所も合わせて幅広くしっかり勉強するよう言われています。)また、水道橋や稲毛まで電車で一本(片道二時間半!)なので部活に顔を出す時に母校にて研修している同期と会い、話を聞き自分も負けられないように頑張らねばと思うことも多々あります。

私の夢はまずは2年間の研修にて「あいつなら任せられる」と言われるくらいまで

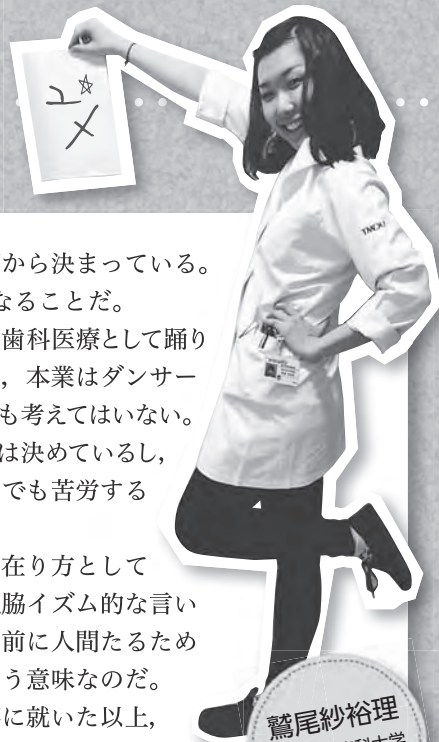
私の夢は大学1年生の頃から決まっている。「踊れる歯科医師」になることだ。

予め断っておくと、私は歯科医療として踊りを提供するつもりはないし、本業はダンサーで副業は歯科……なんて事も考えてはいない。

専門的に勉強したい分野は決めているし、自己研鑽を積むべく買ってでも苦勞する覚悟もある。

あくまでも、歯科医師の在り方としてこの目標を掲げていて、血脇イズム的な言い方をすれば、歯科医師たる前に人間たるために我踊らざるをえん、という意味なのだ。他人の健康を支援する仕事に就いた以上、まずは自分自身が心身共に健康で自分らしくありたいし、一度きりの人生、仕事以外にも夢中になれる何かがあっても良いのではないかな。仕事に精を出しつつも、違う側面から自分を見つめ直し表現する機会を確保する、そんな心の余裕を常に持っていたいものだ。その手段が私の場合はダンスなので、私は「踊れる歯科医師」を人生の目標に今後も猪突猛進していく予定だ。

友人たちよ、万が一、私が飲み会で死んだ魚のような目をして仕事の話ばかりするようになったら、どうか一足のスニーカーを私の目の前に突き出して欲しい。「お前踊れる歯医者になるんじゃないかってっけ？」と。



鷺尾紗裕理
東京医科歯科大学
研修歯科医

しっかりと知識、技術を身につけたいということです。そして艦艇勤務や海外派遣等で活躍したいと思っております。また、海自歯科医官は約45名おり全国の歯科大学から2~3名ずつ集まっているのですが現在、東歯出身者は自分一人なので東京歯科大学の看板を背負ってだれにも負けないよう今後とも研鑽に努めていきます。

さて、東京歯科大学の強みは全国に同窓生がいるということに在学中より伺っていましたが、この半年で東京、広島、神奈川と転々する中、地方で研修している同期や近くで開業なさっている先生方とお会いする機会があり、将来数年ごとに全国転勤を繰り返す歯科医官としてこれほど心強いものはないと感じました。同期の絆、同窓の繋がりを大切に、より強固なものとして続いていけるよう120期桔梗会同窓会長としてもしっかり活動していく所存です。

私は現在富山大学附属病院で研修しています。志望理由は故郷であることはもちろん、ここしかないカリキュラムが自分の理想にマッチしていたからです。当院の歯科研修医は2年間の研修期間が設けられており、うち2/3は歯科(外来・病棟)ですが、1/3は医科研修として救急部、麻酔科等を回ります。2年間を通して多角的に患者の全身管理ができるようになります。

臨床研修が始まり前半年が経ちますが、予想を超える充実した日々を送っております。他の研修医よりも多くのチャンスを得られ、多くの症例を経験できるのもひとえに東京歯科大学で受けた教育の賜物であると痛感しております。

まだ研修がはじまったばかりで今後のことは決まっていますが、地域医療の一端としてお役に立てればと考えています。

山田朗寛
富山大学附属病院
歯科口腔外科
研修歯科医

TDC

歯に問いかけ、体に問いかける

「**国**家試験合格証」を片手に母校(高校)を訪れたとき、「小野瀬、いいか歯だけを診て、人を診ずの歯医者になるなよ」と言われた言葉が、私の上に申し掛かっています。歯を診ることは単に歯を診るだけでなく、その人全体の健康状態も診ることだと思います。それは歯だけが独り歩きをしていないからです。

研修中どここの医療現場を訪ねても、その医療機器の進歩充実とそれを駆使して治療に当たる先生方の真摯な態度と熟練した技には目を見張るばかりでした。そして、そこに至る道のりの容易でないことを学びました。

また、患者さんに満足を与える熟達した医療技術、それにも増してそれを支えている先生方の患者さんへの対応、すなわち、先生方の生き方、先生の文化とでも言ったらいいでしょうか、それへの努力には天井がなく、終生に渡って取り組むべき道だと痛感しました。

未来

諸先生方の高度な技術と知恵と文化を手本に駆け出しの歯科医師として「歯に問いかけ、体に問いかける」を座右の銘としていきたいと思っています。

小野瀬祐紀
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

私が歯科医師を目指すきっかけとなったのは、歯科医師である父と母の存在です。幼いころから父と母が働いている姿を見ているうちに、自然と興味が湧くようになりました。入学後は、歯科の厳しい現状また病院や町の診療所だけでなく介護施設や在宅医療など活躍できる場が広がってきたことを知りました。そして、高齢者が急増するなかで、全身の健康が口腔内のケアに大きく関わっていることを教わりました。今後は、口腔内の健康管理がいかに重要なかを患者に伝えることが必要だと思います。これからは一つの考えに固執せず柔軟に考え、幅広い視野で患者を診ることができ社会のニーズに応えられる歯科医師になりたいと思います。

飯島典子
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

私は、深い知識と質の高い技術を持ち、患者さんの意識を変えることが出来る歯科医師になりたいと考えています。

東京歯科大学を卒業し、研修医として働き始めてから5ヶ月がたちました。いざ臨床に立つと、自分の未熟さを痛感します。学生時代に学んだ知識を臨機応変に引き出し、臨床で結びつけることが必要であると感じます。東京歯科大学で学んだ深く広い知識に自信を持ち、技術面や足りない知識

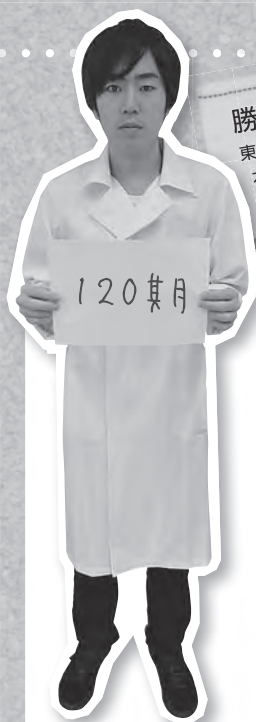
は積極的に習得していきたいと思っています。

また、働き始めて感じたことは患者さんの口腔内への関心が少ないということです。少しずつでも、患者さんが自分自身の歯の大切さを理解できるように働きかけていきたいと思っています。

東京歯科大学の学生であったことと、水道橋病院の研修医であることに誇りを持ち、患者さんからの期待を裏切らないよう精進していきたいです。

大山莉奈
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

dream



勝田将崇
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

120th Junior Residents @ 水道橋

私は将来開業医として地元で働きたいので全部ができる歯科医師になりたいです。そのためにしばらくは都内で腕を磨き技術を身につけ地元へ帰りたいです。また理想の歯科医師像は父なので、父が引退する前に一緒に働きたいという教えてもらいます。

これからの日本の確実な将来像の一つとして超高齢化社会があります。超高齢者社会における理想の歯科医師像は口腔内のケア、歯周病の予防を通じて、地域住民の子供から高齢者までの健康でQOLの高い生活の実現に貢献できる歯科医師です。なので父からしっかりと患者を引き継ぎ、地域住民の信頼を得て、長く続けていける歯科医院を目指していきたいです。

私は今年念願の歯科医師免許を取得し、ようやく医療従事者として携わることとなりました。想像はしていましたが実際の診療では予期もしない様々な事柄が生じるため座学で学んだこと以上の知識や技術が必要となります。また、何よりも如何に患者さんとのラポールを築き上げることが出来るかということが診療していく上で重要であるかを初めて自分の担当患者さんを持つことで痛感しました。私は、実のところ未だ自分が将来

なりたい歯科医師像が定まっていないのが現状です。したがって、臨床研修期間である今を利用し、大学病院・開業医院それぞれ生の医療現場を体感することで自分には将来何が必要で、患者さんのために自分が歯科医師としてどうあるべきかということを見極めていきたいと考えます。



亀井宏和
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

掛川 佑
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

私は水道橋病院に研修医として勤務していて患者さんに話を伺う機会が多いのですが、専門的な先生に診てもらいたくて水道橋病院に来たという話をよく聞きます。水道橋病院は患者さんが多く、先生によっては2ヵ月ほど待っていただくかならないことを説明してもなお診療を希望するのです。人によっては他県から通院することもあります。それだけ専門的な知識と技術を持った歯科医師が必要とされているということでもあると思います。もちろん一般診療を手広くできる歯科医師は地域のかかりつけ医として重要な役割を果たしていますし、なくてはならない存在です。しかし、私は専門的な知識、技術を身につけて将来は地域の住民からも、そして地域の歯科医師からも頼られる歯科医師になりたいと思っています。



研修医として働き始め、半年が経ちました。学生の頃は、日々の勉強をしっかりと行い国家試験に合格すれば、働き始めてもそんなに苦労することもないだろうと思っていました。しかし現実にはそんなに甘いものではなく、治療を行っていてもなかなか今までの知識と噛み合わなかったり、治療自体がうまくいかず時間がかかったりと困ることばかりです。

私は将来、実家の歯科医院を継ぎたいと考えています。ですが、今の自分の知識・技術ではとてもそのようなことはできません。なので、研修を一年間終えた後は大学院生として専門的な内容をしっかりと学びたいと思っています。そこで知識・技術をしっかりと自分のものとして実家に帰り、1,2年は父親と一緒に働きたいです。そして、その後地域の町医者としてその地域にしっかりと貢献できる一人前の歯科医になりたいです。



古賀 瞭
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

120th Junior Residents @ 水道橋

私は現在、臨床研修医として患者さんと向き合い、毎日の臨床が新鮮で、歯科医師としての将来像について考える日々を送っています。そしてこの一年間は、自分の将来像を考える為の大きな時期だと思います。歯科分野としては、一般的な治療から魅力ある専門的な治療まで幅広く経験する事により、将来像はまだまだ決めかねています。ですがどのような治療であれ、歯科医師として患者さんの様々な痛みや悩みを出来る限り取り除き、ご希望には出来る限りの対応ができるような、幅広い技術、経験を持った歯科医師になりたいと思っています。またその中でも何か一つ、自分の興味をもった分野を伸ばし、その分野のスペシャリストとしての技術、知識を身につけていきたいと思っています。



澁谷一貴
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医



北村友里恵
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

私の5年後は、開業医にて一般、外科、歯内、歯周病、インプラントなどをこなせるオールラウンドの歯科医師として働いています。きっとまだまだ力不足の部分がたくさんあるので診療終了後院内に残り同僚達と自主練習をしたり、休みを利用して勉強会に参加し自分のスキルアップに時間を費やす日々を送っています。また歯科医師としてのスキルアップと並行して5年後より先を見据えて院内のマネージメントの勉強にも力を入れていると思います。



小坂尚子
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

東京歯科大学同窓会120周年おめでとうございます。120期生として、大変喜ばしく思っております。今年の春からようやく歯科医師としての第一歩を踏み出し、諸先輩方の仲間入りができたことを嬉しく感じている毎日です。しかしながら当然まだまだ診療はおぼつかず、研修先である水道橋病院の先生方にご心配をおかけしている状態ではありますが、共に働く同期と励まし合い切磋琢磨する日々は私にとってとても充実しています。今の自分にはまだ程遠いですが、いつかは患者さんから信頼され、長いお付き合いができる歯科医師になるのが私の夢です。患者さんの立場に立って原因を考え、共にQOLを向上させていくよう全力で努力する歯科医師になりたいです。



菅谷悠介
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

6年前、この大学を受験し面接を受けた際に「どういう歯科医になりたいのか。」と聞かれた覚えがあります。その時「患者のニーズに応えたい、そのために患者の話をよく聞く歯科医になりたい。」と答えた覚えがあります。6年前の自分は歯科の知識が皆無だったため、そのようなぼんやりとしたイメージしか持っていませんでした。

今年から実際に研修医として働かせていただいているが、患者のニーズに応えられるためには豊富な知識としっかりとした技術が必要であると感じました。

そのため、私は患者の話をよく聞き、その患者のニーズが何であるか考え、また、その患者のニーズに応えられる知識と技術を持った歯科医になりたいと思っています。



鈴木貴子
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

私は今年の4月から水道橋病院で研修をさせて頂いています。実際に自分の患者さんを持たせて頂いて、自分で治療計画をたて、治療を進めていくなかで、少しずつ自分の歯科医師としての将来像が思い描けるようになりました。

元々、学生の頃から高齢者の歯科治療に興味があり、義歯関連や摂食嚥下などの分野を深く学びたいと考えていました。

また、研修医になって色々な患者さんと触れ合い、先生方からお話を聞くなかで、訪問診療も出来るようになりたいと思うようになりました。

将来は訪問診療を中心に、病院に来ることが困難な患者さんに、摂食嚥下などのサポートを含めた幅広い歯科治療を提供できるような歯科医師になりたいと考えています。

歯科医師国家試験に合格し、歯科医師になってから5か月が終わろうとしています。実際に患者さんを治療していく機会が増えてきて、学生時に講義や実習で学んだことの重要性を改めて強く感じています。患者さんの主訴を治療していくのはもちろん重要ですが、これからの歯科医療は口腔だけでなく全身的に診ていかなければならないと思います。また、歯科医師が多く溢れた厳しい状況の中で、患者さんとの信頼関係を築いていくのも重要だと思います。それらを可能にするには、知識や技術であり、コミュニケーションが必要です。歯科医師になったからには、日々勉強し、技術を得るために努力していきたいです。そして、将来地域医療に貢献できるような全身的に患者さんを診れる歯科医師になりたいと思っています。



都丸将史
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医



中農智宏
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

私は今臨床研修医として東京歯科大学水道橋病院と臨床型施設である沼澤歯科医院で働きながら勉強しています。

大学で学んできた事を臨床でいかに活かせるかが楽しみで研修医生活を始めましたが、困難の壁に当たっては自分の未熟さを痛感する毎日です。

未来の私を想像すると期待と不安で胸がいっぱいです。どうしたら成功するのか、何が正しいのか、自分の道をどう決めて歩んでいけばいいのか、考えれば切りが無く今答えを出せと言われても出せません。

ただ一つ言える事は、治療した患者さんが満足して帰っていただけるよう精一杯努力を続けていきたいです。経験もそうですが、勉強も怠らず患者さんの気持ちを第一に考慮した治療ができる歯科医師になりたいです。



瀬口寛子
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

私は、2015年3月に東京歯科大学を卒業させていただきました。今は、研修医として、水道橋病院に勤めさせていただいています。

自分の歯科医師と将来像は、正直なところまだ曖昧です。具体的に、これを極めたいということがまだ、ありません。抽象的ではありますが、1つだけあるのは、「患者さんの希望に沿って納得してもらう治療をしたい。」ということです。そのためには、私自身の技術を上げることが第一に必要だと思います。この残り少ない研修期間でしっかり学んで行きたいと思っています。そして、この研修期間を通して、自分自身の将来像をしっかり決めていきたいと思っています。

未来

西根万純
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

5年後の夢は先輩先生に認めてもらえる歯科医師になることです。今年から4～5年は自分に技術を身につけ、基本的なものをできるようにする期間だと思います。特に補綴義歯に力を入れて学びたいです。義歯を根拠づけて設計し、自分と患者さんが満足するものを作りたいと思います。

その後の夢は歯医者の仕事が続けながら、家庭を持つことです。一度仕事を離れても戻ってこれるように、今からの数年間の努力が本当に大切だと思います。

120th
Junior Residents
@ 水道橋

ユメ

對木将人
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

“生きたい”という気持ちが、現在までの医療技術の発展に大きく貢献してきたということは、広く知られている事ではありますが、これからは“生きやすいように生きたい”という気持ちを追及していく事が、さらなる医療技術の発展をもたらすのではないかと考えます。私が歯科医師として活躍しているだろう平成30年代では、その“生きやすいように生きたい”という気持ちのサポートができるような歯科医師になりたいです。そのために今から患者様一人一人に真摯に対応するという態度を身に付けることだけではなく、新しい技術の発見や習得にも積極的に励んでいきたいと思っています。

時が経つのは早いもので、国家試験に合格してから5ヶ月が過ぎました。水道橋病院で研修を行っている私は、各科を周り終わり、患者を自分で受け持つようになりました。日々の診療に追われ将来の展望を忘れがちでありましたが機会を得たので、将来に思いを馳せようと思います。

診療科の中で興味を引かれたのは口腔インプラント科でした。近年、齲蝕が減少しており患者の口腔内への関心も高まって歯の切削に否定的な患者も多々見かけます。そのため、隣在歯の切削が

不要なインプラントを希望する患者が増えるものと思われます。

ですが、近年インプラント治療による死亡事件がマスコミにより騒がれて、インプラントでトラブルを抱えてセカンドオピニオン目的で当院に足を運ばれる患者も度々見かけます。

このようなインプラントで問題を抱えた患者にも対応可能かつトラブルを起こさないよう正しい知識を持って埋入できる歯科医師になりたいと思っています。

将来自分がなりたい歯科医師像は人それぞれあると思います。例えば、齲蝕の予防や治療を主ににやりたいと思っている人から、補綴治療を考えている人、小児治療をやろうと考えている人もいます。そのように歯科治療には方法も目的も様々ありますが、私は歯科治療は結局患者のためにあるべきであると考えております。ですから、私は将来、どのような歯科治療をするにしても、患者の立場に立てる歯科医師になりたいと考えております。

歯科医師は、常に技術の研鑽と新しい知識を得るために勉強が必要な職業であると考えております。自分が思い描く歯科医師になるために、これからも臨床研修施設にて諸先生方の指導を仰ぎ努力を積み重ねていきたいと考えております。

120
期

服部 力
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

平石裕樹
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

TDC



水永潤子
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

研 修医として歯科医師人生が始まって4ヶ月が経ちました。この短い期間の中で、患者さんと直に接し、覚束ないながらも治療をしていくにつれて、診療の難しさを肌身で感じています。

臨床に出てみて強く感じたのは、基礎疾患を多く抱える高齢の患者を診なければならないということです。

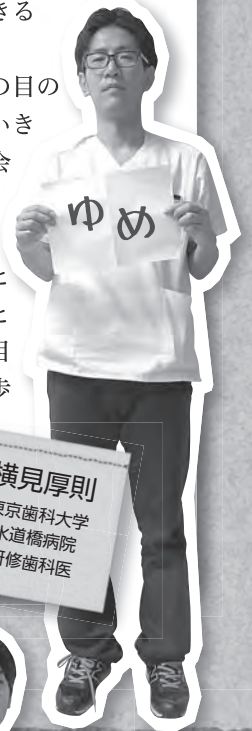
今後、日本が超高齢社会へと向かっていく中で、私は将来全身管理が出来る歯科医師となり、地域医療に貢献したいと考えています。

医療技術はもちろんのことですが、校歌中の『医は是濟生、ひとえに仁なり』という、医療は仁術であるという血腸先生の教を胸に留め、患者さんの心に寄り添うことのできる、常に自助努力を忘れぬ歯科医師になりたいと思います。

私 は将来、歯科医師として、おそらく自分の地元に戻り歯科医業を行っていると考えています。地域の中で、いかに社会に貢献できるか、人々のために働いていけるかを考えて行動できる人でありたいと思います。

そのために、研修医として、自分の目の前にある課題を一つ一つクリアしていきたいと思います。疑問があれば勉強会などにも積極的に参加したいと思っています。

今は分からないこと、できないことだらけで、具体的な目標を立てることが難しい状況ですが、日々精進し、目の前の目標をしっかりとクリアし、一步一步進んで行ければと思います。思いやりをもって、一人一人の患者様と接していける歯科医師になれるよう頑張ります。



横見厚則
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

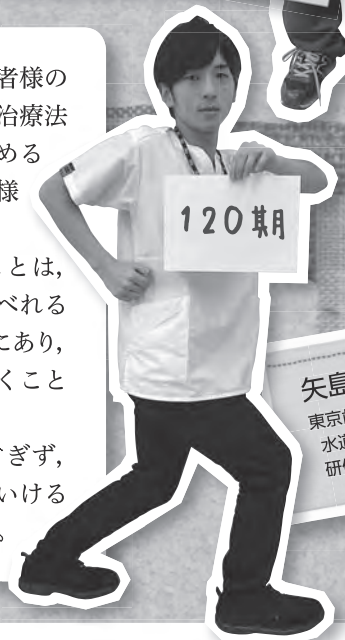
国 家試験を経て研修医になってから5ヶ月が経とうとしています。この1年間で自分が何を学び、どう将来に役立てていくか。学生時代と研修医となった今の考え方とは少し変わってきた気がします。

学生時代の私は、試験に向けての勉強で基礎的なことだけでなく最新の治療法であるレーザーやCAD/CAMなどを多く学ぶことがあったため自然と興味は新しいことへと向いていました。そのため私はこういった最新の治療法を学んでいくことがこれからの歯科治療には重要であると考えていました。

しかし、実際に研修医になり、患者様の治療をしていると患者様は最先端の治療法を求めているというよりは、まず噛める様になりたいという希望が多かった様に感じました。

歯科医師としての治療で大切なことは、まず患者さんがご飯をしっかりと食べれる咬合関係を作ってあげることが基礎にあり、その後に審美的要望などに応えていくことが大事であると感じました。

将来私は審美ばかりに目を向けすぎず、まずはしっかりと咬合を作っていける歯医者に私はなろうと考えています。



矢島広隆
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医

今 年の3月に歯科医師国家試験を合格して、今私は本学の水道橋病院で研修をしています。国家試験の勉強が終わり、4月から歯科医として診療を始めたのですがやはり始めは戸惑うことばかりでした。6年間さまざまなことを学んできていても知識だけでは経験が足りず、実際に手を動かしてみると想像していたよりもはるかに難しいと感じました。これから多くの症例を処置して経験を積んでいく必要があると思います。

これからの自分の歯科医師像は、あらゆる症例に関しても臆することなく自信をもって迷わず診療できるような歯科医師になることです。また、その歯科医師像の根底には患者さんを第一に考えることを忘れてはいけなと思います。患者さんに一言でも「ありがとう」と言われるよう努力していきたいです。



吉田 航
東京歯科大学
水道橋病院
研修歯科医



同窓会創立120周年記念事業 第2回座談会

日 時：平成27年7月13日

場 所：水道橋校舎 南棟6階会議室A

出席者：

120周年記念事業実行委員会

委員長 高橋 利武
副委員長 岡野 昌治
委員 大井 誠一
委員 小林 顕
委員 福田 謙一
委員 諏訪 幸子

講演会講師

吉澤 信夫

同窓会役員

会長 矢崎 秀昭
副会長 宮地 建夫
副会長 浮地 文夫
副会長 玉井 達人
副会長 財部 正治
専務理事 高橋 義一
常任理事 臼井 文規
常任理事 小池 修

広報部広報委員会

委員長 臼田 準
副委員長 福井 雅之
副委員長 山口 雅史
委員 西村 哲雄
委員 横田 東生

同窓会員

松浦 玄嗣

矢崎会長 前回の座談会では幅広い世代の同窓の方々から高山・血脇イズムについて、そしてそれが歯科医師としての生き方にどういう影響を与えているかなどについて、ご自分の体験から種々話していただきました。また、他の大学の卒業生との考え方、生き方などに大きな違いがあり、やはりこれは学生時代あるいは卒業してから、同窓の先輩から東歯の精神として伝承されているという話も多々出ておりました。

これからの同窓会は、旧水道橋で育った世代、千葉校舎の世代、さらに新たに水道橋で育つ世代

と、その世代間の環境の影響が大きく出てくるのではないかと思います。

本日の座談会では、このように大きく変化している状況におきまして、高山・血脇先生の精神をもとに東京歯科大学の同窓会がいかにしたら未来永劫発展し、日本の歯科界において先輩が築き上げてきたこの業績をもとに歯科界に貢献し、さらにその存在感を示していけるかについて、ぜひ話し合っていたきたいと思っております。

高橋委員長 6月号掲載の座談会には非常に反響がありました。非常にわかりやすいということで、

かなりの高得点を得たと思っております。今回の10月号掲載の座談会の後編につきましては「これからの同窓会のあるべき姿」を中心に話を盛り上げていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

座長(小池常任理事) では早速、座談会を始めたいと思います。

高山・血脇先生は今の同窓会をどう見ているのか

小林委員 卒後研修セミナーが先駆的に発足して、しかも先見性を持って今もなお継続・発展してい



矢崎会長



高橋実行委員長



小池常任理事

ること、これについては我が意を得たりと褒めてくださると思います。一方で、たとえば日本歯科医師会や都道府県歯科医師会の会長に東歯同窓が少なくなってきたように、歯科界をリードする人材を以前ほど輩出できてないということを残念に思いになるのではないのでしょうか。また昨今、執行部で努力されていることですが、いわゆる組織力の低下ということについても、嘆かわしく思いになるのでは。

宮地副会長 高山・

血脇両先生から何点ぐらいに評価されるだろうか？ということですので、ではどんな物差しで採点されるのかな、などと考えてみました。高山先生からは高山歯科医学院院友会の発足時の会則の中に書かれている「学術と親睦と歯科医の品位」このあたりが一つの物差しと受け取れる。血脇先生からは「歯科医師である前に人間たれ」というのが採点基準なのではない

- A 高山歯科医学院院友会 明治28年（1895）
会則第一条（目的）
「本会は歯科医学上の知識を交換し、相互の友誼親睦を篤くして、
歯科の品位を高かむるにあり」
- B 建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」に基づく教育理念によって、歯科医師としての知識や技術だけでなく、社会性を身につけ、人間的に優れた良識豊かな歯科医師を養成する「ヒューマニズム」を尊重した歯科大学であり続けることを目指しています。
(大学ホームページ)
- C 歯科医師は、生涯にわたる知識の向上と、共に助け合い人間として高め合ってゆくことが必要で…
(矢崎会長挨拶から)
- D アカデミアの理念
「歯科医師の前に人間たれ」の建学の精神を基本に人間味豊かで、社会性のある人材育成をめざす総合的な生涯研修の場（アカデミア）をつくり、臨床から地域保健、医事に至るまで国手となるための一貫したカリキュラムにそって事業を展開する



か。「歯科医の品位」も「…人間たれ」も根底で同じなのでしょうが、違いを強調すれば、院友会の目的では「歯科医師(プロフェッショナル)としての品位」を高めなさいと言っていて、それと対比すれば血脇先生の「歯科医師の前に…」というのは、歯科医師という専門職種を含む全人的な教養を身につけなさいと一段高い目で見、それを望んでいたのではない

かと思ってみました。

その違いというのは、想像ですが院友会発足当時、血脇先生は25歳、これから歯科という職業の安定化を模索していた時代でした。一方「人間たれ」というのは多分還暦過ぎだったとすると、学生とは父親の年齢差、子供たちに期待する高い望みのような思いが込められている。もう一つは、すでに大正末期にはできれば東京歯科大学専門学校が大学に昇格してほしいというふうを考えていて、社会的身分という意味で大学の教養課程というのが視野にあった。専門課程の前に大学人としての教養を学ぶ、そのことが「歯科医師たる前に人間たれ」というふうな言葉に繋がっていく。

そういった採点基準で今をみる



小林実行委員



宮地副会長

と、院友会の「歯科医の品位を高める」という面では、現在の発展途上・発展過程ということでゲタをはかせてもらえれば及第点ではと思いますけれども、もう一方の「人間たれ」という高い目からは、まだまだ辛い点になるのではないかな。少なくとも今の日本の大学教育では1991年から教養課程がなくなった。せっかく大学になっても進学課程・リベラルアーツというシステムが欠落してしまっただけで、それも及第点をとれない一つではないかと思っています。できれば及第点に向かって進むのが、私たち同窓会のこれからの役割になるはずだと思うのです。

福田委員 もし高山先生と血脇先生が天国から今の我々を見ていたら、現状をどう思われるでしょうか。両名先生とも『歯科という業界が向上し、高い社会的地位を確立してほしい』という願望をお持ちだったのだと思いますが、今どうなったのでしょうか。恐らく両名先生が思っていたぐらいに社会的な地位も上がっているのかもしれないです。ただ、国際的相対的に見ると、日本の歯科医師が社会の中でどのぐらい高い位置にあるかという点、まだちょっと疑問であるような気がするのです。それを高山先生、血脇先生が天国からど

う思われているのかなと思います。

二つ目は、東京歯科大学が業界をリードしていったほしいということは多分思っていると思うのですが、さっき小林先生もおっしゃっていたように東京歯科大学の同窓会で歯科界をリードする人材がどれぐらいいるかというと、どうなのでしょう。数の論理で負けているのかもしれないですけど、ただし逆に考えると、東京歯科大学以外の人たちがたくさんあらわれて業界が大きくなってきたというふうにもとれるので、それを高山先生や血脇先生は、業界の発展と解釈されるかもしれません。院友会ができたころは恐らく院友会しかなかったのだと思うのです。業界の中で、です。すから、業界が随分大きくなったというふうに思われるかもしれないですね。

あとは東歯らしさということに関しては、これだけ時代が変わって29も大学ができたのに、まだ同窓会が東歯らしさを持っているというのは、僕はある種、奇跡に近いんじゃないかと思うので、まだ我々のイズムが残っているなど微笑ましく思われるのではないのでしょうか。

座長 どうもありがとうございます。「高山・血脇先生は今の同窓会をどう見ているのか」の質問に、今、お三方からいろいろ意見をいただきました。大方及第点という評価のようですが、「リーダーたる人がいない」、「教養の部分がちょっと」、「歯科医の評価は」、「人材育成がこれからの課題」との指摘もいただきました。

では、同窓会はこれからどの方向に進めばよいかの話に移りたいと思います。

同窓会の進むべき方向

宮地副会長 これからの同窓会の役割について考えるとき、よく矢崎会長が発言する『歯科医師は生涯にわたる知識の向上と、共に助け合い人間として高め合っていくことが必要だ』という言葉がそのまま、同窓会の役割の柱になると思います。つまり同窓会の役割は、ひとえに“人材育成”にかかっている。教えるというより、共に高めあっていくという意味の“人材育成”です。普通の会社ですと人材育成というのは手段であって、会社の繁栄というのが目的でしょうが、同窓会にとって“人材育成”は手段であると同時にあるいはむしろ目的そのものと言えるのではないのでしょうか。

そういう考えの基でこの3年間検討してきたのが“人材育成”としてのアカデミア事業です。母校のアドミッションポリシーでもある「歯科医師である前に人間たれ」、専門性の向上と同時に品位のある教養豊かな人材育成が、アカデミアの方向です。今までの卒業後研修セミナーに比べると、もう少し視野の広い事業を展開していきたい。まだ模索中というところもありますが、“人材育成”という目的をしっかりと見据えて次の世代を巻き込んでさらに検討していきたいと思っています。では“人材育成”とは具体的に何をさすのかという質問をよく受けますが、前回の座談会で話題になった“血脇イズム”が“人材育成”の鍵に



福田実行委員

なるのではと思っています。

吉澤先生 まず最初に挙げたいと思うのは、先進性だと思います。これは積極性と言ってもいいんですが、横並びに満足しない。そして、時代の一步先を行くという姿勢が東京歯科の歴史の中にずっとあったように思います。血脇先生の書いたものに「蕎地蕎進」なんてすごいがありましたけど、そのようなものであらわされるまでもなく実績としてかなり先進的なことをやっていたのですから。

その次は国際性だと思います。この国際性というのは近年、グローバル化という言い方が言われていまして、いいにつけ悪いにつけ医療も教育もアメリカナイズされてくるその波に対して、果たして東京歯科が、あるいはその卒業生と学生が対応してうまく乗り切っていけるかどうかというのは、大きな課題です。具体的に言えば、必須条件の一つは語学力みたいなものだろうと思います。これは福田先生も先ほど、日本の中での評価はともかく、国際的な評価となったら東京歯科の場合どうだろうかということを言われたんですけども、そのためにも、やはり若いときから語学力を身に付け、そして外国からやってくる連中と十分渡り合えるよう

な、あるいはこちらから出かけていくというような積極性が必要なんだろうと思います。

あと残りの2分、3分かもしれませんが、「茶目で暮らせよ」というのがありました。やはり何かそれがないと、先ほどの人間性だとか教養だとかといういろんな余裕もなくなってしまうのかなと思います。東京歯科の卒後研修の中に、落語家呼んで口上をやってもらうとか、あるいは正統派なら漫才でもいいのですが、

『粋』というものは何であるとか財部先生が非常に詳しいわけですけども、そういうプロデュースを同窓会がやってみてもおもしろいかなと思いました。

浮地副会長 血脇守之助先生が日本の歯科医師会の創成期から、間に少しほかの先生が入りますけれども、第二次世界大戦が終わるまで会長を務められてきた。なぜこれだけの長い間、歯科医師会とかかわりをもち育ててきたのか。そこにはやっぱり血脇先生の、歯科医療というものを、自分たち歯科医だけによる歯科医療ではなくて、国民のための歯科医療にまで立ち上げていこうとした意識があったのではないかなという感じがしています。我々の保険制度のみならず学校歯科医会の育成に

も尽くされたというような話も伺っております。歯科医療というものを日本の国民の中にどうやって根付かせようかと一生懸命やりになってきたと私は思っております。

今度、アカデミア構想の中には社会保障制度研究委員会というものを持ち上げてもらいました。歯科医としての歯科医学の知識だとか技術だとかのみならず、我々が学んできたものをいかにしたら社会に還元できるかというところを研究するのが社会保障制度研究委員会の役目だと考えました。やっぱり社会保障制度全般についての知識を育てていかないと、これからの自分たちの歯科医療を初めとした医療というものを考えられないと思うんです。私は若い先生方に参加をしていただきたいですが、これは東京歯科大学の同窓生でなくてもいいんですけれども、社会に向かって社会保障制度について発言できる人たちが育ってほしいなと思います。そういった意味で今後この同窓会がそういった方向にも一つ歩んでいただければ、ありがたいなと思います。

玉井副会長 私は、歯科界とは関係のない家庭から東歯に入学しまして、進学課程、学部、クラブ活



吉澤先生



浮地副会長



玉井副会長

動、同窓会の役員などを通してとても多くの事を学ばせていただき、このまま年を重ね、歯科医師になってよかったなという人生を全うできるのではないかと、自分では思っております。そして若い先生方にも、東歯を卒業し同窓になってよかった、患者さんが「先生に診てもらってよかった」、「また診てもらいたい」という歯科医になっていただきたいと願っております。しかし昨年の歯科医師年間所得は、医師との間で400万円以上の格差があります。東歯の伝統「歯科医師たる前に人間たれ」の歯科医師人生にあこがれて、自分の子供が後を継ぎたいと言ったとき、今後の先生方は東京歯科大学の学費を出してやれるでしょうか。衣食足りて礼節を知るという言葉もあります、歯科医になれば家の一軒も建てられ老後は安泰と言える時代ではなくなった今、同窓会は、TDC アカデミアは、歯科界そして会員のため何をすべきなのか、何ができるのかを考え、実践し次の世代に継承して行ければと思います。

財部副会長 明治の時代と比べると、女性の歯科医師がこれだけ人数がふえている。歯科医師全体の数も明治時代とは比較にならないほどふえてきている。時代による変化を考えると、診療形態自体も今後、今までと大分変わってくるのではないかと、あるいは歯科の守備範囲も今後さらに検討されてくるのではないかと。血脇先生は存命中にここまでの変化を予想できたかどうかはさておき、指導する立場の、人材の育成が必要だというようなお考えが、殊さら必要に

なってくるのではないかと思います。

単に東京歯科大学の人材育成として同窓の中から多くの優秀な人材が輩出されることはもちろん重要だろうと思いますが、同窓会の垣根を越えて日本全体の歯科医師が品位、あるいは人格の向上がさらに必要になる。そのため指導的人材も東京歯科の中から出てほしいと血脇先生は考えておられると思います。

座長 ただ今、5人の先生に聞きました。まとめてみますと、やはり人材育成が表に出てきます。ただし「純粋によい歯科医をつくってほしい」、「先進性と国際性をもってほしい」、「歯科医たる前に人間たれ」、アカデミア構想を通じた専門性の前に教養部分の必要性、リベラルアーツの必要性もありました。さらに、社会性を持ち社会の中で発言できる人、制度について発言できる人の育成もありました。ただし、これらは東京歯科とか枠を狭めることなくバリアフリーで歯科界全体にその考え方を広めていくべきとの意見もありました。明るい明日が見えてきたところから、委員の先生方から、「同窓会へ期待するもの」についてフリートーキングをしていただきます。



財部副会長

フリートーキング 「同窓会にやって もらいたいもの」

●若い人を育てるシステムを！

大井委員 時代の変化を感じつつ、アメリカに渡って、血脇先生ご自身が歯科治療を受けることにより、日本の歯科の治療と当時のアメリカでの治療との差にカルチャーショックを受け帰国した。その後、血脇先生は歯科医療の質の向上を欧米並みに持って行こうと努力をしたが、それと同時に歯科医たる人格の形成と、歯科医療の社会的地位の向上を目指していたと思います。

将来の同窓会について、同窓生の基本となす、ものの見方や考え方は血脇イズムの精神が根底をなしていると思いますが、その人物形成は初期の大学教育での期間であり、そして臨床に接してからの確かな知識と技術力、また歯科界の社会的向上を目指すところの人格を形成するのが同窓会と考えています。

●エネルギーをもって進め！

岡野副委員長 多くの歯科大学が存在する現在、特定の同窓会という視点ではなく、歯科医療を担う我々歯科医師一人一人が、しっか



大井実行委員

りと志を持って日々の臨床に向かうことが大切であり、多くの歯科医師がそのように考え日々の臨床に取り組んでいることと思います。同窓ということではなく、歯科医学、歯科医療を担う者たちがその役割を十二分に達成していくこと、それが一番大事なのではないかと考えます。その中で東京歯科がリーダー的な役割を担うことができると願うところです。高山先生、血脇先生の熱い想いと情熱を同窓の後輩たちに伝えていくことが望まれます。しかしながら、現実問題としてはかなりのエネルギーを持って進めていかないと血脇イズムというのは伝えられないのではないかとことを危惧しています。

●そばに優秀な人がいたら 応援せよ！

西村委員 血脇先生の様な凄い先生がこれから歯科医界に出てくるかどうかは、わかりませんが、現在優秀な先生はいっぱいいらっしゃいます。例えば各学年に本当に優秀な先生、そして教授になり、もしくは海外で活躍しているような先生が必ず2～3人、4～5人いらっしゃるわけです。その先生方を同級もしくは同窓の先生たちがいかに支えていくかというのが非常に大切なのかな。少しで

も力になれるように、同級生、同窓生を支えていくような潤滑剤みたいなものになればいいのかなというのは思っています。

●歴史を超えろ！

情報、会員参加システム、
新歯科ジャンルの開発だ！

臼田委員長 福沢諭吉が『西洋事情』という本の中で言っていたのですが、考え方の転換とか発想の自由さを持つことが重要なのです。いま考えるのは血脇・高山を超えなきゃいけないんじゃないかと。

また会員にできるだけ情報と知識を与える必要がある。まずは知ることから会員自らが変革していく。それともう一つは、会員個人ができるだけ同窓会に参加できるシステムを作り、自分が言ったことが認められる、また自分が言える機会が得られる。そうすると、同窓会に対して自分の存在感が増し、それにより同窓会に対しての考え方も変化するのではないかと思います。そういうようなことを地道にやってもらえたらいいかなと。

あと一つは、さっき言った新しい考えでいけば、新しい歯科医師をつくる。例えば口腔外科医がいれば、口腔内科医があってもいいだろう。また医療ナビゲーターみ

たいな資格があってもいいんじゃないか。そういう意味では、そういった新しい発想のもとに新しい歯科医師、歯科医の職、歯科医のジャンルというか、そういったものを見つけていく。そういうことを考える組織であっていいかなと思います。

●新しい歯科の仕事は

地域の中でみつけれられる！

福田委員 強いて言えば、医院解決型から地域包括医療になってきて、恐らくこれから超高齢化社会に向かって、歯科全体でいろんな多業種（他業種）と仕事を一緒にしていかなくちゃいけないという時代になると思います。例えば医師とも看護師ともケアマネとも弁当屋とも、様々なコミュニケーションをとっていくのが大事だと思います。弁当屋の宅配のおばさんなんかが一番よく知ってるらしいんですね、在宅で寝たきりのおばあちゃんの口の中のことは、歯科医師よりも誰よりも。逆に言うと、歯科医のほうが医師より知っている部分もたくさんあると思うのです。それをもう少しアピールできるような歯科の中の仕事というんですか。それを歯科の新しい業種と言っているのかどうかかわからないですけど、それはもう〔日常になってor実情を担って?〕きて



岡野実行副委員長



西村広報委員



臼田広報委員長

ますよ。と僕は思いますけど。

●全国の**驀地驀進同窓の背中を**
オンデマンドでみせよう！

宮地副会長 アカデミア事業を検討していると、経団連でのTDC卒後研修セミナーのときに先輩から学んだことが頭に浮かんできます。教わったのは四つの基本姿勢で、一つは先見性、今なにが必要なのかを見抜く選択性、系統的に学ぶ姿勢、そして知識を消費していくのではなく蓄積性だと。それをそのままアカデミア事業に転換できるのかなと思っていたのですが、そうではないことが分かりました。アカデミアの目標が人材育成だとすると、人材とはなにかということになる。先の4つのキーワードは実は卒後研修セミナーの方略・戦術だった。先ほど吉澤先生のお話に出てきたように、先進性だとか国際性だとか、そういう“人材”というイメージを固めることがスタートで大切なだと気づきました。

そこで前回の座談会で「血脇イズム」には主張部分と主義部分があるだろうと言いましたが、人材育成の人材はその主張部分ということになる。そして各自多様な目指すべき道がある。それをアカデミア構想の中で絞り込んだり、限定したりするのはおかしい。そうすると、もう一方の主義が表に登場する。血脇イズムでは何に対しても驀地驀進、一生懸命やりなさい。それと同じように、何にという主語部分を絞り込まないで、アカデミア構想の拠って立つところはこの驀地驀進、一生懸命という血脇イズムではないか。私たちの同窓会には全国に多方面で長い

間、驀地驀進一生懸命に取り組んでいるそういう先輩が多数存在する。最近では、パソコン環境があればオンデマンドに情報交換が可能になった。驀地驀進という血脇イズムの実践者の姿を、若い後輩たちに伝えていく。それがアカデミア事業の基本的な理念としてはどうだろうか。そんなことを考え、120周年記念後の次なる一步を期待しているところです

●一生懸命の仲間を応援しよう！

西村委員 同窓会で活躍している先生もそうですし、大学で活躍している先生もそうですし、あとは世界、グローバルで活躍している先生なんかもいらっしゃいますし。あとはそれぞれ企業と「それぞれ？」研究している先生もいらっしゃいますよね。僕ら開業医はそういう先生方のお役に少しでも立てるように、例えば何か研究した材料があれば、それを僕らで支えて使うとか、大学の先生でしたら講演に呼んで勉強を教えてもらうとか、そういったそれぞれ僕らにもできるようなことがあると思うんです。そういうふうにな一生懸命頑張っている先生を開業医である僕らが支えるという、そういうことができればいいなと思います。

●情報は双方向性なのだ！

浮地副会長 それから、同窓会の組織というものが、今、本部から支部に流れる情報というのはあるんですけども、支部から反対に上がってくるような情報というのは非常に少ないような気がするんです。ですから、本部から支部、支部から本部というような、あるいは学年代表から本部というよう

な、そういったような情報の双方向性というものがもう少し頻繁に行われるようになれば、隠れた逸材といえますか、そういった人たちのピックアップにもなるんじゃないかなという気がしました。

●全員同窓会（支部）に入る

仕組みにすればよい！

横田委員 僕らの学生のころはクラブ活動や学園祭など、横のつながりだけでなく縦のつながりが強く、それらから多くを学んできました。現役の学生さんは自分のころに比べて国家試験も難しくなって「勉強勉強」と言われちゃうんで、クラブや学園祭などへの参加が減ってしまい、結果そういった上下のつながりがどんどん減ってきていると思います。その点で同窓会は「縦のつながり」に有利なので、その面で協力していければと思います。

やっぱり今の若い世代、僕らぐらいから下の世代は同窓会に入っていない人間が多いようです。誰々が入っていないとかそういうんじゃないで、もう全員入ってしまえばいいことなので、卒業したら全員同窓会に入るようなシステムが変えてみたらどうでしょうか。

●ホットラインをつくったら

いかがか

松浦先生 歯科医師国家試験が難



横田広報委員

関になって久しいですが、横田先生が仰るとおりで試験勉強に専念する結果、縦の繋がりが減っているのは事実だと思います。私は学生時代、学園祭実行委員会や学生会、部活動に専念していたので、今でも後輩の先生方からよく相談を受けますが、やはり若手開業医の先生は悩んでいる方が多いのではないのでしょうか。今は開業医にとっては厳しい時代です。つまり、食えない歯医者が増えていきます。ところが相談する相手がいない。苦しい経営の中で、怪しいコンサルタントに相談して、結果自分の思い描いていた仕事と全く別の事をやっている。そんな先生がとても増えていると思うんですよ。

技術や学術のスキルアップは、今やインターネットもありますし、本や学会など日々の研鑽で補えますが、開業や経営能力のスキルアップはなかなか難しいのではないかと。そこで、開業医相談ホットライン的なものが必要なのではないかと最近考えます。

横田先生が仰っていた、「縦の繋がりがだんだんなくなってきた」というのは、我々より十歳も下の方だと、ほとんど先輩後輩のつながりが無いみたいな話もよく聞きますし、それが同窓会に出て



松浦先生

こないという話にも繋がっているのだと思います。我が校は日本一の歴史とOBを誇るわけですから、そこら辺のホットライン的なことをちょっと考えていただけたらと思います。

●同窓は家族、家から遠くにいても一報を

小林委員 私たち東京歯科大学卒業生は皆、同窓会会則第5条に終身会員と規定されています。卒業したら全員、永遠に会員なわけです。これは家族と同じですよ。家族の中にはできのいい者もいればそうでない者もいるし、引きこもりもいるかもしれない。家出した者もいるかもしれない。そういう世界なのだろうと思うのです。ですから、一族の名前を高めるために社会の最前線に出て、脚光を浴びて活躍してくれる家族も応援したいし、そうできない家族も支えてあげたい。家族として皆で一緒に生きていける、同窓会はそういうところであってほしいし、いつでも帰ってこられる場所であってほしい。そういったことを同窓一人ひとりが、特に脚光を浴びている方々に、あるいは指導的な立場につかれた方々に、ぜひその視点を持っていただきたいと思います。家出した者はなかなか帰りづらいですよ。そこはやはり、いつごろ帰ってこられるのか、電話一本よこせというのではなくて、逆にこちらから捜しに行きあげてくれるぐらいの、そういう気持ちを同窓一人ひとりが持つ会であってほしいと思います。

●若手ネットワークに もうひと工夫！

山口副委員長 若手の先生方への

バックアップという点につきましては、平成24年より若手ネットワーク委員会が事業推進部中に設置され、将来における「歯科界のリーダーの育成」を目指して様々なプロジェクトを企画運用しております。

例えば、皆様からの様々な質問や悩み（研究、臨床、病院見学、就職、開業など）があったとして、同窓会WEBページの若手ネットワーク MailBox からアクセスしますと、全国各支部の「若手ネットワーク担当」の先生方から直接お答えいただけるシステムを既に稼働しております。また、学術・保険・情報に関する無料セミナー「若手支援セミナー」も企画開催しています。

ですから同窓会として、卒後の先生方に対する様々な方法でのアプローチは既にされているのではないかと思います。

今後はさらに徹底した周知をはかり、多くの先生方がそれぞれに必要な情報を利用していただけたいと思っています。

●横のネットワークもすごく大切
諏訪委員 同窓会は卒業する時点で必然的に入会となります。ただ十分に機能しているかという疑問を感じます。開業後に相談する宛がないようなケースで、山口先



山口広報副委員長

生がおっしゃったような若手ネットワークがあるということも今初めて知りました。そういうことを今以上に周知し、機能させることで役割を担っていただきたいです。

このような縦のネットワークもありますが、横のつながりに後押しされた自身の経験があります。神奈川歯科大学大学院の矯正科に所属し、数年研究を進めていた頃です。大学病院内ではn数に限りがあり、そんな折にご縁あって、都内の歯科医師会の先生方が協力しようと言って下さいました。当時の地区歯科医師会会長をされていた東歯卒のOBから「君も東歯か」ということから話が広がり、熱心でパワフルに学校歯科医会、教育委員会、養護教諭の先生方に働きかけていただき、n数が4000近くのフィールドワークに発展しました。横のネットワークで同窓の先生方のお力に助けていただいた一例です。

●広報部としてネットワークを 拡大する役割を強く感じる

臼田委員 同窓会での役割として広報を担当していますが、今、諏訪先生のお話を聞いて、そういった同窓のエピソードを今私も初めて聞いたように、同窓のほかの先生方も知らないわけですよ



諏訪実行委員

ね。地域で活躍している同窓の先生の功績だと思うんですが、そういったものを、地道なんです、取り上げながら全国に紹介していくということが必要だと思いました。その結果こんなこともできるんだと多くの人が思っただければ、我々広報としては非常にありがたいことだと思っています。その方法としては会報誌がありますが、この先はやはり新しい方法で届けていく必要があります、Facebookやホームページを使いながら、また先ほど浮地先生がおっしゃったように、双方向によって進められればと思います。

●オンデマンドによるネット

配信を利用し全国同窓へ

福井副委員長 先ほどのセミナーを配信するという話に関連してですが、会員の皆さん一人一人がセミナーを受ける権利があると思いますし、地方にいてなかなか出てくることが難しい方に対してこれからやる120周年の記念式典などネットで配信をして、地方にいても見ることができるということもやっていってもいいんじゃないかと思うんです。

●もう一つ、これだけは付け加えたい！

福井副委員長 将来についてを考えてみたのですが、先日訪問した野口英世記念館で大正13年に野口英世から大学に贈られた「高雅学風千古に徹す（高雅学風徹千古）（高貴な学風は永遠に続くであろう）」の書をみたとき、開校から僅か20年位で野口英世博士が東京歯科の学風というのは高雅、気品が既にあり将来永遠に続くであろうと予言していました。それがその

後90年以上たってもまだ続いている。それはやはり「君たちは品があると言われているんだよ」ということを先輩達が引継ぎ伝えてきたことで、この一つだけでも後輩に言い続けてほしいと思います。

座長 出席の先生からの大方ご意見を伺いました。最後の締めと言いますか、矢崎会長にまとめていただきます。

矢崎会長 最も大事なことは、やはり母校であります東京歯科大学が発展して行くことだと思います。また同窓会としましては、できるだけ大学の先生方と意思の疎通を図り、歯科医師としての人生観、あるいは歯科医療に対する価値観の共有を図ることが、同窓として必要であると思います。今までも話が出ておりますけれども、以前は親子代々同窓である方が多かったのですが、最近は初代の方が大変多くなってきておりますので、そのためにはやはり大学の授業の中で血脇イズム等を教えていただくとともに、この120年で培ってきた先輩の東歯らしさというのを、同窓会としても学生の時代から強力に伝えていくという必要性を感じております。

先ほどから言っているように、年々、各支部に加入する会員が少なくなってきております。しかし



福井広報副委員長

ながら現在、全国の各支部に招かれて出掛けていますが、現在、大変活発に活躍している支部が多数あります。何とかこの様な支部活動が継続されるよう、若い先生方が各支部に入会するように、同窓会としての活動をさらに強力に進めていきたいと思っています。

同窓会としてはホームページ、あるいは情報のネットワーク等を通じて各支部との連携を図るとともに、また支部だけではなく、先ほど話が出ていましたように、特に若手の会員の相談や、あるいは個人との連携を図れるように、双方向性を持つシステムを何とか構築して、今度とも会員との連携を密にしていきたいと思っています。

今日の座談会は、今後の同窓会の運営上に大変参考になり、ぜひこれを生かして、将来の同窓会のあり方、あるいは個人と同窓会の

つながり、連合会や、各支部とのつながりを構築していくことを検討していこうと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。(拍手)

座長 本日はお蔭様をもちまして素晴らしい座談会を開くことが出来ました。大変よい話が多く、全同窓に伝えたいし、また高山先生、血脇先生にも伝えたいと思います。最後に閉会を同窓会創立120周年記念事業実行委員会副委員長の岡野先生にお願いいたします。

岡野副委員長 皆様、大変ご苦勞さまでした。今日、非常に多くの具体的なご意見を伺うことができ、とても有意義な会であったと思います。未来に向けて多岐にわたる建設的で有意義なお話ばかりでした。同窓会本部を担う方々には大変とは思いますが、今後の活動の参考となるテーマが多数得られたことと推察いたします。皆様どうもご苦勞さまでした。ありがとうございました。

(企画運営編集 広報委員会、高橋専務理事、白井常任理事)



高橋専務理事



白井常任理事



横浜検疫所 旧細菌研究室をめぐる野口英世、血脇守之助

神奈川県支部連合同窓会 渡 邊 宇 一



横浜市の南部，東京湾に近い金沢区長浜に横浜検疫所旧細菌研究室がある。ここは野口英世が1897（明治30）年，血脇守之助先生はじめ多くの人々の協力を得ながらようやく医師免許を獲得し，高山齒科医学院，順天堂病院，そして北里柴三郎博士の伝染病研究所と職場を変えた後，1899（明治32）年，北里博士から新しい働き場所として推薦されたところである。そしてここでの功績が認められ，初の外国赴任のチャンスをつかんだ

思い出の地である。

建物はその後関東大震災で倒壊したが，現在は当時の面影を模して復元保存され，日本に現存する唯一の野口英世ゆかりの研究施設として貴重な存在になっている。

明治中期，わが国では外国との交流が盛んになるにつれ検疫の重要性が認識され始めた。今は埋め立てが進んだが，かつてはここからすぐ先は海で，沖合に停泊中の外国航路の船に小舟で乗り込み，船舶の検疫を行い，伝染病患者の有無を調べることがこの検疫所の防疫上の重要な業務であった。

海港検疫医官補としてここに赴任した野口英世は，その年の9月，折しも横浜港に入港しようとしていた「アメリカ丸」の清国（中国）人乗員2名から，検疫所初となるペスト患者を発見し隔離するという成果を上げた。当時清国の牛荘ではペストが蔓延していた折りであった。国際予防委員会から内務省を通じて牛荘への医師派遣要請を受けた北里博士は，ペスト患者発見の功により，野口を一行



緑の木々に囲まれて建つ旧細菌研究室の外観と内部の様子。

に加えた。ところが十分すぎる支度金が支給されたにもかかわらず、これまで高利貸にかなりの借財があった野口は、その取り立てによってたちまち無一文になってしまった。友人たちもまたかと呆れて相手にしなかった。そこで頼るのは恩師の血脇守之助先生であった。

野口英世没後10年ほど経た1937(昭和12)年、血脇守之助先生は、雑誌「婦人之友」9月号に、「子供のための新偉人傳 野口英世」として野口英世の伝記を寄稿した。そのなかで血脇先生は野口を、「極貧の家に生れ、學歴としては僅かに高等小學校を卒へたのみであり、大火傷を受け不幸な運命を負ひながら、持つて生れた天才と常人の及び難い忍耐と努力によつて獨學自習、一步一步運命を克服し開拓していつたことはまことに驚歎すべきこと」と紹介している。そして、清国派遣当時の経緯をこう記した。

「ところが例の浪費癖で出立前に旅費の大半をつかひ込んでしまひ、いよいよ出立といふ時には、一銭もないといふ始末。私は妻の着物を質に入れて十五圓借りて彼に與へたが、さすがに彼はそのう

ち五圓だけ持つて、やはり私が與へた古靱と赤毛布をかゝえ、夏服のみ、悄然と立つていつた」。

野口が清国へ出発したのは10月だったので、夏服姿がよほど寒そうに映ったのであろう。そして古靱と赤毛布とともに、「世の中は五分の真味に二分俠氣 あとの三分は茶目でくらせよ」と、歌を贈つて清国へ送り出した。この歌が詠まれた背景にはこのような事情があった。血脇先生はこの歌が気に入ったとみえ、後年折に触れ随所で披露し、血脇語録として最も有名なものの一つになっている(同窓会報400・401号参照)。

さて野口は牛莊へ赴くが、清国の社会情勢が悪化したために、早々に帰国。翌年、野口は悲願とも言うべき米國行きを実現させるが、ここでもまた生来の放蕩性と浪費癖のため、出帆前に横浜随一の貸座敷「神風樓」で大散財し、無一文。またまた恩師血脇先生のもとを訪れる。

再び血脇先生の著によると、「出帆の数日前、彼は友人達と送別の宴をくみ交したが、その折、またまたあれほど苦心した渡米費を一夜のうちに費ひ果してしまつたのである。あまりのことに一時は腹



も立つたが、怒つたところで金が返つて来るわけではない。出帆は迫つてゐる。已むなく自分は生れて始めて高利貸から三百圓の借金をして彼の渡米費にした」と記されている。

このような野口を血脇先生は同著で、「異常なまでに努力家であつた彼が、而も貧困の家に育ちながら、ひどい浪費癖をもつてゐたといふのはどういふわけであらう。(中略)こゝに書くことを憚るやうなところにも出入した。さうしてせつぱつまつては私の所に無心に来た。また小學校時代の友人にも度々借金した。私の周囲のものは、あんな不品行な男に際限なく學費をつぎこむのは馬鹿げて



長浜ホールの正面観。



現役の横浜検疫所。入口にスピロヘータの螺旋構造をイメージした野口のモニュメントが建つ。



長浜ホール玄関の等身大写真。

みると度々忠告してくれた。しかし私は、彼を信じてみたのでそれ

らの忠言を聞き流した」と記した。

更に「血脇守之助傳」には、野口に対する思いを「人それぞれに、おのずから異なった天分がある。如何なる潮流に処しても、学徒の本分を守ってよく学ぶものには批難すべき理由がない。野口は稀代の天才児で、これを型にはめすぎて一律にすることは、彼の天分を大成させる所以ではない」と大いなる囑望の言とともに書かれている。血脇先生の野口に寄せる信頼は絶対的なものであったようだ。

旧細菌学研究室は野口英世の数々の輝かしい業績を讃え、今なお静かに緑に囲まれて建ってい

る。ここに佇み血脇先生や野口先生の活躍した時代に思いを馳せ、往時を偲ぶのもまた一興である。

旧細菌学研究室の左隣には、長浜ホールがあり、玄関には等身大の野口英世の写真が飾られ、入館者を出迎えてくれる。そして館内には野口英世ゆかりの品々が陳列、展示されている。

右隣は、輸入食品の検疫を行っている横浜検疫所で、こちらにも門扉脇に野口英世のモニュメントが建つ。現役施設なので通常は立ち入れないが、年に1回公開日があり、内部の旧施設を見学することができる。



長浜ホール内にある展示物の一部と庭の自動販売機。

3つの胸像

<高山紀齋先生之像>

岡山県支部 広報部

明治43年12月12日は高山紀齋先生60歳の誕生日でした。今から実に105年前のことです。この日は師走には珍しく小春日和で快晴，風もなくまるで天気まで先生の還暦を祝っている様でした。永年にわたり先生から薫陶を受けた大勢の歯科医師が全国から集い，水道橋畔の東京歯科医学専門学校にて銅像の除幕式が華々しく執り行われました。校舎の正面には紅白の幔幕を張りめぐらし，万国旗がはためいて奏楽が流れる中を来賓約200名，生徒約400名が参列。やがて拍手に迎えられて高山紀齋先生，愛子夫人，長男の基さん，長女の寿子さん，続いて岳父の森山 茂氏が入場。おもむろに血脇守之助校長がこの度の銅像設立の経緯を説明して，榎本積一先生が式辞を述べ，やがて御子息の基さんが除幕をすると冬の青空に凜と聳え立つ様に銅像が現れ，拍手と万歳の声が水道橋に響きわたりました。



高山紀齋先生胸像除幕式会場



除幕された胸像と還暦を迎えられた高山先生（中央）

初代，高山先生銅像

この「高山紀齋先生之像」は日本のロダンと称された朝倉文夫氏の作で，現在の高山胸像（約65cm）と比べると相当大きく，高さは約90cm位でしょうか。製作に先立って像を設置する場所は当然重要で屋外か屋内か，時代の要請や依頼者の意向によりサイズや表現法は変わります。明治43年といえば日露戦争が終って国内は戦勝ムードに満ち，軍神の像をはじめ銅像建立が盛んな頃でした。路面電車が走り水道橋駅そばで通行者も多い白山通りに建てられた初代高山先生像は，高さ約3mもの高所から睥睨しており髭も立派で厳めしく肩も張り，まるで聳え立っている様でした。最初この像を一目見た愛子夫人はすぐさま“少し顔がキツイ”と評されていたと伝えられています。歯科学報の記事には一先生の半身銅像は温容の裡に崇高の威を堪えつつ森厳，自ら襟を正さしめたり—とあります（16巻1号）。“崇高の威を堪え”た結果少しキツイ表情になり夫人の不評をかったのかも知れません。



初代高山先生胸像

当然胸像製作にあたって彫塑家は，60歳を前にした高山先生を直接モデルとして繰返し写実に，そして先生を精神性を籠めようと努めた事でしょう。作ったのは朝倉文夫が27歳の時で，ちょうどこの同じ年に氏の最高傑作といわれる「墓守」を発表，まさに油の乗った時期の作者によって作られた「高山紀齋先生之像」であったわけです。叶う事なら先生の魂をも写し取ったとも思われる朝倉作品を直接この目で観てみたかった。そして現在の像と比べてみたかったものです。朝倉文夫は明治16年大分県生まれの彫塑家で，ライバルと称された高村光太郎と並んで日本美術界の重鎮でした。昭和23年に文化勲章授章，自然主義的写実描写に徹した精緻な表現姿勢を一貫して保ち続け，精力的に製作し全国各地に数多くの像を残して昭和39年に81歳で亡くなりました。

この記念事業の発端は高山紀齋先生が還暦を迎えられるにあたり何かお祝いを…という話が持ち上がり、長崎で開業の門下生一松添廣太先生が銅像設置を発案、これに血脇守之助先生も賛同し世話人を引き受けた経緯があります。明治43年5月1日付の歯科学報に「高山先生銅像建設につき醸金募集」の広告が載りました。その結果、全国より230名が醸金に応じて2,746円余集まり銅像の建設と維持費・還暦祝賀会にあて残金300円余で「高山奨学金」を設けました。銅像は水道橋の母校構内東南の一角一血脇診療所と校舎の間の中庭に設置され、白山通りを走る路面電車から見えるトンガリ屋根と、3m以上ある白い台石上の高山像は衆目を引き付ける新名所とも言われました。



高山先生銅像建設醸金募集
(明治43年歯科学報5月号)



高山紀齋先生銅像全景



大正4年10月
野口英世母校訪問

野口英世博士が臨席した卒業式

この有名な写真は、大正4年10月、38歳の野口英世先生が15年ぶりに米国より帰国され母校を訪問した時、折しも挙行された卒業式（10月17日）に臨席して祝辞を述べましたが、その日に撮影されたものです。

博士祝辞演説の大意：卒業生諸君は本日設備完全なる歯科医学校に於て、授けられるべく訓られるべき事は一切を終りて、茲に芽出度く卒業の栄冠を得られたり。今日以後諸君は一層人格の修養に勉め、日進の歯科医術に後るるなく益々奮励して、社会の為母校の為力を盡されん事を望む。

この年の卒業生の中には矯正の斎藤久先生、補綴の矢崎正方先生が居られ、この祝辞を受けて大発奮され“尊敬する偉人の風貌に接しそのインスピレーションに全身を打たれた”と語っておられます。高山像前に立つ血脇校長と野口英世の写真から推測すると、約2mの白い台上に設置された胸像は少なくとも90cmはある大きな像です。今ある2代目の像高は約65cmですから相当大きいことがわかります。

これは大正12年東京歯科医学校の卒業写真で、前列は奥村教授、花澤教授をはじめとした教職陣、後の列の卒業生はほとんどが和装でヒゲを生やしている人も多く大正という時代を感じます。高山像のある中庭は以前と比べると庭木も短く切っており、白い石の台座には鏝が流れた跡も付き、設置後12年の歳月を刻んでいます。右後方が東京歯科医学専門学校の本館で、2階が治療所になっており左上の渡り廊下で血脇診療所と繋がっていました。ところがこの撮影後に大惨事が発生します。この卒業式のすぐ後に関東大震災が首都圏を襲い校舎は全焼、高山胸像は無惨にも白い台石を残して崩壊してしまいます。ひょっとするとこの卒業写真が初代高山先生像の写った最後の貴重な一枚かも知れません。



初代胸像最後の
写真(?)



大正12年 東京歯科医学校卒業写真

関東大震災で壊滅

大正12年9月1日、突如として関東地方を襲った大震災は横浜市の全域を、東京府は7割方を灰燼に帰し、罹災した歯科医院は約700軒で、東京に当時あった5校の歯科医専学校は悉く烏有に帰しました。水道橋の母校では9月1日はまだ休暇中で学生も居らず、附属病院も午前中だけの診療日で担当の学生も来院中の患者も僅かでした。福島秀策先生は西村豊治教授と薬室の側で立ち話をしていた「まだ早いが昼食でも喰おうか」と2、3歩あるいたその時に地震が起こったとの事です。

俄然、唸りと言おうか響きと言おうか異様な名状しがたい音響と共に、あの大きな建物が丈夫な箱でも揺り動かされる様に一塊のまま横に揺ぎ出した…大きな黒い音が雑然として襲ってくる中でガラス窓などが破損する高い音を聞くことが出来るだけであった。

「真中の柱につかまれ!」「この建物は大丈夫だ!」「部屋から出てはいかんぞ!」

叫んだことは覚えているが、椅子にかけて治療を受けていた患者も術者もいずれもその位置を離れる事が出来ない。…自分の頭の上の電燈の笠が落ちて碎ける、窓が煽る…その拍子に窓の外の模様が目をかすめる。猛塵を通して砲兵工廠の煙突の折れた端が目に入る…これを見てハッとして只事ではすむまいと初めて感じた。

この後、福島秀策先生を始め教職員は懸命に重要書類や標本類を外へ持ち出しますが、やがて火の手が学校に迫って来ます。「水道橋駅の下にはもう誰も居ない…木造3階を吹き抜けた火が旧校長治療所を襲っている。旧館の付属医院も同じくガラス窓を通して今や焰が各室を狂っているのが見える。すでに一部は外郭を破壊して道路を越して魔の手を次に伸ばさんとしている。…校舎の屋根を焼き抜いた火は猛烈な風に横に流れている。あゝ30年の歴史の1頁はここに朱線が引かれたのである。一同の目には初めて涙が光っていた」(福島秀策)

こうして水道橋の校舎は全焼し、焼け跡に残ったのは3階建てのコンクリート製附属病院の残骸だけでした。高山先生の胸像も落下して頭部は溶解し、台座の白い石材も高熱によってヒビ割れ、剥離して周辺に飛び散り、火災の凄まじさを物語っていました。白山通りの名所として彩っていた高山紀齋先生之像もわずか13年で消滅したのです。

両国駅北の横網町公園に復興記念館があり、そこにあの高山先生像の溶けて壊れた残骸が陳列されてい



首都壊滅 地震による被害は東京・横浜を中心に死者・行方不明14万人余 鉄道や電気、水道は途絶、行政機構もまひした(東京・有楽町で)。



関東大震災で壊滅した母校と胸像(↑印上)
(後方高台は水道橋駅のホーム)

ます。関東大震災では延焼火災の死者を含め9万9千人が亡くなりましたが、内4万3千人が本所の陸軍被服廠跡で犠牲になり、そこが現在の横網町公園です。陳列してある胸像の立札には「東京歯科医学専門学校寄贈 本品は本校創立者高山紀齋氏の胸像にして大震当時基礎台より墜落破壊せし後、校舎の火災と共にその一部を溶解せられたるものなり」と説明されています。像基台部の裏側に「文夫作」と作者のサ

インが確認出来ました。それにしても金属の不足していた先の大戦争中によくも供出されずに残っていたものだと感激し、不意に思わず抱きしめたいくなりました。昭和生まれの我々にとって写真でしか見たことのない幻の高山像が眼前にある…改めて不思議な“ご縁”を感じたものです。



都立復興記念館に展示してある
胸像残存部



高山紀齋先生之像



彫塑家 朝倉文夫のサイン

2つ目の胸像

関東大震災で無惨にも溶け落ちた高山紀齋先生の胸像は、母校の復興や度重なる戦争の影響もあって復元再設されたのは実に42年も後のこととなります。それは東京歯科大学同窓会が創立70周年を迎えた昭和40年に、その記念事業として2代目の高山紀齋先生之像を作製して寄贈したのです。その当時の同窓会員の多くが戦前の東京歯科医学専門学校の卒業生であり、その恩師といえは何と言っても血脇守之助校長、そして奥村鶴吉教授、花澤 鼎教授に代表される世代でした。まずは建学者の血脇先生ですが、母校創立50周年（昭和15年）に際して設置された大理石製の血脇胸像（北村正信作）がありました。そこで昭和35年に同窓会の65周年記念として奥村・花澤両恩師の胸像を作り、折しも迎えた母校創立70周年の祝賀として母校に寄贈しました。最後に残ったのは肝心の創立者・高山紀齋胸像の復元ということになります。そこで東歯同窓会では創立70周年記念事業のメインとして新たに高山先生の胸像を作り母校に贈ることになりました。時の田丸将士同窓会長は「70周年記念事業に就いて」と題して同窓会会報に記しています。

今日のように歯科界が発達を遂げたのは、社会的需要の増大もさることながら、ひとえに先人の努力の賜であります。従って現在の盛大さを祝うのは取りも直さず先人に対する感謝を意味するものであります。今回の記念事業の筆頭に高山紀齋先生の胸像を挙げたのは、先人に対する感謝の念を最も力強く最も端的に現したものであります。

胸像の製作は5年前に奥村鶴吉先生像を作った彫塑家の今里龍生氏（東京大学工学部彫塑家）に今回も依頼しました。今里氏は明治40年生、東京大学に勤務する傍ら国立科学博物館の古生物展示品の作製も依頼され、恐竜などの模型製作技術を学びに米国に留学もされた作家です。製作にあたり対象の人物が存命ならば「血脇像を作る北村正信氏」の様に写実が出来ますし、会話や所作などから“その人なり”を表現に加えることが出来ます。しかし会ったこともない人物を、それも30年以上前に亡くなった人物を今里氏はどのようにして表現し製作したのでしょうか？それには先ず数多くの写真や資料を参考にして試作像（ヒナ型）を粘土で作り、それを持参して生前の高山先生と懇意だった人々を訪ね歩き、意見を求めては少しずつ像を手直しすることを続け、忍耐強く時間をかけて完成像にとアプローチした様子です。それはあたかも今里氏の仕事先（国立科学博物館）での恐竜など古生物復元模型作製の技術に通じる手法で、米

国で学んだテクニックの応用でもありました。



血脇先生と彫塑家（昭和8年）



彫塑家：今里龍生氏



製作途中の胸像と古生物模型

製作上の取材と手直し

まず最初に高山先生の御長男・高山 基氏（当時80歳）を北海道旭川市に訪ねました。今里氏は持参した小さな試作の高山先生胸像と先生の写真・デスマスクなどを卓上に並べて、基氏に色々と質問したり意見を聞いたりしながら、その場で像の修整を続けたとのこと。以下はその時の状況を記した基氏の手記です。



長男の基氏の記憶をもとに修整

昭和38年10月14日 私は父の頭部の特徴などについて今里氏に色々と話しました。まず昔の胸像は母は“顔が少しキツすぎる様に思われる”と申していました。また後頭部は私の様に出っぱってはいないで普通型であったし、喉仏は普通より出ていました…など話をしている内にも旭川市ではチョイチョイ停電して真暗になり、終いにはローソクのあかりで作業を続けられました。翌10月15日には朝9時頃おみえになりまして父の小模型を机の上に置き、写真やデスマスクなどと照らし合わせながら左右前後から修整される。そしてここはどうだったか？あちらはこんなであったか…？などと質問され、ヘラを持って削られたり粘土をつけたり、高くしたりしてタバコを喫う間もなく父の面影を再現せんと全精神を傾注されていました。私は今里氏の熱意に押されてただただ感服してしまいました。なにしろ朝9時から夕方4時までパンを齧りながら、手を休めることなく模型と取り組まれてヘラを動かしておられるのです。私もそばで今里氏のお仕事ぶりをまじろぎもせず見ておりましたが、疲れてきた時“喉仏はどうですか？”と聞か

れハッとしました。“特に出ていた人でした”と答えるとすぐ修整され大変良くなった様で、この時点でやれやれと今里氏のお顔にも初めて喜色が溢れ、せっかく入神の作を造りたいと念願している自分としては、生前の高山先生の面影に接した方に一人でも多く見てもらい批判して欲しい。それが作品の出来栄に一段と光を与えるものと思うからと言われました。

基氏は今里氏に往時の父・紀齋先生の特徴やクセを思い出しながら伝えている内に少々感傷的になった様子です。高山先生は生来凝り性で写真や生け花を趣味とされていましたが、華道は古流・遠州・池坊・投げ入れと諸流派盛んに稽古されました。銀座の診療所に師匠が教えに来た日などは、なんと20鉢もの生け花がいけてあり、まるで華展の会場の様でした。基氏が農大卒業を目前にしたある日のこと、銀座の診療所に行ったら父・紀齋先生が写真を撮ってやるという、パチリとやられたのがこの写真です（大正2年2月）。



高山先生の生け花と基氏

懐かしき父の面影いだきしめ昔の想い今よみがえる 基・80歳

これは高山家の私的アルバムの写真に添えてあった基氏の短歌です。

今里氏はこの後も精力的に高山先生の縁りの釜津馬之助氏を訪れたり、数多くの人と接して像の修整を続け完成型に近づけました。こうして出来上がった第2代胸像の高山先生のお顔は温和なまなざしの内にも厳格なご性格を表現する作品となりました。

同窓会創立70周年記念大会

東歯同窓会が70周年を迎えた昭和40年は、池田内閣の「所得倍增計画」などで既に高度経済成長期に入り、前年の東京オリンピック大会開催に合せて東海道新幹線が開通し、東京には高級ホテルが林立したあの頃です。緑薫る5月中旬に母校、市川病院、椿山荘を会場に創立70周年記念大会が全国から集まった大勢の同窓により盛大に開催されました。

同窓会創立70周年記念大会は、去る5月14日・15日・16日の3日間にわたって開催された、第1日の夕刻より雨となり、翌日の天候が心配されたが、15日は絶好の五月晴れとなり、翌16日と共に盛んな集いとなった。全国各地より多数の会員が参集し、水道橋の母校を中心に進学課程、市川病院、椿山荘と連日賑わった（同窓会会報106号）。



創立70周年記念式典、田丸会長（中央）より福島学長（右）に贈呈される胸像

まず式典と祝賀会は500余名の参加のもと椿山荘大ホールにて催され、続いて高山紀齋先生の胸像は除幕式の後に田丸将士会長から母校の福島秀策学長へ贈呈されました。

修祓^{しゅうふつ}について校歌の流れるなかで、壇上にしつらえられた高山先生の胸像を被った幕が千葉敏夫夫妻の手によって落された。見事に復元された高山先生の温容に接し一段高く拍手がこだました。田丸会長より胸像を母校に贈呈し、福島学長より「後進の教育の貴重な資料とする」と謝辞があった。ご遺族を代表して病気のため出席できなかった高山 基氏（55年ぶりの除幕を予定していた）の録音による挨拶、製作者の今里先生の紹介があった。ついで田丸会長より今里先生へ感謝状と記念品の贈呈があり、これに対し今里先生より感謝の挨拶があった（同窓会会報105号）。

創立70周年記念で贈呈された高山先生胸像は現在は稲毛の母校管理棟エントランスホール（平成25年現在）に奥山先生、花澤先生胸像と並んで設置されており、穏やかな温かいまなざしで母校の発展を見守っておられます。



母校管理棟エントランスホール

3つめの高山先生像

この2代目高山先生像には、その後さらなる展開がありました。それは昭和45年のことです。この年は母校創立80周年、高山紀齋生誕120年、そして血脇守之助生誕100年目にも当たり、わが同窓会としても重なる慶事を祝賀して先人の偉業を顕彰せねば…という気運が高まっていました。当初、創立者・高山紀齋先生については生誕地・岡山に顕彰碑を建てようという事で「高山紀齋先生記念碑建設委員会」（高木健吉委員長）が組織され調査を含む画策が始まりました。しかし岡山市花畑にあった生家が特定出来なかったのと、碑を建立する用地難からこの案は頓挫します。そこで碑を諦めて、すでに母校にある胸像をもとに作家の今里氏に依頼して新像を作り、折よく新築完成する岡山県歯科医師会館の玄関ホールに設置する一と変更した経緯がありました。

岡山側との協議やパイプ役は米澤和一名誉教授が担当され、度々東京－岡山を往復して綿密な打ち合わせをしました。また彫塑家の今里竜生氏も現地の設置場所を視察・確認して像の基台部を中心に胸部を加えたり大幅に変え新像を鋳直しました。こうして昭和46年10月16日、新築成った白亜の岡山県歯科医師会館玄関ホールに高山紀齋先生顕彰胸像は設置され除幕式が挙行されました。

東京歯科大学創立80周年記念事業の一つとして、高山紀齋先生の胸像を御出身地の岡山に建立する企画が昨年来進行していたが、このたび今回新築落成した岡山県歯科医師会館内の正面玄関ホールに安置することになり、昭和46年10月16日（土）、午後1時から約1時間半にわたり同会館内で盛大な胸像除幕式が挙行された。当日、本学からは関根永滋学長、米澤和一教授、石川達也教授、中屋敷事務長が参列し、地元では梅田寿三支部長以下東歯同窓会の方々、またこの事業に協力された岡山県歯科医師会会長の黒住彦正先生はじめ歯科医師会関係の方々、またこの会館および胸像安置に終始斡旋の労をとられた岡山県知事加藤武徳氏、高山先生のご長男・高山基氏の代理として北海道旭川の同窓・井合関三先生が参列され、高山紀齋先生の御遺徳をしのびつつ厳粛な除幕式が挙行された（東京歯科大学広報第25号）。



昭和46年10月16日 高山紀齋先生胸像除幕式
関根永滋学長(左)と黒住彦正岡山県歯会長(右)



岡山県歯科医師会館玄関ホール

こうして現在、「高山紀齋先生之像」は2ヶ所、母校と生誕地の岡山に設置され、厳かな内にも慈愛に満ちた眼差しで歯科界の推移を見守っています。

昭和2年（1927年）同窓会滋賀支部発会式で血脇先生，来県

滋賀県支部 藤 居 正 博（昭和50年卒）

滋賀県支部の始まりは，歯科学報32巻7号（昭和2年刊）113頁に「同窓会滋賀支部発会式」との記事があり，昭和2年5月13日と記録にある。以下にその記事を示す。

「一部略5月13日彦根へ行くとの会頭（血脇守之助先生）の親書で自然に5月13日彦根で発会式と云う事に極つたのが5月の4日。扱て5月13日米原駅へ出迎え面々住井亀太郎，瀬戸永輝，島野正三郎，石田益之助，岡野茂男，大高道城，岡野清10時18分列車が着くと一同がドヤドヤと列車へ押し込み挨拶と話がはづむ。御一行は会頭，西村豊治教授，高橋直太郎先生，石原金作先生，田村

一吉先生。霜が深くなった会頭の御頭を拝見して御家庭の御不幸に就いて感慨無聊，33分彦根へ着いた。用意して置いたガタ自動車で会場樂々園へ繰り込む。（中略）多賀参りで予定が狂い発会式が1時間おくれて2時開会，本県の元老住井先生座長となり石田君の経過報告ありて会則を議定し役員選挙をして無事終了此の間に会頭から学校の現況を承った。次で講演に移つて高橋大日本歯科醫學會長が有益なる臨床瑣談をされる。西村教授が少ない時間に大車輪で研究を発表をして下さる。田舎ものが急に賢くなった気がした。西村教授は講演後も熱心な会員の質問続出に親切に御説明下さる。

6時予定の歓迎宴会が7時になって始まった。」（後略，旧漢字一部変更）

滋賀支部の発会式から80余年，現在33名の会員が在籍し，年1回の総会と学術講演会は現在も同様に継続されている。大学より講師を派遣いただき大学の近況と研究の成果を親しくお話いただくと東京歯科大学が身近に感じられ，折にふれ大学校舎を訪ねてみる会員も多いと聞く。同窓会本部，東京歯科大学が同窓会会員と密接に繋がっていることが心強く思われ，支部の責任者になったことで，さらに支援体制が整っていることを実感した。

▼滋賀県歯科医師会役員らと（昭和3年頃）



血脇先生と役員

血脇の三条をたずねて

東京歯科大学の歴史・伝統を検証する会

吉澤 信夫（昭和39年卒）

新潟県は、医学医療に関わる多彩な人物を多く輩出した土地である。本学の関係でも、学祖血脇守之助が歯科医学の道に進む前の1890（明治23）年、三条にある「米北教校」に英語の教授として嘱託され、3年間教育に従事して以来のゆかりがある。そこでの人間関係は、血脇の一生を支配したといっても過言ではない重要な歴史のあることが以前から指摘されてきた。しかし、すでに120年以上も前のことであり、その間の詳細については不明の事柄も少なくない。

そこで筆者は平成27年5月17日、金子 譲委員とともに三条市の八百枝歯科医院（昭和50年卒、八百枝正樹先生）を訪問、ここを拠点に東本願寺派三条別院、米北教校跡、血脇の下宿先等を視察した。その結果、多くの興味深い史料や書籍、写真、地図等を閲覧する機会を得たので、その概略を報告する。なお、今回の出張には新発田の佐藤泰彦先生（昭和25年卒）と合流、種々ご指導を受けた。また八百枝先生には、多大なご協力をいただいたことを謝意とともに申し添える。

1. 八百枝歯科医院所蔵の史料について

三条の八百枝家は代々歯科医の家柄で、高山歯科医学院の卒業証第1号受領者が当家の「八百枝

康三」であることは、本学の百年史ならびに同窓会新潟県支部の創立50周年記念誌等に記述されているとおりである。この卒業証は額縁に入れられてよく保存されているが、その他にも写真、書簡、掛け軸、古書籍等があり、それぞれ分析、解読のために今後かなりの努力を要するものと思われる。

2. 真宗大谷派（東本願寺派）三条別院

この寺は敷地、建物ともに壮大で、幼稚園や賃貸駐車場等はあるが、いわゆる檀家というものを持たない地域のセンター的寺院（京都の東本願寺の出張所の役割を持った寺院）である（写真1）。この寺に所蔵の「本山報告」は、

京都はもちろん全国の情報を集めて印刷、配信したもののようで、興味深い人事の記録も掲載されている。三条別院附属の米北教校に血脇が英語の教授として嘱託された記事は、先に佐藤泰彦先生の調査で紹介されているが、今回八百枝正樹先生の知人が当山に勤務している関係で当該史料の存在が再確認された。血脇の勤務した3年間の新たな史料が、この三条別院に未だ残されているのではないかという期待もある。

3. 米北教校

現在、建築物としての存在はないが、当初の施設は三条別院敷地内の西南寄り、今日の賃貸駐車場になっているあたりに位置してい



写真1



写真2 富岡（曾我）量深の卒業証と裏面に記された血脇守之助の署名

たものと思われる。しかし1880（明治13）年の大火で焼失したのち、明治18年頃には五十嵐川の南側（三条では嵐南という）に2階建の校舎として再建、移転している。他方、当初から嵐山にあったという説もあり、確定していない。

明治23年に赴任した血脇は、ここで富岡（のちに曾我）量深という希代の傑物に英語を教えることになる。後年大谷大学学長をつとめ、近代仏教思想の大家となったこの人物の米北教校卒業証は、新潟市南区味方の曾我・平澤（註：名は興、脳神経解剖学者）記念館に所蔵されており、裏面の教授欄に血脇守之助の名が明記されている（写真2）。なお、この卒業証における血脇署名の件は、樋口輝雄氏（日本歯科大学新潟、医の博物館）および佐藤泰彦先生の調査によるものである。

4. 血脇の下宿

血脇守之助傳によると、英語教師として勤務していた3年間で、3箇所の下宿先の名前が挙げられている。最初の越前屋は三条別院に近く、三条医師会50年史の明治4年の地図には「（郷宿）越前屋」

と記されている。現在は立派な越前屋ホテルとなっており、地域の会合や宴会などにも利用されているという。

第2は成田八十八という人物の自宅であるが、この場所は依然特定されていない。

第3は村松屋であるが、三条市史では酒造屋と記載されている。現在は小路の標識が立っているだけで、明確な位置は不明である。ただし、村松屋の本家は石田屋（現石田屋旅館）で、その分家であること、村松屋自体も本来石田姓であり、位置の特定は今のところできないものの、村松屋小路という標識の存在から本家の近隣にあった、と思われる。そして本家分家とも江戸時代は酒造業を営んでいたという、現石田屋のご主人の話を八百枝正樹先生が聴取している。ただ酒造以外の副業もしていたようなので、下宿屋の可能性も残る。血脇が村松屋の離れ座敷に居住していた頃、近くに公立三条病院のあったことはほぼ間違いないが、移転の可能性も否定できず、今のところ位置は明確でない。また、血脇傳にある田原院長の月給が250円というのは過大で、

実際は50円であるとする史料（三条医師会50年史、八百枝歯科医院所蔵）がある。

5. 公立三条病院

眼科医田原^{とおる}利が院長として勤務していた病院で、現在の本町4丁目すなわち石田屋、村松屋の近所にあった、と考えられる。血脇の下宿に近く、田原との交流が濃密に行われていたことであろう。酒の飲めなかった血脇に酒の心がけを教え、また後年会津若松の渡部 鼎を紹介して夏期の出張診療をすすめたのも田原である。なお、この田原については謎が多かったが、小幡直樹先生（東歯大昭和45年卒）のご協力で少しずつ実像が判明してきている。

以上の報告は八百枝先生、佐藤先生の調査、解説をもとにとりあえず簡略に記述したものである。最初に述べたとおり、新潟は医学、医療の分野において、また本学にとって未解明の史実が潜在している可能性が少なからずあると思われる。今後、有志のかたがたのご努力によって徐々に解明されていくことを期待したい。

第43回同窓会主催全国ゴルフ大会

平成27年度第43回同窓会主催ゴルフ大会が9月3日に行われました。今号では編集の都合で大会の様子と、結果だけをご報告をいたします。優勝者及びベスグロのコメントは次号に掲載させていただきます。今年は同窓会創立120周年の記念大会でもあり、ゴルフ大会委員もいつにも増して力が入った大会となりました。広報委員会でも腕利きのカメラマン（山口雅史先生・平成7年卒）に写真を撮っていただき、同窓会ホームページに素敵な写真を多数掲載することができました、是非ご覧ください。今大会は2020年のオリンピック・ゴルフ競技の舞台となる名門、埼玉県「霞ヶ関カンツリー倶楽部東コース」にて開催する事ができました。募集人数を大

きく上回る応募があったため枠を増やしての競技となりましたが、それでも参加できない先生方がおられたようでとても残念です。それでも参加者は142名の参加者で盛大な大会となりました。天候は曇りで湿度が高く、ジメジメとした生憎の天候でしたが、先生方は終始笑顔で最後の組まで傘をさすことなく楽しくプレーすることができたようでした。参加賞は120周年記念マーカーで、とても素敵なデザインでした。結果は下記のとおりですが、安藤久美先生の腕前は益々冴えわたり、ハンデ0で優勝でした。準優勝は平成卒業の小野寺保好先生、3位は埼玉支部の藤波先生でした。ベスグロ男子一般の部では4人が同スコアで平成卒業の先生が顔を揃えまし



た。パーティーでは久しぶりに会う先輩後輩同級生と大いに盛り上がりました。今大会は平成卒の先生の活躍が目立ちましたが、来年は埼玉の武蔵丘ゴルフコースを予定しているとの事で、次回も幅広い年代の参加、活躍を期待したいと思います。

大会当日の写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。

成績表（新ペリアの部）

順位	プレイヤー名	コース1	コース2	GROSS	HDCP	NET	順位	プレイヤー名	コース1	コース2	GROSS	HDCP	NET
優勝	安藤 公美	36	33	69	0.0	69.0	16位	白鳥 清人	41	39	80	8.3	71.7
準優勝	小野寺保好	40	39	79	9.5	69.5	17位	坂井 清	38	35	73	1.2	71.8
3位	藤波 齊	43	45	88	17.8	70.2	18位	大井 誠一	51	48	99	27.2	71.8
4位	穂坂 康朗	47	47	94	23.7	70.3	19位	前島 洋志	41	38	79	7.1	71.9
5位	近藤 淳一	41	46	87	16.6	70.4	20位	森 俊一	42	49	91	18.9	72.1
6位	喜田 賢司	42	37	79	8.3	70.7	21位	杉山 忠正	45	45	90	17.8	72.2
7位	黒須 誠	44	46	90	18.9	71.1	22位	臼田 準	51	52	103	30.8	72.2
8位	中川 勝洋	42	41	83	11.8	71.2	23位	佐藤 剛	48	42	90	17.8	72.2
9位	成田 賢二	45	44	89	17.8	71.2	24位	吉崎 正洋	42	42	84	11.8	72.2
10位	前島 達也	41	41	82	10.7	71.3	25位	大橋 智行	44	46	90	17.8	72.2
11位	角谷 英輝	39	43	82	10.7	71.3	26位	村上 芳一	44	39	83	10.7	72.3
12位	小坂 竜也	41	41	82	10.7	71.3	27位	大井 陽生	52	44	96	23.7	72.3
13位	宗本 匡由	44	37	81	9.5	71.5	28位	大峰 秀樹	44	45	89	16.6	72.4
14位	海野 智	43	38	81	9.5	71.5	29位	川野 壽彦	39	43	82	9.5	72.5
15位	矢嶋 幸弘	50	44	94	22.5	71.5	30位	黒澤 珍介	40	41	81	8.3	72.7

アルバムでみる全国同窓囲碁大会の歩み

高橋 一 祐 (昭和32年卒)

第1回大会が開催された経緯

昭和49年の秋、“高橋君ちょっと私の部屋へ来なさい”。保存学主任教授恩師の関根永滋先生に呼ばれ、恐る恐る部屋をノックすると、ご同級で青森県の支部長をされていた浅田喜三郎先生（昭和5年卒）を紹介された。浅田先生は囲碁の造詣が深く、ニコニコしながら、これまで行われていた東歯本因坊戦を全国的なものとして囲碁を通して全国同窓の一層の親睦を計りたいと述べられ、基金として1万円を下さった。当時の1万円は大金である。早速、囲碁部OBと囲碁のお好きな先輩諸先生と連絡を取り、翌年の昭和50年1月、加藤正夫本因坊にも出席いただき、第1回全国同窓囲碁大会が、

市ヶ谷の日本棋院で盛大に開催され、以後毎年行なう運びとなった。

囲碁部と大会の活動

昭和39年卒の山崎 晃、橋本岩男、村岡捷也、上杉知永、40年卒の上杉光永の諸君達が大活躍し、囲碁部が関東学生囲碁リーグ戦の第2部に上格した。これは大変な快挙であった。これを契機に、囲碁熱が高まり、同窓囲碁愛好者集団の囲水会（囲碁と水道橋の名称）がつくられ、東歯本因坊戦という同窓囲碁大会が企画された。第1回の大会が昭和40年8月21日、22日の両日にわたり伊香保温泉で開催され、学生9名、同窓24名が参加している。この大会が毎年行なわれるようになり、全国

同窓囲碁大会の母体となった。

第10回の同窓囲碁大会は記念大会として昭和59年1月15日、16日の両日熱海の富士屋ホテルで開催され、全員が賞に入るよう企画された。

同窓会長杯：

田辺 明(26)、柳原正義(47)
田本 晃(53)

学長杯：

山内 静(33)、山崎 晃(39)

優勝：

佐々木真澄(58)

準優勝：

久保田正義(22)、河村孝昭(33)
大橋 勲(43)、池原 洸(39)
尾崎勝己(54)、椋棒正樹(58)
若月達也(56)、杉村 修(24)
前田洋一郎(37)、村岡捷也(39)
河村孝憲(47)、田本裕二(53)
二階堂則彦(22)、遠藤義弘(37)
橋本岩男(39)、難波克明(47)
兵藤広一(58)

殊勲賞：

海野 陽(20)、中村英雄(32)
上杉光永(39)、平野和夫(53)
福島太平(57)、露口晃宏(54)
岡 秀哉(14)、高津正直(29)
河村 滋(59)、石橋 彬(49)
菊地厚志(53)、白川 尚(24)
遠藤直樹(37)、安達 登(42)
伊東 励(51)、福島史郎(53)

敢闘賞：

岡本種義(T14)、高橋一祐(32)
山口秀晴(42)、松井 隆(50)
黒田勇一(53)、野島春夫(50)
大須賀直樹(47)

()内の数字は昭和卒業年度(T)は大正

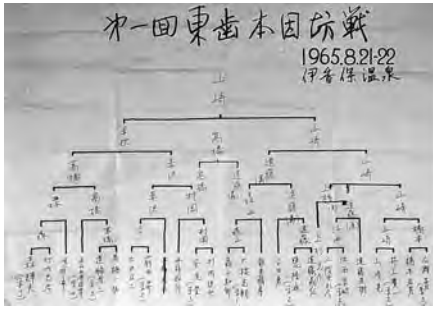
その後の大会の状況はアルバムで紹介致しました。なお、同窓会報にはその都度状況を掲載してしましたのでそれをご参照下さい。最近では囲碁を楽しむ方の高齢化が進み集まりが少なくなっているのが残念です。若い人の力を借りて継続し発展するのを願っている処です。



第1回全国同窓囲碁大会



第10回記念大会 熱海富士屋ホテル



全国同窓囲碁大会の前身
東歯本因坊戦



参加メンバー（昭和40年8月）



水道橋病院地下クラブでの
東歯本因坊戦（昭和43年）



囲碁部 歯薬リーグ戦（昭和48年）



第4回大会（昭和53年1月）
指導碁 加藤正夫，佐藤昌晴



第13回大会 加藤正夫名人就任に
記念棋譜の楯を贈る



同窓会創立100周年記念囲碁大会祝賀会
（平成7年）五十嵐会長，関根学長



来賓の大竹英雄，本田幸子，
加藤正夫の各棋士



第23回大会（平成9年4月）
帝国ホテル石寿会囲碁フォーラム



大竹九段，本田六段を囲んで



加藤正夫九段の指導碁



平成13年度囲碁大会
梅沢由香里三段 指導碁



第30回記念大会（平成18年1月）



第30回記念大会 指導碁 鈴木 歩三段



平成20年度大会 日本棋院

わが国における歯科医療サービスの提供体制の礎を築いた先人の業績

～同窓会120周年を記念し、血脇先生、廣瀬先生、石塚先生をはじめ先人の足跡から～

東京歯科大学歯科社会保障学 上 條 英 之

1. 歯科医療を築いた先人の努力

歯科医療について、わが国では、他の国に比べて健康保険での歯科診療の給付範囲が広く、だれでも歯科治療を受けることができ、他の先進諸国に比べ、国民の方々の歯科医療に対する満足感が比較的高いと言われています。もちろん、歯科医療に従事する私たちの日々の努力があつての話ですが、わが国での歯科医療制度は、それを支えるために努力をされてきた東京歯科大学同窓会の先人の活動があつたからです。

そこで、東歯同窓会が誕生し約10年後、歯科医師法ができたときと、その約15年後に健康保険法ができた後の保険診療での歯科治療の確立に、血脇先生や血脇先生を支えた先生方がどれほど貢献したのかを紹介させていただきます。

2. 歯科医療を支えた血脇先生

血脇先生は東京歯科大学の建学者ですが、同時に日本の歯科医療業界を支えた重鎮です。

① 27年間歯科医師会長として

先生は、1870年、千葉の我孫子市で生まれ、1947年に77歳の生涯を終えています。1900年に高山歯科医学院の院長に就任され、1943年に東京歯科大学専門学校の校長を奥村先生にバトンタッチするまで約43年間、本学の長をされていましたが、ほぼ同時期の1903年から1946年までの約43年間、中央の歯科医師会の役員をされ、このうち約27年間、歯科医師会長をされています。(表1)。

また、先生は、歯科医師会の役員の時代、多種多様な活躍をされています。1906年の歯科医師法制定とその後の改正、1922年に制定

された健康保険法での歯科医療の位置づけ、歯科口腔保健の推進に関する法律が制定される礎の1つとされ、全国展開された1928年の第1回「むし歯予防デー」の実施（むし歯予防デーはその後、6月4日から10日まで「歯と口の健康週間」の前身行事となり今日まで続いています。）等があげられます(表2)。

② 歯科医師法制定に努力

明治後期の歯科医師法制定には、医師法制定の動きの中で、当時の歯科医師会が重要な決断を求められることが多く、結果的に、医師法制定と同時に歯科医師法制定が実現しました。

血脇先生には多くの逸話が残されていますが、その当時の大日本歯科医師会総会での榎本副会長の挨拶の一部をご紹介します。血脇

表1 現在の日本歯科医師会（1948年設立）ができる前までの歴代の日本歯科医師会長と一部の役員

期間	団体の長の氏名	当事の名称・職責	一部の役員
1903年11月27日～1906年12月31日	高山紀斉	大日本歯科医会会長	榎本精一、血脇守之助他
1906年12月31日～1907年4月7日	榎本精一	大日本歯科医会会長	血脇守之助他
1907年4月7日～1918年4月1日	榎本精一	日本聯合歯科医会常務委員長	血脇守之助他
1918年4月1日～1918年12月7日	榎本精一	日本聯合歯科医師会会長	血脇守之助他
1918年12月8日～1919年4月14日	血脇守之助	日本聯合歯科医師会会長代行	奥村鶴吉他
1918年4月15日～1925年11月10日	血脇守之助	日本聯合歯科医師会会長	石塚三郎、奥村鶴吉他
1925年11月10日～1943年1月27日	血脇守之助	第一次日本歯科医師会長	奥村鶴吉、廣瀬武郎他
1943年1月28日～1946年2月10日	血脇守之助	第一次日本歯科医師会長	西村豊治、廣瀬武郎他
1943年2月11日～1947年12月26日	加藤清治	第2次日本歯科医師会長	西村豊治、正木 正他
1947年12月26日～1948年3月31日	西村豊治	第2次日本歯科医師会会長代行	正木 正他

一部の役員については、便宜上、本誌に関する者を選んで、記載した。

先生の歯科医師法の制定での、ご ③ 保険診療での補綴導入に努力 給付がされている国が半数程度
活躍が触れられています（表3）。 1922年に健康保険法ができたこ で、さらに半数の約¼の国のみが
ろ、欧米諸国で、歯科治療の保険 歯科補綴を給付されてる中で、わ

表2 血脇先生が日本歯科医師会などの役員就任時の主な歯科医政の動き

1906年	歯科医師法制定
1916年	第2次歯科医師法改正 → 医師による歯科医業に属する行為を禁止
1922年	健康保険法制定
1925年	第3次歯科医師法改正 → 歯科医師会が公法人として位置づけ → 政府との契約が可能となり、歯科医療の給付が可能になる
1926年	日本歯科医師会に健康保険部設置
1927年	健康保険での歯科診療開始
1928年	第1回むし歯予防デー実施 (現在、歯と口の健康週間として、厚生労働省、文部省の主催で行 事が継続)

表3 旧歯科医師法制定後の大日本歯科医師会第1回総会での榎本副会長の挨拶
日本歯科医師会史第一巻 P61-64より、作成（抜粋、一部改変）

1906年4月4日 18時30分から
地学協会講堂（東京京橋）

この総会において諸君と共に喜ぶべき事項をご報告するということは実に愉快にたえないのでございます。それはなにかと申しますれば、この会の目的である歯科医の権利を伸張し、業務を保護するということが事実の上に現れて、本会は設立して3年にもならないのにかわらず本会の目的の大きな部分を達しえたということは実に喜ぶべきことであろうと存じます。

これは、歯科医師法案が両院とも無事に通過したということでございます。

略

この歯科医師法の両院通過につきましては高山会長の尽力されたのはもちろん理事諸君の尽力されたということは一方ならぬのでございますが、そのうち、血脇守之助君は議員その他についての便宜を得られましたために一方ならざる尽力をせられたのでございます。

略

元来、帝国議会に1議案を提出いたしまして、それが両院とも無事に通過するということは非常な難事であるのでございます。

表4 健康保険法に対する意見書（1923年9月、日本聯合歯科医師会）
（会長 血脇守之助から内務大臣へ）、抜粋、一部改変

健康保険法における歯科医療の給付方法については、歯科医師団体の自由選択主義が最も合理的である。本会所属の全国75の歯科医歯科医は、すでにこの希望を有している。

略

技工方面における補綴療法について当分含めないということは、遺憾である。

略

労働者の健康を保持し、その能率を増進し、疾病を未然に防止することは、基礎的療法として、歯科技工方面の治療行為をも完成させることとなり、これにより立法の意義を達成することが必要である。

このため、この点をご賢察の上、技工方面について、ご審議ご採択をされることについて陳情いたします。

が国では歯科補綴を給付対象に加えることを実現したのは、まさに血脇先生と当事の歯科医師会の役員の先生方の努力があったからです。（議論はありますが、高齢化が進み介護保険が制定される時代に歯科医療の位置づけでの補綴給付は、必要性が高いと思います。）

表4は、健康保険法が制定された後、当事の日本聯合歯科医師会（会長は血脇先生）が内務省にだした意見書の一部を示しています。

3. 血脇先生を支えた廣瀬武郎先生（血脇先生のそで夫人の兄 歯科医師法の草案を策定）

あまり知られていないかもしれませんが、歯科医師法の草案をつくることに大いに貢献した人として、廣瀬武郎先生があげられます。

廣瀬武郎先生は、血脇先生の友

達で、1873年に小田原で生まれ、血脇先生よりも3つ年下でした。寄宿舎で寝食を共にされ、この血脇先生と廣瀬先生は意気投合し、廣瀬先生も卒業後、高山歯科医学院の講師をされます。

その後、1896年に中央区京橋で開業し、1904年に小田原に移り住み、開業しますが、その傍ら、血脇先生を助けることとなりました。ちなみに、血脇先生の奥様であるそで夫人は、廣瀬先生の妹でした。

① 東歯同窓会初代役員

廣瀬先生は、高山歯科医学院を1895（明治28）年に卒業し、第一回卒業式が行われたときの卒業生3名のうちの1人でした。

この年、高山歯科医学院院友会が結成され、結成時の役員には、血脇先生のほかに廣瀬先生が加わっています。この年の10月に創刊された歯科医学叢談はその後、歯科学報となります。

また、廣瀬先生が執筆され、1904年に出版された「簡明歯科薬物学」が教科書として出版され、1915年の第9版まで長い間出版されました。

ところで、歯科医師法が制定される少し前、医師法の制定が検討されていましたが、歯科医師が疎外されることが次第にはっきりしてきたことから、歯科医師の団体について、全国組織を結成する必要から大日本歯科医師会が1903年11月に結成され、高山先生が初代会長となりました。

その後、榎本精一先生が会長を12年勤めた後、血脇先生が会長を受け継がれました。

② 歯科医師法草案を作成

大日本歯科医会では、独自の歯科医師法案を検討するための委員会が設置され、その委員の1人に廣瀬武郎先生が加わりました。

委員会では独自の歯科医師法案

を作成することとなりましたが、当時、この対応ができる人は少なく、歯科医師法案の案文の作成は、廣瀬先生が行い、約半月ほどの期間で、17条に及ぶ大日本歯科医師会の歯科医師法の草案を作りました。

その後、医師法案が1906年2月、帝国議会に提出されるのを受け、3月10日に、大日本歯科医師会が、歯科医師法案を衆議院に提出することとなり、血脇先生他関係者の努力もあり、3月26日に、医師法と同時に制定がされることとなりました。このため、健康保険法の制定で保険診療が導入される際、歯科医療を保険診療の対象に加えることが容易になりました。

その後廣瀬先生は、健康保険による保険診療がはじまった頃、日本歯科医師会の初代保険担当の理事となり、血脇先生が退任される1946年まで、約20年間日本歯科医師会の役員をされ、血脇先生を支えました。なお、このころ廣瀬先生は、歯科学報社から健康保険記

の解説書として「健康保険の話」(図1)を出版しています。

血脇先生が日本歯科医師会会長を退任されたと同時に日歯の役員を退任して約10年後の1956年頃83歳で逝去されたといわれています。

4. 血脇先生を支えた石塚三郎先生

① 歯科医師法制定とその後の改正に努力

歯科医師法の制定には、多くの人が関わっていますが、私はここでもうひとり石塚先生についてふれたいと思います。

石塚三郎先生は、1876年に新潟県北蒲原郡安田村で生まれました。血脇先生より6歳若く、1897年から、高山歯科医学院の書生として働くこととなり、その時から、野口清作(英世)と同じ部屋で寝食を共にし、2人は盟友であるとともに、苦学生でした。

その後、野口清作(英世)先生は、1897年10月に医術開業試験に合格し、翌年、石塚三郎先生も、歯科医術開業試験に合格後、学院講師として血脇先生を支えます。

郷里の新潟に戻った後、無歯科医地区での歯科診療を血脇先生と行ってきた経験から、各地で巡回歯科診療をされました。

ところで、歯科医師法が制定される際、議員が提案する形態がとられたと考えられ、提案説明は、新潟県選出の青柳信五郎議員らが行っています。

当事、大日本歯科医会は運動費がない状態で、自費でまかなわなければならなかったため、新潟にいた石塚先生も東奔西走をされた

といわれています。

新潟の長岡で開業していることから、地元の代議士であった青柳先生に依頼するのは、自然なことであり、歯科医師法制定のために石塚三郎先生がその筋書きと演出を行ったとされています。

② 初代新潟県歯会長

1906年の歯科医師法制定後、石塚先生は初代新潟県歯科医師会長に30台前半の若さで就任され約14年間会長として会を支えます。その後の歯科医師法については、医師が歯科医師の業務を行うことに対する規制が法的にされていなかったことから、1916年の歯科医師法改正で、はじめて、歯科医業と医業が法的に別のものとして、取り扱われるようになりました。

このときの改正は、医師の既得権の縮小につながることから、当初、全国の連合医師会で、反対決議が満場一致でされるなど、法律改正ができない危惧がされる状況でしたが、法案の内容が修正され、成立しています。

歯科医師法第2次改正の後、開催された第7回総会では、東京市歯科医師会から歯科医師法改正の感謝状と記念品が当時の役員及び関係者8名に送られており、役員以外の3名のうちの一人は石塚三郎先生でした。

もちろんこの改正には、血脇先生が役員として歯科医師会を支えて13年の月日が流れ、政界への影響力が作用し始めたとも言われています。

③ 日本初の歯科医の衆議院議員 健康保険での歯科診療を当時行

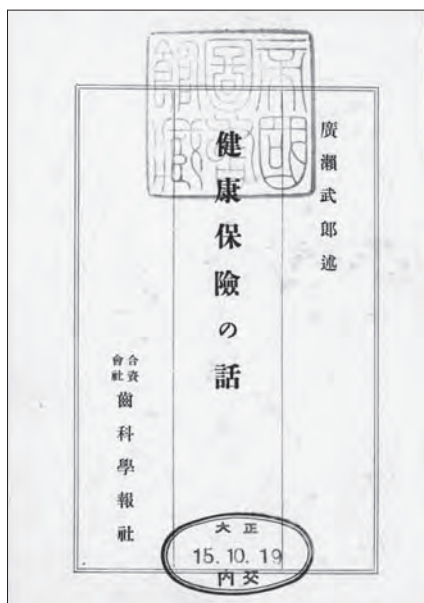


図1 健康保険の話 表紙

えるようにするためには、歯科医師法を改正し、道府県歯科医師会を強制的に設立して、歯科医師会が公法人となることが必要でした。

すでに日本医師会は、1922（大正8）年の第3次医師法改正により医師会の設立について、郡市区医師会と道府県医師会を強制的に設立することが規定されるように法律が改正されていました。

ある時期、血脇先生は、医師とはちがい、歯科医師には有資格者の国会議員がいないことや行政にも歯科関係者がいないことを嘆いたことがあるとされています。

石塚先生は、この当事、血脇会長の下で、歯科医師会の理事になっていましたが、1924年に第15回衆議院選挙で新潟2区から当選し、日本ではじめての歯科医の資格をもった衆議院議員として、第3次歯科医師法の改正にたずさわりました。

そして、帝国議会への提案を石塚先生が議員として自ら行い血脇先生を助けました。

その結果、当事の歯科医師会は、国の認可を受け、健康保険での保険診療を国と契約することとなりました。

また、野口英世が1915年に帰国するのにかかわった話は有名で、この時とった写真をもとに石塚先生が執筆されている書籍があります。そして、野口英世が1928年に亡くなると、野口英世記念館の設立に尽力することとなります。

その後、1949年に財団法人野口英世記念館が創立された時には理事長となり、親友である亡き野口英世のために尽くしました。



図2 石塚三郎先生著「パプラールの由来」についての著書の表紙
～表紙に写っている写真の右は石塚先生で、左は日本に帰国中（1915年）の野口英世～

また、「わが友野口英世」で詳細が示されていますが、石塚先生が歯科医術開業試験に受かったおり、血脇先生が、1着しか持たないモーニングを、石塚先生に記念として渡されたことがエピソードとして紹介されています。血脇先生は、野口英世がアメリカに留学する前に留学費用を使い果たし、奥様のそで夫人の着物を質に入れて、野口英世の留学費用を工面したことを私は自分の父親から聞いたことがあります。石塚先生は前にも書きましたとおり、野口英世の1915年の日本への帰国を実現させましたが、この帰国があったから、図3に示す創立者である高山先生の銅像前での血脇先生と野口英世先生の記念撮影が実現しました。

その後、東京歯科大学同窓会100周年記念事業として大学に贈呈された山田 潔画伯の絵画が大学の宝となることに、石塚先生が大きく関わっていたことは興味深いこ



東京歯科大学専門学校の卒業式（1915年10月17日）で祝辞を述べた野口英世博士（左）は、創立者高山紀雲先生銅像前で恩師である本学初代校長血脇守之助先生（右）と記念撮影を行った。

東京歯科大学同窓会100周年記念誌（1995年）P77より

図3 野口英世先生帰国時の東京歯科大学専門学校の卒業式での記念撮影に基づく絵画（同窓会100周年事業として大学へ贈呈）

とだと思います。

石塚先生は、血脇先生がなくなった約10年後、1958年に83歳で逝去されました。

5. おわりに

同窓会の120周年にあたり、これからの継承と発展を考え、血脇先生と血脇先生を支えた先生方がどんなことを行ってきたかを振り返ってみました。

きっと、いまの時代に先生方が生きていらっしゃったら、血脇イズムと共に、明るい展望をもちながら、将来を見据え、現実在即しながら、国民から信頼される歯科医療制度の確立を支えていたのではないかと思います。

120周年後の同窓会 に向けて



会計部常任理事

福 本 恵 吾

平成24年1月より同窓会の理事に就任させて頂き、会計部とゴルフ大会を担当させて頂いております。平成2年卒の福本と申します。平成卒の理事として初めて同窓会の執行部に加わり2年経とうとしております。雑感ですが同窓会の現況と今後の課題について思うところを書かせて頂きます。

会計部ではちょうど来年度の予算について検討を行っているところですが、予算の基礎となります会費収入は年々減少しているのが現状です。本年8月現在で同窓会の会員数は9,124名、内支部に所属されている会員は5,535名（卒後5年目までの新進会員を除く）で約60%、また昨年度の会費納入者は約4,500名です。会費収入が減っている主たる原因は

平成卒、特に平成二桁卒の会員の会費納入率が下がっているのが現状です。これは歯科界の様々な環境が変わり、私たちの頃のように卒業後、大学の医局や勤務医に務め、数年したら開業、そして歯科医師会に入るといって支店に未加入な場合が多い、あるいは女性で家庭に入られている等、多様な環境にあると思われます。そして、この傾向は今後も続くと考えられ、同窓会の事業を今のように維持するのは困難になってきています。

矢崎執行部はこれに対し若手同窓を支援するセミナーや、新進会員、準会員制度を立ち上げ、若い先生に同窓会の良さを理解してもらえよう努めて参りました。また、今後さらに多くの若手の先生に各種委員会への参加、会務に協力頂く事も必要かと思っております。

現役学生は学年により半数以上が女性との事です。卒業後、勤務医を続ける方、家庭での育児に専念される等、様々な環境が考えられ、女性会員に対し同窓会としてどのように繋がっていくかも今後の課題と思われ、これについても来年度以降、検討を始めようとしている所であります。

さて、先日行われました120周年記念ゴルフ大会では、平日開催でございましたが、例年を上回るご参加を頂きまして誠にありがとうございました。お申し込みを頂いたにもかかわらず、定員を超えてしまいやむなくお断りさせて頂きました先生にはこの場をお借りしましてお詫び申し上げます。来年は9月22日(木)秋分の日に埼玉県武蔵丘ゴルフコースにて予定しておりますので、また多くのご参加をお待ちしております。

同窓会とはいわば家族のようなものだと思います。この号が発行される1ヶ月後には、120周年の記念式典、祝賀会が開催されます。多くの若い先生方にもご参加いただき、120年つづく血脈イズムを享受し、継承するよう諸先輩との交流を深めてはいいかがでしょうか。

お知らせ

理事会より

- 東京歯科大学同窓会常任理事（事業推進部 アカデミア（生涯研修））

木暮 隆司（新任・昭和62年卒）

任期：平成27年6月14日から平成27年12月31日まで

- 東京歯科大学同窓会常任理事（総務・厚生部 情報管理）

高橋 潤一（新任・平成4年卒）

任期：平成27年6月14日から平成27年12月31日まで



木暮 隆司



高橋 潤一

同窓会事業・行事

- 平成27年度東京歯科大学同窓会評議員会

と き 平成27年11月28日（土）

ところ 如水会館（千代田区一ツ橋2-1-1）

- 東京歯科大学同窓会創立120周年記念式典・講演会・祝賀会

と き 平成27年11月29日（日）

ところ 式典：東京歯科大学水道橋校舎新館

「血脇記念ホール」11：00～

講演会：東京歯科大学水道橋校舎新館

「血脇記念ホール」11：50～

祝賀会：東京ドームホテル 天空 14：00～

「同窓会創立120周年記念式典・講演会・祝賀会」に多くの会員の方々にお申込まいただき、ありがとうございます。

この「会報」がお手元に届くころには「定員」に達している可能性がございます。

「お申込み」に関しましては、同窓会事務局（03-5275-1761）までご連絡ください。

「お申込み」（支部等の一括申込を含む）をしていただいた会員の方々には、「ご案内」を送付させていただきました。

「お申込み」をされた方で、「ご案内」が届いていない場合は、事務局までご連絡ください。（10月以降にお申込をいただいた方には届いていない場合もございます）

母校関係行事・案内

- 平成28年度東京歯科大学入学案内が母校だよりに掲載されております。

詳細は76～78ページをご覧ください。

東歯関係 日歯役員，各種委員

役 員

常務理事・小林 慶太 (S58卒) 常務理事・小枝 義典 (S59卒) 理 事・山崎 安仁 (S50卒)

各 種 委 員

役員報酬算定審議会

委 員・小林 俊春 (S44卒)

顕彰審議会

委 員・鳴神 保雄 (S30卒)

委 員・小枝 義典 (S59卒)

会館運営協議会

委 員・小枝 義典 (S59卒)

医療管理委員会

委 員・佐々木真澄 (S58卒)

社会保険委員会

委 員・稲葉 孝夫 (S57卒)

地域保健委員会

委 員・三木 昭代 (S53卒)

委 員・山本 秀樹 (S57卒)

学術委員会

委 員・木暮 隆司 (S62卒)

委 員・福本 恵吾 (H 2 卒)

委 員・静間祐一郎 (H 7 卒)

国際渉外委員会

委 員・井上 孝 (S53卒)

広報委員会

委 員・岡村美恵子 (S61卒)

HP企画小委員会

委 員・岡村美恵子 (S61卒)

会誌編集委員会

委 員・井出 良子 (S47卒)

委 員・尾松 素樹 (S54卒)

委 員・齋藤 淳 (H 1 卒)

資金管理運用委員会

委 員・寺田 仁志 (S63卒)

歯科医療安全対策委員会

委 員・中西 孝紀 (S50卒)

図書管理運営委員会

委 員・櫻井 薫 (S53卒)

歯科医療機器委員会

委 員・柴原 孝彦 (S54卒)

材料規格委員会

委 員・小田 豊 (推薦)

医薬品委員会

委 員・一戸 達也 (S56卒)

スポーツ歯科委員会

委 員・岩田 昌久 (S63卒)

委 員・武田 友孝 (推薦)

災害時対策・警察歯科総合検討会議

委 員・高田 克重 (S57卒)

委 員・西 孝一 (S50卒)

東歯関係 日本歯科医師連盟

役 員

副会長・藤原 元幸 (S50卒)

副会長・加藤木 健 (S46卒)

理 事・竹之下伸一 (院 S52修)

私の臨床ノート 「欠損歯列をどう見るようになったか」



宮 地 建 夫 (昭和42年卒)

(その3) 欠損歯列の評価と処置方針

前回まで、欠損歯列を“病期と病型”という2つの方向から病態把握する方法を説明しました。今回は具体的な一症例を通して欠損歯列を評価してみます。

役員、主訴左上4の動揺と疼痛。初診から約1カ月後保存不可能と判断しその歯を抜歯しました。図1は抜歯後の歯式です。抜歯により唯一の臼歯部咬合支持を失って Eichner B4 になりましたが、日常の食事の不便さを訴えることはありません。

1. 症例 (図1) の概要

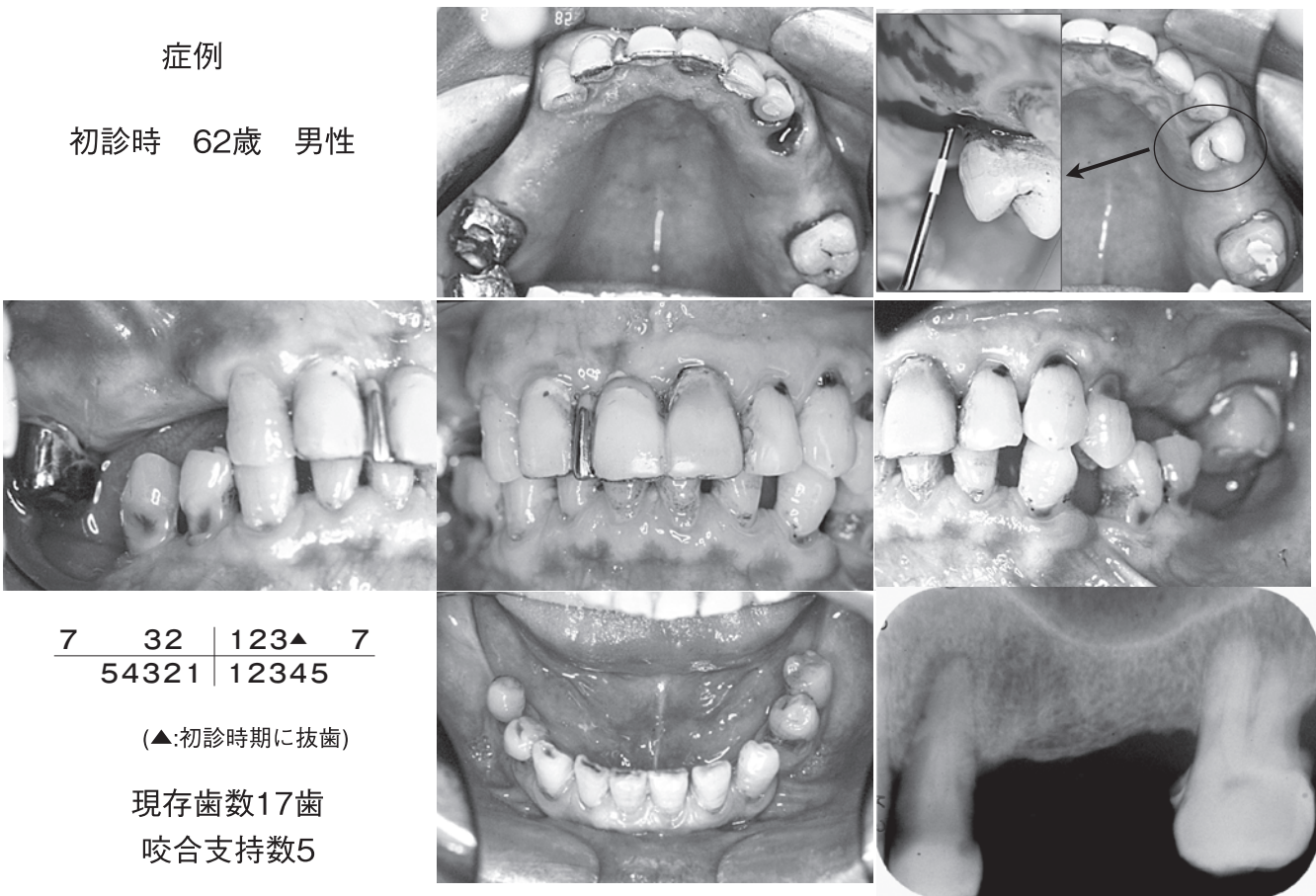
初診1985年8月、当時62歳男性、金属関係の会社

2. 咬合三角とリスク評価

咬合三角で確認すると、第三エリア (2月号参

症例

初診時 62歳 男性



(▲:初診時期に抜歯)

現存歯数17歯

咬合支持数5

図1 左上第一小白歯の動揺と疼痛が主訴で、保存不可能と判断し抜歯した。抜歯により Eichner B4 になった。

照)の直前の位置にきています。もし咬合支持がこれ以下になると顎位はより不安定に、咬合再建も困難なステージに入っている危険性の高いレベルにいたことが読み取れます。第三エリアに入れば総てが難症例というわけではないとしても、“危険の可能性”を見逃さないように少し過剰に先読みすることがむしろ大切です。逆に、もし咬合三角の左上で充分に安定しているような歯列では、見逃し(β過誤)より読み過ぎ(α過誤)のほうが問題になります。この症例のように歯列レベルが悪化傾向にあるときは、「難症例エリア直前」のつまり「崖縁にきたハイリスク症例」と少し強めに読んでおくべきだと思っています。

3. 咬合三角とコース

咬合三角では咬合支持数がどこまで減弱しているかという上下のレベルと同時に、どちら側に寄って

いるかという図の左右レベルも掴んでおきます。本症例では咬合支持数5・歯数は17歯です。咬合支持数5になる歯数条件は19歯から10歯の範囲ですから、17歯は咬合支持数のわりには歯数が多い症例ということになります。咬合三角内に走る曲線は著者の診療室で集計した咬合支持数と歯数の平均値のラインです。この症例はその平均ライン上に位置し、ここから歯の喪失があったとしてもこのまま平均的で穏やかなコースで少数歯残存方向へ軟着陸していれば、日常あまり不便がなく推移するだろうと思われれます。

4. 歯の生涯図での読み

初診時62歳で歯数17は、この患者の当時の年齢平均と比較すると、喪失が3歯ほど多く、初診までの歯の喪失速度がやや速かったことが伺えます。そして「現状が悪いと、その後も悪い」というのが予測

第三評価 Cummerの分類

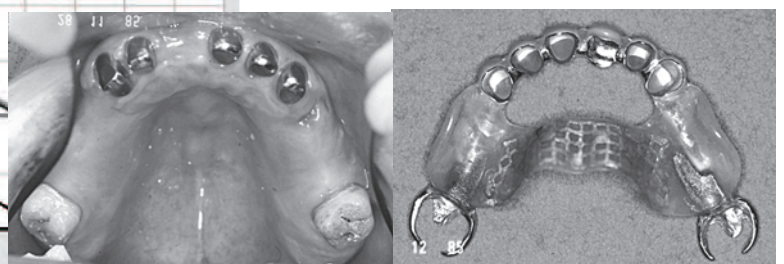
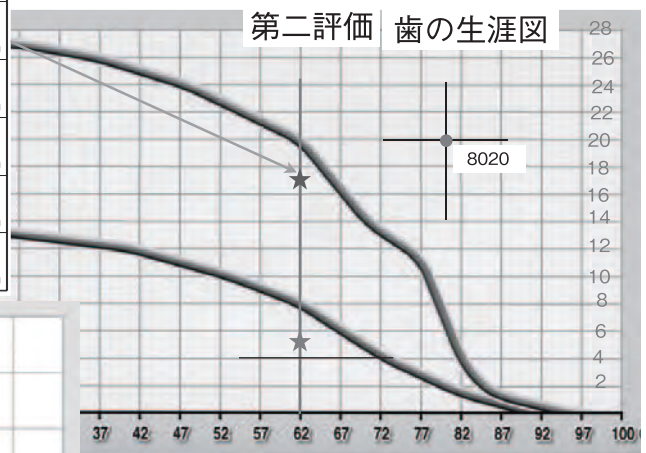
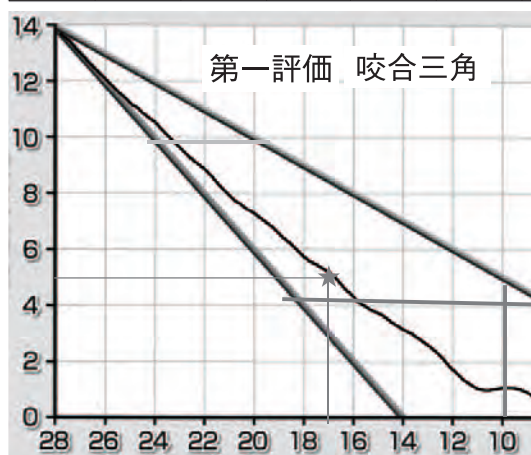
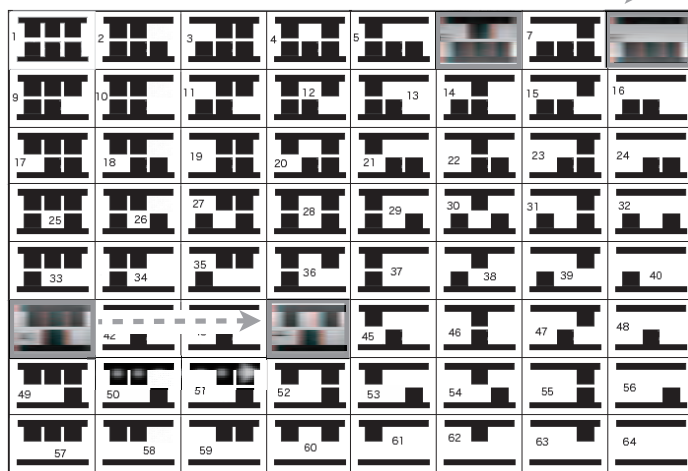


図2 咬合三角・歯の生涯図・Cummer分類の3図を同一画面で見えるようにしておくと、欠損歯列の悪化レベル(進行度合い)が掴みやすい。

の物差しですから、その物差でみると、“これから注意しなければ”という予測が成り立ちます。さらに60歳代後半からの10年、15年はそれまでよりも平均的な歯の喪失速度が急カーブになっていますから、それを本症例に当てはめると、これからさらに増齢リスクが加算されるとみて、心の準備をしておくべきかもしれません。今までの流れから、これからのリスクを嗅ぎ取ろうという姿勢が欠損歯列のような継続疾患では大切だと思っています。

5. Cummer 分類の性質

次に欠損パターンという病型の確認です。欠損パターンはCummer分類がイメージしやすいのでこの分類を利用します（6月号参照）。この分類の弱点は感度の鈍さがあげられます。本症例でも、歯式のまま読めばパターン1ということになります。歯数が17歯に減少してもパターン1から動かないことから“感度の鈍さ”が分かると思います。ここで将来どんな終末パターンに向かって進んでいきそうかを推測することが目的ですから、実際の歯式をそのまま当てはめるより、行き着く先は多分こういうパターンへ流れそうだ、このコースと見なせるのでは、と少し大胆に深読みすることがCummer分類では必要になります。感度の鈍さを補うためにです。

6. 欠損パターンの流れ

本症例は歯式ではパターン1でしたが、下顎の両側遊離端重視するパターン41に近いとみなせます。あるいは上顎前歯部に多くが存在し、左右臼歯部は少ないということに注目するとパターン6への流れの途上のようにもみなせます。パターンの流れをザックリ掴むという意味では分類表の下降するコースをとっているとみなすか、上段を右横に進むコースなのかという流れの傾向を読み取る必要があります。下降するコースなら下顎の補綴が優先されますし、右横に進むコースなら、上顎歯の補強が優先されるはずです。

7. 処置方針

この症例を私は、上顎前歯がハイリスクになるパターン6へのコース途上と診ました。その判断根拠としてパターン41から44に進む頻度よりも、パターン6から8へ向かう方がざっと倍以上発現しやすいという臨床データがあるからです。もし迷ったらパターン6や8へ向かっていると疑ってみるほうが後悔の少ない選択になります。咀嚼機能に不満が無いということからも下顎臼歯部の補綴よりも、まず上顎前歯を保護する処置方針が優先されると読みました。そして咬合三角や歯の生涯図からは進行リスクが高いようなので、少し積極的な補綴が求められている時期だと判断しました。その結果として処置方針は上顎前歯部を積極的に取り込んで二次固定効果（次号で説明）を期待した義歯を選択しました。その旨患者さんに提示し、同意を得て補綴処置に進みます。

8. 意思決定と特定要因図

2月号、6月号で説明した病期と病型という視点で症例の病態をみてみました。その読みから、処置方針が導き出されたように説明しましたが、実際の臨床ではそういうわけにはいきません。ここで取りあげた欠損歯列の評価は症例全体の病態のごく限られた部分だからです。症例全体の病態には個々の支台歯の病態や顎運動のような神経筋機構、咬合力・病的噛み癖、それに加えて患者の生活背景や価値観まで、おおくの要素が絡んできます。さらに術者一人一人の癖まで含め臨床での意思決定は複雑系といわれています。ということで仲間内での症例検討会などを利用して、自分の意思決定の偏りを自身で確認しておくことが大切だと思っています。

同窓会では自由参加の「症例検討会」を行っています。同窓会HP（検索：2015TDCアカデミア卒業研修）をご覧ください

最終回では今回の症例の補綴設計の選択、長期経過とその経過をどのように評価したかを取り上げたいと思っています。

会 務

東京歯科大学同窓会選挙規則により、次期（平成28年1月1日～平成29年12月31日）の「会長」および「監事（3名）」の選挙についてお知らせいたします。

公 示

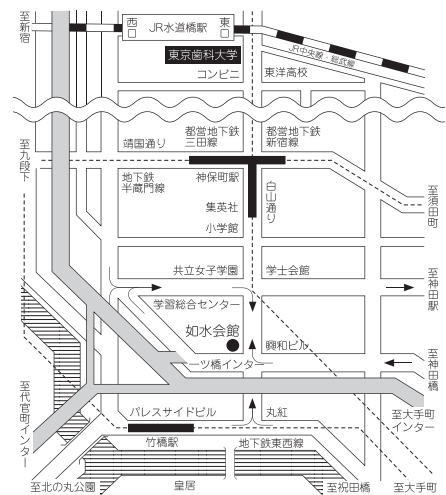
選 挙 期 日：平成27年11月28日（土）
選 挙 場 所：平成27年度評議員会会場（如水会館）
届 出 場 所：東京歯科大学同窓会事務局
東京都千代田区三崎町2-9-18
（東京歯科大学水道橋校舎南棟6F）
届出締め切り：平成27年11月18日（水）正午
被 選 挙 権：支部入会後2年を経過した会員
届 出 人：本人または代理人
（必要なもの）
立 候 補 者：本人の略歴および趣意書
推薦候補者：会員の推薦者2名以上の署名捺印のある推薦書と本人の承諾書

届出用紙が必要な場合は、事務局（03-5275-1761）までご連絡ください。

平成27年度東京歯科大学同窓会 評議員会 日程

1. 日 時 平成27年11月28日（土）
午前10時00分～午後3時00分
2. 会 場 如水会館 2階 スターホール
東京都千代田区一ツ橋2-1-1
電話番号 03-3261-1101
1. 開 会 の 辞
1. 点 呼
1. 会 長 挨 拶
1. 来 賓 挨 拶
1. 議長、副議長選出
1. 議事録署名人
1. 黙 祷
1. 報 告
- (1) 平成27年度 会務報告
- (2) 平成27年度 会計現況報告（財産の廃棄処分を含む）
1. 東京歯科大学の現況
1. 叙勲/褒章受章者顕彰式
1. 議 事

第1号議案 平成26年度 経常部収支決算



最寄りの駅からの案内図

- 第2号議案 平成26年度 特別会計収支決算
（同窓会基金、血脇記念基金、高山・血脇記念同窓会基金、共済基金、名簿積立金、退職積立金、同窓会創立120周年記念事業積立金）
- 第3号議案 平成26年度 卒後研修セミナー、卒後研修セミナー積立金収支決算

第4号議案 平成26年度 時局対策費積立金会計
収支決算
第5号議案 平成26年度 財産目録
(監 査 報 告)
第6号議案 評議員の選任および会議に係る会則
の改正
第7号議案 選挙規則の改正
第8号議案 平成28年度 事業計画
第9号議案 平成28年度 入会金および会費
第10号議案 平成28年度 経常部収支予算
第11号議案 平成28年度 共済負担金
第12号議案 平成28年度 特別会計収支予算
(高山・血脇記念同窓会基金, 共済
基金, 名簿積立金, 退職積立金, 同
窓会創立120周年記念事業積立金)

第13号議案 平成28年度 卒後研修セミナー, 卒
後研修セミナー積立金収支予算
第14号議案 平成28年度 時局対策費積立金会計
収支予算
第15号議案 役員改選
第16号議案 選挙管理委員・予備選挙管理委員の
選出

1. 協 議

- (1) 支部未加入者対策について
- (2) 叙勲/褒章受章者顕彰式について
- (3) その他

1. 閉 会 の 辞

評議員会の傍聴を希望する会員は、事前に事務局までご連絡ください。

東京歯科大学同窓会各種委員会委員

事業推進部社会保障制度研究委員会の追加 (平成27年9月19日～平成27年12月31日)

協力委員 菰 川 雅 彦(H2卒) 奈 良 夏 樹(H18卒)

事業推進部卒後研修委員会の追加 (平成27年8月30日～平成27年12月31日)

白 水 直 樹(H7卒)

事業推進部卒後研修委員会の交代 (平成27年6月15日～平成27年12月31日)

協力委員 (新) 古 澤 成 博(S58卒) (旧) 山 下 秀一郎(推薦)
(新) 野 村 武 史(H7卒) (旧) 片 倉 朗(S60卒)

訂正とお詫び

会報「400号」に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

p59 会務アラカルト

中段下から12行目

誤：高津 弼

正：高津 弼

p65 事業推進部

サブタイトル

誤：税と社会保障の一体改革波動なる？

正：税と社会保障の一体改革はどうなる？

p96 逝去会員

下から9人目

誤：佐藤 公子(60歳)

正：佐藤 公子(54歳)

平成27年度 学年代表者会開催

平成27年7月20日(祝・海の日)水道橋校舎新館11階第一講義室において、東京歯科大学との共同開催のもと「平成27年度学年代表者会」が開催されました。この日は、台風一過のとても暑い日で、また、連休の最終日という集まり難い日程にもかかわらず、昭和19年9月卒業(十六会・50期)の山根照人先生を筆頭に、今春卒業の(桔梗会・120期)代表代理の大村雄介先生まで、57学年の代表の先生と、同窓会・大学関係者22名の総勢79名が出席され、臼井文規総務担当常任理事の進行のもと、浮地文夫同窓会副会長より「この会は学年代表の先生方と同窓会の縦と横を結ぶ絆となる大変重要な会です」という挨拶で開会しました。



浮地副会長

開会に先立ち、井出吉信学長よりご挨拶をいただきました。

次に、矢崎同窓会長より「120年前の明治28年血脇先生が歯科医師は生涯にわたり研修をし、ともに助け合い、お互いに人間性を高め合うことが必要ということで、院友会を立ち上げ、今年が120年になります。本年11月29日に行なう同窓会創立120周年記念式典・講演会・祝賀会では、日本最古の



矢崎会長

歴史を誇る東京歯科大学の伝統と精神を次世代に継承するための素晴らしい会になるよう準備を進めておりますので、是非との多くの皆様に参加していただき、今後どのようにこの同窓会を発展させていくか・どのような同窓会にするべきかを皆さんと話し合いたいと思います。これまでの長い歴史の中でも、同窓会の支援により東京歯科大学が発展してきておりますので、血脇イズム、そして、それを切り開くフロンティア精神に則り、東京歯科大学が日本一の歯科大学で有り続けるためにも、西棟の完成に向けてご協力ご支援をお願い申し上げます」と挨拶がありました。

以下、報告と協議についてご紹介します。

【報告】

1) 大学より

井出吉信学長

(1) 大学の近況について

今年度の入学生は、女性が多くなり、ほぼ半数が女性となっている。卒業生では、3人に1人は大学院に残っていただいている。

今年度より、歯科社会保障学(上條英之教授)。口腔病態外科学講座(片倉 朗教授)。パーシャ

ルデンチャー補綴学講座(山下秀一郎教授)。スポーツ歯科、摂食嚥下リハビリテーション、障害者歯科、口腔顔面痛研究室をあわせて口腔健康科学講座(福田謙一教授)を新設した。



井出学長

今年も国家試験の合格率は良くすべての分野で全国一位で、100人以上の歯科医を出しているのは本校のみであるが、今後も気を引き締めて取り組みたい。現在は、学生同士で講義をしたり、市川病院も一部改築し、採血、挿管など学生と研修医と医療関係者が一緒になって勉強できる体制を整えたり、学生課をおき学生の管理ができるようにしたりと、様々な工夫を凝らしている。2050年には出生率が下がり、8020運動も推進され、歯科医療も変わって行くことが予測されるが、その頃に対応できるよう全身管理や、周術期にも対応出来る歯科医になれるよう教育をしている。

本校の決算としては3%の消費税が上がった分の収入が下がっているが、授業の内容が良いということで大学としての授業料の黒字が大きい。医療制度など国の施策が変わる事で変動が出ることへの対応を行っており、法人の評議

員会にて一昨年より大山監事、矢崎会長とともに外部有識者の方にも参画していただき監査をしていただいている。

現在は本館の後ろ側に西棟の建設が進んでおり、本館と繋げる計画で、最新の耐震基準を満たすよう来年の3月完成予定となっている。千葉病院は、耐震診断を行い、千葉校舎のあり方委員会を立ち上げ、検討しているが、即売却するという方向ではないので、学生のクラブ活動や学生生活を支援する為にどうすべきかを検討している。有り難いことに、患者は増えているが、移転に伴い千葉病院のDrが少なくなっているのを千葉病院で指導していただける同窓の先生のお力をお借りできれば有り難いと考えている。

診療、教育ともに力を入れ、これからの東京歯科大学を発展させていきたいと考えているので、ご協力いただきたい。またこのことについての説明に呼んでいただければと思う」

事前質問) 小林 彰先生

(昭和56年卒・水公会)

ニューヨーク在住の同窓より：野口英世先生の別荘の活用について



小林先生

回答) 一戸達也副学長(大学)

管理だけで多額の経費が係っているが、大学としては、あまり活



一戸副学長

用されていない現状。東京歯科大学としては、想いの地ではありませんが、検討の余地があると考えているという状況で有る事をご理解いただきたい。

2) 同窓会より

(1) 会務報告

臼井常任理事

*役員交代

四国地域：久保田晃先生から沖義一理事へ地域理事の交代。小林慶太常任先生より木暮隆司常任理

事へ。寺田仁志常任理事から高橋潤一常任理事へ交代。

*評議員会報告

一昨年の評議員会で、選挙管理委員、予備選挙委員の選任について承認され、その選挙管理規則に則り本年が最初の選挙にあたる。現在まで約15,000人卒業者のうち昨年の支部加入者は9,129名で、70%を切ってしまった。大都市圏の関東、東京では60%、近畿で80%と支部加入が減っており、平成卒の先生は少なく男性35%女性10%と半数以上が支部に加入していない。特に平成17年以降の加入は男女併せて35%が現況。

対応策として、学生の頃から同窓会に理解をいただくということで、大学の協力をいただき講義で同窓会の説明を行ったり、準会員として会報の送付をしている。また、卒業生へのオリエンテーションの実施や卒業式では同窓会会員



臼井常任理事



諸先輩方



若い先生方

章をお渡ししている。尚、同窓会会報は、同窓会報1号から現在に至る会報まで、すべて閲覧できるようにHPに掲載しているので、ご覧いただきたい。

*創立120周年記念事業

11月29日に開催する「同窓会創立120周年記念式典・講演会・祝賀会」は、「困難を乗り越え120年の輝かしい歴史と伝統を築き上げてこられた先輩の努力と情熱に経緯を評し、これからの同窓会の果たすべき役割を確認するつどい」ということで開催したいと考えており、実行委員会を中心に、多くの会員の声を聴き開催にむけ頑張っている。関連企画として、第300回東京歯科大学学会も同窓会創立120周年事業にご協力をいただき、ゴルフ大会、記念フォーラム等が予定されている。前日の28日には、評議員会が開催されるので、同日にクラス会の開催を行なうなど是非多くの同窓会員にご参加頂ける様お願いしたい。

*大学との連携

大学の発展に関し、同窓会は全面的に大学へ協力をしており、今回も2,258万円の寄付をいただいているが、この度も更なるご支援をお願いしたい。



高橋専務理事

(2) 事前質問への回答

質問) 小林 顕先生

(昭和56年卒・水公会)

評議員会数削減に関する経過措置、経費について

回答) 高橋義一専務理事

新しい時代にむけての同窓会改革の一環として、評議員数の削減を提案し、評議員会のあり方も検討することを要件として、1県1評議員の経過措置がとられてきた。検討の結果、評議員会では、事業計画や予算など本部執行を審議する代議員会的な役割を行い、都道府県代表者会は、地域の課題など全国組織的要素を行なうという2部制にして、同日に行なう。

平成22年より始めた学年代表者会では、本部のみならずクラス会ごとの課題を検討し発展充実を目指す目的で、クラス会組織の確認、情報ネットの確認、本部とクラス会との連携などから始まり最

近では、平成2桁代卒の若い先生方も出席していただいている。今年度の評議員会で経過措置終了と都道府県代表者会の決定を目指している。基本的に、評議員会、都道府県代表者会、学年代表者会をあわせても、予算的に問題なく執行できていると考えている。

質問) 福本 博先生

(昭和18年卒・二六会)

学年代表者会は卒後50年を以て除外してはどうか



財部副会長

回答) 財部正治副会長

一人でも元気な先生がいらっしゃるようであればクラス会は存続しますので、是非ご参加いただきたい。

丹野 研先生

(昭和39年卒・十二期会)

高齢になり同窓会は無関係と思っている先生も多く、クラス会離れが増えているが、どうしたらよいか。



諸先輩方



若い先生方

回答) 財部正治副会長

長年の経験や多くの知識を持つ



丹野先生

諸先輩方には、同窓会において、貴重なご意見を伺うことも多いと思われるので是非共ご協力いただきたい。

質問) 森岡俊介先生

(昭和47年卒・七十七期会)

同窓会の中の叙勲・褒賞受賞者を情報ネットなどで知らせていただきたい

回答) 財部正治副会長

公に出来るタイミングを計らなくてはならないので、そこを踏ま



森岡先生

えた上で要望にお答えしたい。

質問) 小林 顕先生

(昭和56年卒・水公会)

若い会員の同窓会に対する要望・希望に関する調査は行なっているか

回答) 高野博子常任理事

昨年の新進会員のつどい参加者90名にアンケートをしたところ、来年のつどいへの参加について、90%以上が前向きに参加を考えているという結果がありました。講

演内容の希望は、臨床、卒後の進路、開業についてなど様々な希望



高野常任理事

があった。

卒後十年目までの先生方の参加により団結のつよい同窓会を創っていきたいと考えている。

【協議】



宮地副会長

座長: 宮地建夫副会長

同窓会より: 学年代表者会の位置づけについてご意見を伺いたい
財部正治副会長

次年度からの位置づけについては、各年代のご意見を聞いて同窓会の運営をしたいと考えているので意見を伺いたい

古谷 忠先生

(昭和50年卒・八輪会)

評議員会、学年、都道府県、の役割が良く解かりましたので、今後も協力していきたいと思う

岡野昌治先生

(昭和52年卒・82期会)

東京歯科大学関係の先生方にお越しいただき講演をしていただく場合の交通費は? どれくらいの実績があるか? 学年単位の催しでも



古谷先生



岡野先生

お願いできるか?

高橋義一専務理事

支部だけではなく、クラス会の中で学術研修会をおこなった場合への援助については、前向きに検討したい。

井出吉信学長

クラス会への講師派遣については、大学と同窓会と話し合って検討したい。

大井誠一先生

(昭和53年卒・八実会)



大井先生

学年代表者会は、其々の年代により事情が異なっていると思うので、其々の年代の悩みなど意見を吸い上げていただきたいと要望します。

座長) 宮地建夫副会長

学年代表者会として大切な役割と考えるので、是非前向きに検討していきたい。

小林 顕先生

(昭和56年卒・水公会)

先輩から慶弔についてなど相談させていただいた。情報交換としては大変大切。学年代表者は会則には規定がないがどのように考えるか。

井出吉信学長

評議員とクラス会では、違った先生が参加しているので、大学からの情報を色々なルートからお伝えしたいと考えている。

財部正治副会長

同窓会としてもクラス会の情報を集約して会務に反映すべきと考える。伝達機能として情報のネットワークを確立していきたいと考えるが、各クラス会ではどのようにしているかを教えていただきたい。

会場) ML 活用, クラス情報 LINE
森岡俊介先生

(昭和47年卒・七十七期会)

学年代表者会で検討した内容の報告をいただきたい。名簿の管理など含めクラス会開催における案内の発送はどうなったか。

表彰については、学年を超えた知人の表彰について等お知らせいただければと思う。

高橋潤一常任理事



高橋常任理事

検討した結果、現段階においては、代診医制度について、本部で代診のシステムを創ることは難しい。クラス会開催の案内ハガキについては、宛名シールの提供は可能かと思うが、発送や出欠は、様々な事情で難しいとは思いますが、前向きに検討したい。

高橋義一専務理事

現在までの経験を踏まえ、地域や支部に役立つ資料の作成を行なっている。評議員会の議事録をHPに掲載する事も検討しており、その他、本部で議論したことについてのフィードバックについては、検討してご報告したい。



寺田先生

寺田仁志先生

(昭和63年卒・新葉会)

平成卒の64%が支部未加入であるが、支部長からアプローチしていただかないとクラス会では対応できない。例えば、女性の会員は同窓会や歯科医師会には参加しないが、クラス会には参加する。今後は、このような女性の参加を検討してはいかがか。

最後に、矢崎会長より「クラス会は、同窓会の組織の中で横の繋がりとして大切な会です。様々な議論を経て同窓会の運営に役立てて行きたいと思い

ます。今後も、縦横の繋がりなど様々な繋がりをもとに纏めて大学、同窓会の発展につなげていきたいのでよろしくお願いしたい。」という挨拶と、玉井達人副会長から「クラス会、同窓会はとても有り難いものだと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。」という閉会の挨拶によ



玉井副会長

り終了しました。

この後、新館13階へ会場を移し懇親会を行ないました。東京歯科大学と同窓会、そして、同窓の縦と横の絆を結ぶ「同窓会設立120周年記念式典・講演会・祝賀会」が盛会であることを祈念しつつ、お開きとなりました。11月29日は、是非とも多くの学年代表者の先生方にご参加いただきまして、同窓会の明るい未来を語り合う場となることを心から期待するものです。

(広報委員会 佐々木葉子 記)



若い先生方



理事会のうごき

第3回理事会

平成27年6月13日（土）午後2時30分

於 特別会議室

出席 33名

議長 矢崎会長

会長挨拶

四国地域支部連合会選出理事として長年にわたり同窓会のためにご活躍されてきた久保田先生が急逝された。心からご冥福をお祈りする。新たに高知県支部の沖先生が理事に就任された。ご活躍を期待する。

日本歯科医師会の新たな執行部には、同窓会の小林常任理事、東京都歯科医師会の小枝理事、富山県歯科医師会の山崎会長が理事として選出の予定となっている。また日本歯科医師連盟に対しても、今後も同窓会として協力していくことになる。

同窓会報6月号に120周年記念の特別企画があるので是非目を通して頂き、120周年式典・祝賀会、また東京歯科大学学会300回記念大会へ参加を促していただきたい。

現在大学では西棟建設が進んでいるが、建設費の高騰などの厳しい財政状況をふまえて、寄付など大学への支援を各支部にさらに働きかけてほしい。

島村・白須賀国會議員が国会で活躍しており、同窓会各地域でも総会などに招いて、積極的に話を聞いて頂きたい。また、両国會議員主催の講演会、パーティへの参加もお願いします。

最後に私事であるが、日本歯科医師会の役職を平成16年から歴任してきたが、この度任期を終える事になった。今までの皆様のご支援、ご協力に心から感謝し、お礼申し上げます。

黙 禱

埼玉県支部・田辺久人氏はじめ6名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

会務報告ならびに承認

1) 平成27年5月21日から平成27年12月24日までの日程を報告。

2) 各部報告

(1) 総務厚生部：①地域支部連合会会長1名交代報告。②支部長1名交代報告。③支部長退任時の感謝状ならびに記念品の贈呈について1件報告。④逝去会員について規程により弔慰共済金を支給した旨の報告。⑤総務・厚生委員会報告。⑥ゴルフ大会委員会報告。⑦母校「水道橋校舎施設設備整備資金寄付金」申込み状況報告。⑧情報ネットワーク推進会議報告。⑨会務運営協議会報告。⑩東日本大震災対策部会報告。⑪同窓会創立120周年記念事業実行委員会報告。⑫新進会員のつどい実行委員会報告。

(2) 会計部：①地域支部連合会学術講演会助成金の支出について1件報告。②支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について6件報告。③平成27年度5月末現在現況報告。④事務職員夏季期末手当について報告。

(3) 渉外部：①渉外部委員会報告。

(4) 広報部：①広報部委員会報告。②同窓会HPアクセスレポート報告。

(5) 事業推進部：①社会保障制度研究委員会報告。②若手ネットワーク委員会報告。③卒後研修委員会報告。④医療教養委員会報告。⑤臨床セミナー委員会報告。⑥アカデミア生涯研修企画会議報告。⑦アカデミア情報オンデマンド配信検討会報告。⑧TDC卒後研修セミナー2015報告。⑨二校会主催若手研修セミナー報告。⑩全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会報告。

各地域選出理事報告

関東・高原理事、東海・山田理事、九州・田部理事より報告。

協議事項

(1) 平成27年度東京歯科大学同窓会決算書について

- 協議、承認。
- (2) 平成28年度事業計画案および予算案を担当理事
が取りまとめて会計担当に提出する提案を承認。
- (3) 「学術講演会講師交通費の支出要請についての
覚書」の改正について平成27年度より施行とした
ものを平成28年度に先送りする提案があり、協議
の結果、不利益を被る支部が出ないよう配慮する
ことも含め、承認。
- (4) 大学と共同開催の学年代表者会について同窓会
提案の協議題を説明。承認。
- (5) 継続審議中である支部加入策提案について平成
27年度評議員会においていくつかの案を提案、協
議いただき、広く意見を求めるものとする。
- (6) 評議員会における宿泊費の支給について提案、
承認。
- (7) 役員交代について2名の常任理事交代を承認。
- (8) 選挙人と選挙準備について再確認。

文学座公演「野口英世物語」についてのお知らせ

東京歯科大学同窓会
会長 矢崎秀昭

日頃から同窓会の活動に多大なるご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。すでにご存じのように、
本年は血脇守之助先生が明治28年に同窓会の前身となる「院友会」を創設して120周年を迎えること
となります。

同窓会創立120周年の記念会と、ほぼ同時期に、野口英世の人間像を描いた、文学座の公演が開催
されます。第一幕では高山歯科医学院や、三崎町の血脇守之助邸の場面など、血脇守之助の偉大な人
物像と共に、世界に羽ばたけた野口英世との、人間的結びつきについても演じられると思います。

文学座から東京歯科大学同窓及び大学関係者、学生の方には是非ご来駕いただきたく、下記のような
連絡がありました。

同窓会創立120周年を盛り上げるためにも、この文学座公演の盛会を同窓として支援していただき
たく、お願い申し上げます。

また、詳細については東京歯科大学同窓会のホームページにも掲載されています。

☆ 公演期間：平成27年11月6日(金)～15日(日)

☆ 場 所：紀伊國屋サザンシアター

☆ 料 金：(全席指定・税込)

- ・一般：6,000円→5,400円(東京歯科大学割引)
(チケット申し込み時に東京歯科大学関係と言ってください)
6日(金)・9日(月)は4,000円
- ・ユースチケット(25歳以下)：3,800円→3,500円
- ・中・高校生：2,500円

☆ 前売予約：■文学座チケット専用 0120-481034(10:00-17:30/日・祝除く)
■文学座 HP <http://www.bungakuza.com/>(Getiiより)
■キノチケットカウンター 新宿駅東口 紀伊國屋書店新宿本店5F(店頭販売のみ10:00-18:30)
ほか

☆ 地方公演：2015年11月21日～23日(可児市文化創造センター)
11月26日～27日(兵庫県立尼崎青少年創造劇場 ピッコロシアター)
11月29日(長岡リリックホール)

☆ 【お問合せ】

文学座 03-3351-7265(担当：白田聡、松田みず穂)
<http://www.bungakuza.com> email=shirata@bungakuza.com, matsuda@bungakuza.com

東歯関係日歯役員・代議員と 同窓会役員との懇談会

第179回日歯定時代議員会1日目の6月18日(木)の午後6時15分より飯田橋のホテルメトロポリタンエドモント3階「波光」において東歯関係日歯役員・代議員と同窓会役員との懇談会が開催されました。

出席者は、東歯関係の日歯役員4名、次期日歯役員2名、日歯代議員18名、都道府県歯会長4名、同窓会役員20名、渉外委員2名、そしてご来賓として母校の井出吉信学長と、白須賀貴樹衆議院議員と島村 大参議院議員がご列席くださいました。

佐々木眞澄常任理事の司会進行で、玉井達人副会長が開会の辞を述べ、まず矢崎秀昭会長より、「無事、次期日歯執行部が発足することになり代議員の先生方の協力に感謝する。本年の同窓会創立120周年の一連の行事、母校の西棟建設、同窓の2名の国会議員に是非応援・協力してほしい。」との挨拶

がありました。

この後、ご来賓よりご挨拶を頂戴いたしました。まず島村 大参議院議員より「今後の医療制度の方向性について」、つづいて白須賀貴樹衆議院議員より「安全保障と社会保障について」それぞれご挨拶がありました。

つづいて出席者紹介を行い、日歯常務理事の任期が満了する富山雅史先生と中島信也先生、そして次期日歯常務理事の小林慶太先生と小枝義典先生には、それぞれご挨拶を頂戴しました。

この後懇談会は、東京都歯科医師会会長の高橋哲夫日歯代議員の座長のもとに進行され、第179回日歯代議員会報告を鹿児島県歯科医師会会長の森原久樹日歯代議員が、日歯連盟報告を日歯連盟副会長で秋田県歯科医師会会長の藤原元幸日歯代議員が、つづいて同窓会の会務報告を高橋義一専務理事が行いました。途中で、日歯の

大久保満男会長、村上恵一専務理事、村岡宣明常務理事、そして日歯連盟会長で次期日歯会長の高木幹正先生、日歯連盟副会長で次期会長の高橋英登先生がお見えになりご挨拶を頂戴しました。

この後、各代議員の先生方が各都道府県の執行部の状況等の報告をされました。

そして最後に財部正治副会長が閉会の辞を述べました。

会場を「光彩」に移した懇親会では、宮地建夫副会長が開会と挨拶を述べ、つづいて佐藤 徹日歯常務理事の紹介と挨拶があり、大山萬夫顧問が乾杯の発声し終始和やかな雰囲気の中進行しました。途中、所要のため遅参された母校の井出吉信学長より母校の現況を含めた挨拶を頂戴しました。最後に鳴神保雄顧問の総括と閉会の挨拶で終了しました。



事業推進部

●アカデミア情報オンデマンド配信検討会●

オンデマンド配信始まる！

～会員に向けた動画による情報配信～

Doctorbook academy にご登録下さい

<https://academy.doctorbook.jp/>

現在、同窓会事業は、同窓会報・同窓会ホームページを通じ、会員への事業案内、報告、情報提供と行って参りました。しかしながら、学術セミナーを例にとりますと、東京といった地域に限られ、一部の会員のみを対象とした開催で、広く全国の同窓会に向けた情報発信には成り得ていなかったかと思います。そこで、インターネットウェブサービスを経由し、事業案内、学術情報を Doctorbook (株)のサイトを利用し、動画による情報配信をすることになりました。この Doctorbook は、「医療×IT 領域」における医療従事者による情報メディアとして、医療情報を収集し可視化し、新たな知を連続的に創出し、情報の価値化・共有化を掲げております。これにより、セミナー等の講演内容を録画し、講演資料を組み合わせた編集動画を会員に向けて配信し、オンラインで閲覧・学習が出来る環境を提供できるようにして行きます。また、若手歯科医師にオンラインラーニングの選択肢が増えることにもなるかと思います。

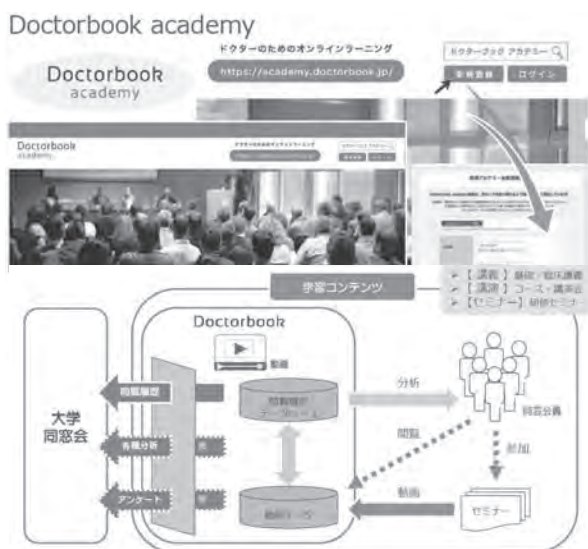
Doctorbook academy のサイトに、東京歯科大学同窓会の枠を作

成いたしました。ここから、これから配信されるコンテンツをご覧いただけるようになります。まずは、「同窓会120周年記念」に向けて矢崎会長のご挨拶をご覧ください、今後配信予定される同窓会事業

PR、セミナー案内、トピックス、セミナー講演ダイジェストにご期待下さい。(なお、Doctorbook academy のサイトには、大学の他にスタディグループ、メーカー・プロダクトなど、様々な情報がご覧いただけます)

(登録方法) 登録は無料です。

1. 同窓会ホームページ上、Doctorbook バナーをクリック
2. Doctorbook academy に移動し、新規登録をクリック
(Doctorbook の会員規約に同意した上で、個人責任にて登録を行って下さい)
3. 登録内容画面
(氏名、メールアドレス、性



別、パスワード、生年月日、歯科医師、医療機関名)

4. メールアドレスに、Doctorbook より登録の確認メールが届きます(仮登録)
5. そのメール上で本登録を完了させて下さい。(本登録、確認のクリック)
6. 各自のメールアドレス、パスワードを入力し、ログイン

*利用規約に、「会員が登録した内容が Doctorbook academy の参加企業へ情報開示されます」
企業 PR 等の広告が届く場合があります。ご承知おき下さい。

● 卒研リポート ●

TDC アカデミア 2015 医療教養セミナー

口腔保健オープン・フォーラム

「地域での成人歯科保健の展開」

5月21日(木)東京歯科大学水道橋校舎南棟6階において、口腔保健オープン・フォーラムが開催されました。

「口腔保健オープン・フォーラム」は、口腔保健活動に関する活動報告やディスカッションを通じ、地域保健活動における情報の共有化を目的として企画されたものです。

今回は、東京歯科大学歯科社会保障学教授の上條英之先生より「成人歯科保健の現状と課題」港区歯科医師会地域保健担当理事の西辻直之先生より「港区における成人歯科保健活動」そして、医療教養委員会委員長の高柳篤史先生より「実績評価と報告」と題したお話を伺いました。



上條英之先生から、75歳以上高齢者の急激な増加に伴う持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法の一部改正案や、国が考えている健康の増進に関する基本的な方向として①健康寿命の延伸と格差の縮小②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底③社会生活を営むために必要な機能

の維持向上④健康を支え、守るための社会環境の整備⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、禁煙、歯・口腔に関する生活習慣の改善及び社会環境の改善について示され、今年度の厚労省予算において1) 8020運動・口腔保健推進事業 2) 保険者における歯科口腔保健の推進事業 3) 後期高齢者医療の被保険者に係る歯科健診事業が進められているという説明がありました。

総括として、①高齢化に伴い口腔が気になる者の割合がふえていること②市町村での歯周病検診受診者は増加傾向③国レベルでの歯科保健サービスや制度、事業が明記されたこと、などから追い風傾向にあるとのこと。そして、④今後はそれに伴う事後評価が重要である。とのお話をいただきました。



西辻先生からは、このような国政、行政の動きを踏まえ、地域においてどのような活動がなされているかをお話いただきました。

港区は、平成24年度統計において、61.2%と全国で初めて8020達



成者が50%を超えた地域です。

港区では、効果的な健診実施に向け、「成人歯科健診のあり方検討会」を設置、成人歯科健診がなぜ住民から敬遠されるか…を検討し、ライフステージに応じた新たな健診を構築したそうです。現在の「お口の健診」は、疾病の早期発見を主目的とするものではなく、口腔機能全般に渡るスクリーニングを行うことで、口腔内の問題を受診者自身が発見する機会を提供し、受診者が「痛くない」「また来なくなる」「楽しい」と感じられるように受診者とのコミュニケーションを優先し、歯科保健教育・モチベーションに時間をかけることが特徴となっているとのことでした。(詳細は、口腔衛生学会誌52:472-473, 2002)

近頃は、8020達成者が増えているとはいえ、61.2%の達成率は素晴らしいことだと思います。いかに、港区の先生方が、行政や地域と密に連携をとり良い関係を築いているか、そして、地域住民の健康増進に向けた創意工夫の賜物



と、関心させられました。

そして、最後に、高柳委員長より、これらの現状をふまえた上で、上條先生がお話されていたように、今後の歯科保健に欠かせない事後評価や①現状の把握②将来戦略の資料③実績のビジュアル化④行政や住民とコミュニケーションツール⑤学術的資料としての報告の意義についてのエッセンスを

聞くことが出来ました。

このように講演内容を記載しても、これを読んで興味を持つ先生はどれだけいるでしょう？私達歯科医師は、歯科の専門家集団なので、例えば根管の～とか粘膜の～とかの記述については興味深く理解が出来ても、国政や行政の先生方の文言は理解出来ず、口腔衛生には興味無し、というか日常の臨床には必要がないとお考えの先生が多いのではないのでしょうか？

歯科大学を卒業後、大学で研鑽をつむ先生、開業する先生、専門医になる先生等様々な道を選択している事と思いますが、歯科医療

もしくはそれに準じた職に従事する「医療人」である以上、「口腔保健」は切り離せないものだと最近になってつくづく感じます。

これからの医療はめまぐるしく変わっていくでしょう。同窓会創立120周年を機に、口腔保健の重要性を生涯にわたり唱えてきた血脇先生の「医はこれ済生、ひとへに仁なり」「歯科医師である前に人間たれ」という精神を見直して、歯科界の将来を見据えた口腔保健に興味を持って望みたいと考える講演会でした。

(取材・広報部 佐々木葉子)

●卒研レポート●

TDC アカデミア 2015 卒後研修 ベーシックセミナー 欠損歯列の見方

2015年5月17日（日）に東京歯科大学水道橋校舎本館13Fで卒後研修ベーシックセミナー「欠損歯列の見方」が開催されました。

山本雅通委員の進行で、田口達夫副委員長による企画趣旨説明の後、12枚のパントモを30秒間ずつ見て判定する直観的難易度評価プレテストを行いました。

宮地建夫講師による講演1.「欠損歯列、補綴どちらから見ているか？」では欠損歯列という概念が日本では1970年代より認識されたこと、病態としての欠損歯列と手段である欠損補綴は別々の評価が必要であり、欠損歯列の程度の悪さが必ずしも欠損補綴を難しくは

しないとのことでした。さらに時間的な要素が加味されると簡単な欠損補綴が必ずしも経過が良いといえないことから、リスクを推測しリスクへ備えることが重要であるといった内容でした。

グループディスカッションに使用する欠損症例2症例の提示後、11班に分かれてのグループディスカッションが始まりました。

午後の部は、選ばれた3グループからの発表があり、さらに先ほどチューターを務めていた臨床経験の豊かな先生方による模擬ディスカッションが行われました。加藤賢祐委員長がチューターとなり、相原一之委員、鈴木雄太委



員、石川一磨委員、高橋潤一委員、木暮隆司臨床セミナー委員長、浅田智宏委員が参加しての内

容の濃いディスカッションが行われ、最後に宮地先生からのコメントもありました。

それからの宮地先生による講演2「どのように欠損歯列をみるか？」では欠損歯列の3要素となる咬合支持、受圧条件、加圧因子に歯数と欠損パターンを加えた5大要素を分析するということで、すなわち Eichner の分類、宮地の咬合三角、パーセントイル比、Cummmmer の分類にあてはめて考察すると、経過が予測できるとの内容でした。

直観的難易度評価ポストテストの後、藤関雅嗣委員による「長期経過症例からみえること 一歯欠損から一歯残存まで」という演題で①欠損歯列の終末像（エンドポイント）と診る要素、②症例から考える欠損補綴 について講演していただきました。内容はご自身



の症例で、その症例の分析と評価、それに基づいた処置、そして経過についてわかりやすく説明していただきました。

再び宮地先生により「欠損歯列のまとめ」をしていただきました。5大要素とリスク評価をした症例の経過をどう捉えるかには臨



床記録が唯一の解決手段で、それは口腔内写真を撮り続けることで、医者患者関係を崩さないことが重要であるとのことでした。

最後に毎月開催されている3勉強会の紹介があり、このセミナーは終了となりました。

（取材・広報部 皆川雅彦）



●卒研レポート●

TDC アカデミア 2015 臨床セミナー／スタッフセミナー 「歯科衛生士に必要な口腔インプラント治療の知識」 ～インプラント治療を始めると言われて慌てないために～

梅雨前の5月の終わり、真夏の様な暑い日に開催された。

当日は、休日にもかかわらず48名と多くの方々が受講された。



水道橋病院インプラント科より主任衛生士の中濱典子講師、主任教授の矢島安朝講師、麻酔科より福田謙一講師に歯科衛生士に必要な口腔インプラント治療に関連する知識、技能を講演いただいた。



まず矢島講師より、

「インプラント治療において歯科衛生士が主導すべき3つの場面と3つの要件」の解説の中で、3つの場面（説明、手術、メンテナンス）それぞれの場面で、

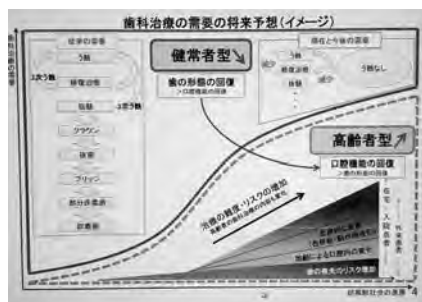
1. 信頼構築のため高いコミュニケーション能力
2. インプラント治療に関する正確な知識
3. チーム医療の一翼を担っているという意識と優れた技術力

がそれぞれ必要とのお話であった。

またコミュニケーションには言語の部分より非言語（立ち振る舞い、表情）の部分の比重が大きく大切である。

患者さんはほとんどのことを歯科医師に聞けない。そのため患者さんと信頼関係を築き疑問を解消する。

また「コミュニケーション能力の稚拙さが医療訴訟、医療過誤につながる」との論文を引用され重要性を解説された。



中医協資料引用

福田講師より高齢化に伴い従来の歯科治療（修復が主体）から高齢者型の医療（リスクの増大、口腔機能の回復）へシフトしている。全身管理の重要性などを学んだ。



中濱講師より水道橋病院インプラント科で実際行っているオペ前

からオペ後までの器具の消毒準備、具体的な手順機器をわかりやすく解説された。



講演後ディスポの手術着を二人ペアになり、手術着を着る側と介助者になり実習を行った。



講演、実習を通して、インプラントのみならず一般歯科の開業医としても参考にし自分の至らなさを痛感した1日だった。

（取材・広報部 島田 篤）

● 卒研レポート ●

TDC アカデミア 2015 臨床セミナー ティッシュ・マネージメントのファーストステップ



インプラントは益々身近なものとなり、大学でも授業として取り入れられるようになっていきます。その様な現状で我々に求められるインプラント治療もより高度なものとなっています。また、審美的な要求は患者の求めるところとしても大きな部分を占めるようになっていくようです。そこで今回7月5日、水道橋校舎本館13階にて二階堂雅彦先生をお招きしてティッシュ・マネージメントの講義をしていただき、実習を通してのソケット・プリザベーションと結合組織移植による歯肉増大術のテクニックを伝授していただきました。

二階堂先生は東京歯科大学を卒業後、タフツ大学歯学部歯周病学大学院を修了され、アメリカ歯周病専門医アメリカ歯周病学ポート認定医を取得されています。現在東京都中央区で開業されながら東京歯科大学臨床教授、東京医科歯科大学歯学部歯周病学分野非常勤講師、日本臨床歯周病学会指導医、インプラント指導医、EPIC研修会主宰など、ご活躍の先生です。最初の講義は、抜歯窩のバイオロジーについての講演でした。抜歯後の歯槽骨の変化をデーターにもとづいて詳しく説明していただき、次にインプラント埋入時の硬組織の変化について説明していただきました。午前中後半は「ティッシュ・マネージメントの実際」と題しソケット・プリザベーションと歯槽堤増大法の手術法を講演していただきました。この術式は抜歯により吸収した歯槽堤の形態を補正し審美形態を改善

する方法で、低侵襲の治療法として詳しく説明していただきました。

午後からは模型とブタ顎骨を使用した実習が行われた、最初は模型を使用したポケットプリザベーションを行い、手術で使用する(Bio-Gide)メンブレンをカットしマリオネットスーシャーを行い、グラフトにはBio-Ossを填入し、メンブレンをマットレス縫合しました。

次は模型を使用した歯槽堤増大法(リッジオーギュメンテーション)の実習を行い歯肉片の採取から移植、固定まで3～4人の受講生に対し一人の指導員をつけていただき丁寧な指導が行われていました。最後にブタの顎骨を使用し歯槽堤増大法を行いました。受講生は本物の粘膜と材料を使用し、丁寧な指導でさらに理解を深めていたようでした。

(取材・広報部 西村哲雄)



母 校 だ よ り

平成28年度東京歯科大学入学案内 (東京歯科大学入試要項より)

1. 入試日程一覧 (全募集人員128名：編入学除く)

入試制度	募集人員	出願期間 (期間内必着)	試験日	合格発表日	試験会場
推薦入学選考	約45名	平成27年11月2日 ～ 平成27年11月10日	平成27年 11月14日	平成27年 11月17日	東京歯科大学水道橋校舎本館
帰国子女・ 留学生特別選抜	若干名				
編入学試験 A	若干名				
学士等特別選抜 A	若干名				
一般入試 (Ⅰ期)	約50名	平成27年12月16日 ～ 平成28年1月27日	平成28年 2月2日	平成28年 2月4日	東京会場： 東京歯科大学水道橋校舎本館 大阪会場： TKP新大阪ビジネスセンター 福岡会場： TKP 博多駅前シティセンター
大学入試センター利用 試験 (Ⅰ期)	13名				
一般入試 (Ⅱ期)	約15名	平成28年2月19日 ～ 平成28年3月4日	平成28年 3月12日	平成28年 3月14日	東京歯科大学水道橋校舎本館
大学入試センター利用 試験 (Ⅱ期)	5名				
編入学試験 B	若干名				
学士等特別選抜 B	若干名				

※編入学試験 A・B は、2 年次に編入学

2. 出願資格

推薦入学選考 (一般公募制)

次の各条件を満たし、かつ高等学校長が責任をもって推薦する者。

1. 平成27年3月高等学校卒業生または平成28年3月高等学校卒業見込の者。
2. 人物・性格ともに優れ、健康である者。
3. 入学を許可された場合、必ず本大学に入学することを確約できる者。

帰国子女・留学生特別選抜

次の各項のいずれかに該当する資格を有し、入学を許可された場合、日本語での授業を理解できる者。

1. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者または平成28年3月31日までに修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
2. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で平成28年3月31日までに18歳に達する者。
3. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で平成28年3月31日までに18歳に達する者。
4. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で平成28年3月31日までに18歳に達する者。

編入学試験 A・B, 学士等特別選抜 A・B 共通

次のいずれかを満たす者とする。

- ① 4年制大学卒業生または平成28年3月卒業見込の者。
- ② 医療技術系短期大学を卒業した者または平成28年3月卒業見込の者。
※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学
- ③ 4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者。
※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

3. 試験内容

入試制度	選考内容・試験内容
推薦入学選考（一般公募制）	(1) 小論文 (2) 小テスト〔外国語（英語）、数学、理科（物理・化学・生物から1科目選択）〕（出題範囲は一般入試（Ⅰ期）に準ずる） (3) 面接
帰国子女・留学生特別選抜	
一般入試（Ⅰ期）	(1) Ⅰ期 学力試験（出題範囲は※1参照） ① 外国語（英語） ② 数学 ③ 理科（物理・化学・生物から1科目を選択） Ⅱ期 学力試験（出題範囲は※1参照） ① 外国語（英語） ② 数学・物理・化学・生物のうち1科目を選択 (2) 小論文 (3) 面接
一般入試（Ⅱ期）	
大学入試センター利用試験（Ⅰ期）	(1) 平成28年度大学入試センター試験の受験科目 外国語 「英語（リスニングを除く）」 数 学 「数学Ⅰ・数学A」、 「数学Ⅱ・数学B」 の2科目 理 科 「物理基礎」、 「化学基礎」、 「生物基礎」 から2科目 または「物理」、 「化学」、 「生物」 から1科目 ※理科について、2科目を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。（「物理基礎」、 「化学基礎」、 「生物基礎」 については選択した2科目の点数を1科目の得点として扱う） (2) 小論文 (3) 面接
大学入試センター利用試験（Ⅱ期）	
編入学試験 A	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト） ※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択（出題は推薦入試に準ずるが、基礎的な内容を出題する） (3) 面接（グループ面接・個人面接）
編入学試験 B	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科（物理・化学・生物）の基礎知識問題） （中学・高校での履修内容のごく基礎的な内容を出題する） (3) 面接（グループ面接・個人面接）
学士等特別選抜 A	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト） ※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択（出題は推薦入試に準ずるが、基礎的な内容を出題する） (3) 面接（個人面接）
学士等特別選抜 B	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科（物理・化学・生物）の基礎知識問題） （中学・高校での履修内容のごく基礎的な内容を出題する） (3) 面接（個人面接）

※1 一般入試（Ⅰ期，Ⅱ期）学力試験出題範囲

- 外国語 英語：コミュニケーション英語Ⅰ，コミュニケーション英語Ⅱ，英語表現Ⅰ。ただし，実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。
- 数 学 数学：数学Ⅰ（「(4)データの分析」を除く），数学Ⅱ，数学A，数学B（「(2)数列」と「(3)ベクトル」を範囲とする）
- 理 科 物理，化学，生物の3科目のうち1科目を試験場で選択する。
・物理：物理基礎，物理
・化学：化学基礎，化学
・生物：生物基礎，生物

4. 学納金 （全入試制度共通）

入学金	600,000円（入学時のみ）
授業料	3,500,000円
歯学教育充実費	4,300,000円（入学時のみ）
施設維持費	1,000,000円
父兄会費	40,000円
学生会費	17,000円
合計	9,457,000円

— 受験科目詳細・入学手続きその他詳細は「入試要項」をご覧ください —
(入試要項は，下記 web サイトから請求可能)

<http://www.tdc.ac.jp/college/applicants/index.html>

入試ガイダンス開催される

去る8月1日（土）と29日（土）の両日，平成28年度の入学試験に向けた第2回および第3回東京歯科大学入試ガイダンスが開催された。特に1日は，夏休み期間の真っ只中とあって来場者が300名を超え，本館13階教室の収容人数を超過したため，29日には新館血脇記念ホールにて開催される運びとなった。今後の入試ガイダンスは，12月にも開催が予定されている。



バドミントン部 デンタル部門主管を終えて

4年 主将 原 将人

現在、東京歯科大学バドミントン部は4年生以下の現役部員、男子11人女子10人の計21人で活動しており、平日は不定期に水道橋近辺の体育館で、土日は稲毛の体育館で練習を行っています。

本年8/3～8/7、我々が主管を務めた第47回全日本歯科学学生総合体育大会バドミントン部門が墨田区総合体育館で開催されました。600人近い歯科学学生が全国各地から集い、猛暑の中、連日白熱した試合を繰り広げました。我々は大会準備および運営を行いながらの試合ということになり、団体戦では入賞することができませんでしたが、個人戦では男子シングルスでベスト32に2人、女子ダブルスでベスト16に1ペアという結果を残しました。

デンタルの主管を務めることが決まったのは2年前の夏の終わりのことです。奥羽大学から部門主管の依頼があった時にはとても驚きました。自分たちの代が幹部になる年に運営を任されるということで、しっかりやれるのだろうかと不安もありました。しかし部員全員で団結をし、この2年間、着々と準備を進めてきました。体育館の確保、各大学への連絡、試合の組み合わせからパンフレットの作成など、大会前にやらなければいけないことは山積しており、大会運営の大変さを思い知らされました。また大会中の運営につい

ては、部員全員で打ち合わせとシミュレーションを繰り返し、本番に備えました。特に本部の動きやコールの仕方に関しては何度も試行錯誤しました。貴重な練習時間を運営のシミュレーションに当てた日もあったほどです。

そうして迎えたデンタル当日。デンタル期間中はもう無我夢中でした。早朝の会場準備から始まり深夜のミーティングに終わるといふ、体力的にも精神的にもきつい状況の中で部員全員団結して5日間頑張り抜きました。他大学の協力もあり大会運営は非常にスムーズに進み、最終日まで無事やりきることが出来ました。

デンタルという大きな大会の運営を経験して、改めていろいろな方々と協力することの重要性を実感しました。

大会会場となった墨田区総合体育館の方、運営に関して様々なアドバイスをしてくださったウェンブレイの方、試合進行に協力してくれた他大学の方々、そして顧問の平田先生、部長の杉山先生をはじめ、お忙しい中時間を作って練



習や応援、運営の手伝いに来ていただいたOB,OGの先生方、先輩方、さらには部員の友達や家族。こんなにも多くの人たちに支えられて私たちは大会運営をやり遂げることが出来ました。本当にありがとうございました。部員一人ひとりが協力し合ってデンタルを乗り越えたことで、全員がより一層成長したように思います。この経験は、大学生活だけでなく歯科医師になり社会に出てからも生きてくるのだと感じています。

この貴重な巡り合わせに感謝をしつつ、試合でもより良い結果を残せるようこれからも練習に励んで参ります。今後とも応援のほど、よろしくお願いいたします。



陸上競技部近況報告

陸上競技部は東京歯科大学で長い歴史を持つクラブだと先生方、先輩方から伺っております。

OB・OGの先生方も、東京歯科大学の歴史に名を残されているような先生ばかりで、若輩者の私からすると恐縮するばかりです。

陸上競技部は現在1年生から6年生まで総勢21名の部員を抱え、近年では大所帯の部活動となっております。

練習は主に都内の陸上競技場で週三回行っております。

8月に中国の北京で行われた世界陸上をご覧になられた方も多いかと思いますが、陸上競技は何かとストイックで地味でキツイ、というイメージが先行しているのではないのでしょうか。ですが陸上競技部は代々アットホームな雰囲気です。「やるときはやる、遊ぶときは遊ぶ」の精神を先輩方から受け継



いでおり、そういったこともあってか、部員一人一人が陸上競技への熱い気持ちと部活への愛着を持って日々の練習に真摯に取り組んでおります。

また先輩後輩の仲が非常に良いのも特徴で、その現れとして、本年度の東京の大井陸上競技場で行われましたオールデンタル陸上競技部門では7名のOBの先生方が競技に参加され、それぞれ個人種目だけではなく一部の先生方は4×100mリレーと4×400mリレーにも出場され現役部員たちと

4年 主将 二階堂純彦



熱い戦いを繰り広げました。

そのオールデンタルで現役部員は、男子4×400mリレー、女子4×100mリレーでそれぞれ銅メダル、金メダルを獲得し、また各々個人種目でも善戦し、20校中6位でした。しかし、陸上競技部門は年々参加校が増加し、競技のレベル的にもここ数年でかなり上がってきている中、なかなか3位以内に入ることが出来ず悔しい思いをしております。

来年こそは！という気持ちで部員一同既に準備を始めておりますので、今後の陸上競技部にご期待ください。

こうして私達部員が部活動を通して得られる経験や、時間、交友関係は、講義室や実習室に座っていてもなかなか得られるものではありません。

学生時代の貴重な時間をこのように過ごさせて頂けるのもひとえに本学の同窓の先生方、また本部OB・OGの先生方のおかげと思っております。

今後とも陸上競技部への暖かいご声援ご支援を賜りますよう、またご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



父兄会だより

父兄会会長就任の挨拶



新会長 福田 紳 一

平成27年度父兄会定時総会において第69代父兄会会長をお引き受けすることになりました。萩原前会長をはじめ歴代会長、役員の皆様が築き上げてこられたご功績を思うと、その責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いです。精

一杯、任期を全うしたいと思っておりますが、なにぶん浅学非才の身でございます。同窓会の皆様のご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い致します。

東京歯科大学が水道橋の地に移転して2年が経ち、本年は西棟の建設工事が進んでおります。西棟には手術室の新設、病棟、麻酔科、放射線科、障害者歯科、小児歯科、矯正歯科の拡張が含まれており、原点回帰した水道橋キャンパスの設備が更に充実したものになっていくと思われます。このことは学生、父兄はもとより今まで長年に渡り本学のためにご尽力いただいた同窓の先生方にとっても大きな喜びと誇りなのではないかと推察いたします。

さて第108回歯科医師国家試験

では、我が東京歯科大学は国公立すべての歯科大学の中で、4年連続合格率総合第一位という好成績を収めました。これは井出学長先生をはじめとする教職員の方々のきめ細やかなご指導によるものであると、心より感謝しております。卒業後は若き同窓の歯科医師となり、将来の歯科医学界を担うリーダーとして社会貢献できるものと期待しております。そのためには是非とも矢崎会長をはじめ同窓会の皆様方のお力添え、ご指導をお願い致します。

最後に、同窓会の皆様方のご健勝と、本年創立120周年を迎えた同窓会の益々のご発展を切に祈念いたしまして父兄会会長就任の挨拶とさせていただきます。

父兄会会長退任の挨拶



前会長 萩原 俊 美

この度、任期満了に伴い平成27年3月31日をもって、平成26年度父兄会会長職を退任いたしました。

在任中は矢崎秀昭会長をはじめ、同窓会の皆様のご指導、ご協力により父兄会事業を行うことができましたことに感謝し、厚くお

礼申し上げます。

平成26年度は千葉キャンパスからの移転が完了し、第1学年から第6学年までの全ての学生が水道橋キャンパスで学ぶこととなりました。特に120期生第6学年は水道橋移転後初めての国家試験準備でしたが、大学の迅速なご対応により、6年生のために自主学習室を用意していただきました。この素早い対応に学生諸君も良く応え、第108回歯科医師国家試験の結果は、4年連続合格率総合第一位の好成績を収めることができました。このことは、本学の教育方針、教育方法、学生諸君の国家試験に向けての取り組みが正しかったことの証であります。父兄として、また同窓の一人として、これほど嬉しいことはございません。

120期生は東京歯科大学を卒業

した事を誇りとし、自己研鑽に励み、歯科界にそして社会に貢献できる人材となりますようお願いいたします。同窓会の皆様におかれましては、準会員から新進会員となった120期生に対し、「生涯研修」の機会をご提供いただくとともに、変わらぬご支援ご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

平成27度新会長に就任されました福田紳一会長は、人望も厚く、東京歯科大学の教育方針の良き理解者であります。福田会長を中心とした父兄会新執行部に対しまして、これまで以上のご支援をお願い申し上げますとともに、本年創立120周年を迎えました同窓会の益々の発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げまして、会長退任の挨拶とさせていただきます。

支部のうごき

東北地域支部連合会

福島県支部総会・連合会総会

平成27年6月27日(土)ザ・セレクトン福島にて福島県支部総会と東北地域支部連合会総会が開催された。まず始めに福島県支部総会が行われた。松本寛志先生を議長に選出し、平成26年度事業および会計報告、平成27年度事業計画および予算案が協議、承認された。その後、東北地域支部の各県代表による役員協議会が行われ、引き続き総会が行われた。高木純仁専務理事司会進行の元、来賓の矢崎秀昭同窓会会長、臼井文規同窓会常任理事より同窓会創立120周年記念のお話を、井出吉信学長より国試合格率4年連続1位と大学教育の現状についてのお話を、椎木

一雄同窓会地域理事より歓迎のご挨拶をいただいた。宍戸計一地域支部連合会会長を議長に鈴木雅夫岩手県支部長を副議長に選出の後に、逝去会員への黙祷、平成26年度事業報告および会計報告、平成27年度事業計画および予算案について協議、承認された。その後の学術講演会では、大学より保存学講座主任教授 古澤成博先生を講師にお招きし「難治性根尖性歯周炎とマイクロエンド」と題した講演が行われた。難治性根尖性歯周炎の多くが擬似的なもので、マイクロスコープの使用と手技を基本に忠実に行うことで多くのケースで治癒に導けることとお話いただいた。

講演会の終了後、懇親会にうつった。来賓に金子 振福島県歯科医師会会長をお招きし、血脇先生に所縁の深い野口英世博士のエピソードを交えたご挨拶をいただいた。宴では、アトラクションに福島市内で活動する大道芸集団が招かれ、テーブルごとのマジック披露では会場のいたるところで驚きの歓声が上がっていた。その後は、次期開催県である鈴木雅夫岩手県支部長よりご挨拶があり、校歌斉唱、エールとなり中締めとなった。翌日のゴルフ大会はあいにくの雨天であったが秋元英典先生が優勝された。(勢島 尚 記)



神奈川県支部連合同窓会

8月2日(日)に、本年度の会員家族レクリエーションが行われた。今回は、「世界遺産を見に行こう!」というテーマで、群馬県の富岡製糸場を見学するバスツアーを企画した。

例年同様の猛暑の中、30名の参加者を乗せたバスは横浜を7時半に出発した。やや遠いので、早い集合時間となったが、遅刻者もなく上々の出足である。なんとといっても、今回はトイレ付きサロンバスを格安で確保できたため、朝早くからの宴会がすぐさま開始された。そして、道中混むこともなく10時過ぎには良い気分で富岡製糸場に到着した。

昨年、世界遺産に登録された富岡製糸場は、日本の近代化の幕開けに重要な役割を果たしたことが知られている。当時の日本は明治維新を迎えたばかりで、殖産興業政策を掲げた政府が急務としたのは、輸出品の要であった生糸の品

質改良と大量生産を可能とする器械製糸工場の導入と推進であった。日本の工業化は製糸から始まったのである。ここで作られた生糸は横浜港から輸出されていたこと、優れものの自動繰糸機は日産製であることなど、我々の暮らす神奈川県とは実に繋がりが深いということも判り、1時間弱のガイドツアーがあつという間に感じられた。

製糸場の見学を終えて、すぐ近くの「かわら屋」へ徒歩で移動し昼食となった。昨年久しぶりに真夏のバーベキューを敢行したところ、あまりの暑さで一同辛い思いをしたため、「苦行はいらぬ。今年屋内で!」と厳命を受けていたので、幹事は体をいたわるセッティングを行った。ここでは群馬名物、こんにゃく、しいたけ、ねぎの頭文字をとった「こしね汁」や「刺身こんにゃく」、「黄金鮎」などをいただいた。想像したより

も旨い!とお褒めの言葉を頂戴しながら、暑い中見学したのでお酒も進み、なにより快適なエアコンのおかげで楽しい食事となった。

昼食後はバスで15分ぐらいのところにある「こんにゃくパーク」を訪れた。ここは、なんと日本最大級のこんにゃく製品製造工場で、“日本に古くから伝わる、こんにゃくの文化とおいしさを多くの人に伝えたい”という想いから生まれた人気施設である。その大きさにまずはびっくりし、こんにゃく製品の製造ライン見学や無料バイキングを楽しんだ。食後であるのが残念なぐらいに豊富なこんにゃくを使った食品があり、「これもこんにゃくか?」と不思議に思いながら楽しい時間を過ごすことができた。

様々な思い出を乗せて、バスはまだ混む前の関越道をスイスイと横浜へ戻り解散した。

(川越元久 記)



写真が同窓会ホームページ《<http://www.tdc-alumni.jp>》に掲載されています。

近畿地域支部連合会

近畿地域支部連合同窓会 ゴルフコンペ

5月10日(日), 兵庫県の三木ゴルフ倶楽部にて近畿連合同窓会ゴルフコンペが行われました。初夏の絶好のゴルフシーズンで天候にも恵まれ、爽やかに気持ちよくプレーができました。コースはフラットですが距離があり、距離も合わせ辛く難しいという印象を受けました。優勝は滋賀の中村 忠先生で、スコアは南コース43、西コース44、ハンディ12でネット75でした。また今回はドラコン、ニアピンコンテストに加え、ドラコンには不利な女性にも楽しんでもらおうと、ドラコンとは逆にティーショットの飛距離の短さを競う、ドラタンのコースが設けられましたが賞品を獲得されたのは男性でした。

なおこのコンペは毎回、前日から一泊される先生も多く、前日の夜には皆で集まって食事をとることが殆どです。今回は兵庫県の西村先生に、神戸駅近くの予約も取りづらいというもつ鍋の人気店

順位	氏 名	南	西	GROSS	HDCP	NET	
1	中村 忠	43	44	87	12.0	75.0	(滋 賀)
2	戸村 博臣	43	42	85	9.6	75.4	(和歌山)
3	富山佳寿人	44	41	85	9.6	75.4	(滋 賀)
4	宗本 匡由	44	45	89	13.2	75.8	(兵 庫)
5	西村 亮介	51	47	98	21.6	76.4	(兵 庫)
6	西村 啓二	43	39	82	4.8	77.2	(兵 庫)
7	丸山 康子	55	50	105	25.2	79.8	(京 都)
8	栗山 雄治	51	46	97	16.8	80.2	(和歌山)
9	山本 勇一	46	45	91	9.6	81.4	(大 阪)
10	嶋山 裕行	47	51	98	15.6	82.4	(兵 庫)
11	田中 令子	55	61	116	32.4	83.6	(和歌山)
12	辻 正信	64	55	119	30.0	89.0	(和歌山)
13	高木 祥広	64	74	138	48.0	90.0	(大 阪)
14	戸崎 秀樹	79	64	143	40.8	102.2	(滋 賀)

に連れて行っていただきました。これまで食べたことのない、豪快で豪華な大変おいしいもつ鍋でした。このようにこのコンペはゴルフだけでなく、同窓の先生方との楽しい時間を近畿の各地で過ごせるのも大きな魅力です。それは開催県の先生方のご尽力のおかげだと毎回感じます。いつも本当にありがとうございます。そして今回参加していただいた先生方にも感謝しています。ありがとうございました。

次回も来年の同じ時期に開催を



予定しています。多くの先生方のご参加をお待ちしておりますので、参加をご希望の先生は、各支部の支部長やゴルフ担当者にご連絡をお願いいたします。また来年、多くの先生方とお会いできるのを楽しみにしております。

(大阪府支部広報・高木祥広 記)



中国地域支部連合会

中国地域支部連合会総会

平成27年7月11日(土)、岡山全日空ホテルにて支部長会、中国地域支部連合会総会ならびに記念学術講演会が開催された。来賓として同窓会本部から矢崎秀昭会長、臼井文規常任理事を、大学からは井出吉信学長、佐藤 亨クラウンブリッジ補綴学講座教授をお迎えし、中国5県の同窓約80名の出席のもと盛大に催された。総会は岡山県支部長の伊丹義明中国地域支部連合会会長の挨拶で始まり、井出吉信学長から母校の近況報告を交えたご挨拶を賜わり、矢崎秀昭同窓会会長と臼井文規同窓会常任理事より同窓会本部の現況のご報告を頂いた。次いで猶予期間終了後の評議員定数に関して協議した後、支部から本部への要望についての回答を頂き、次期開催県を決定し閉会となった。

総会に続いて母校クラウンブリッジ補綴学講座の佐藤 亨教授より「歯冠修復治療の最新テク

ノロジー～CAD/CAM冠、オールセラミッククラウン～」の演題で学術講演会が開催された。オールセラミッククラウン、CAD/CAM冠の利点と問題点について具体的な症例とデータを交えて

臨牀的にも大変わかりやすいご講演を頂いた。

記念撮影の後、岡山県支部の佐藤征紀監事の乾杯の音頭により懇親会が開催された。桃太郎のからくり博物館館長でちくわ笛奏者の住宅正人氏によるアトラクションでは来賓の先生方にも実演に参加して頂き、ちくわ笛による大合奏で大いに盛り上がった。

最後は全員で肩を組んで校歌を斉唱し、次期開催県である広島県支部長野間 博先生のご挨拶をもって大盛会のうちに散会となっ



た。

その後場所を変えての二次会においても話は尽きず、親交を暖めた一夜となった。翌日は晴天にも恵まれ鬼ノ城ゴルフクラブにてゴルフコンペが16名参加のもと行われ、見事なスコアで山根康雄先生(島根県支部 昭44年卒)が優勝を飾られた。

最後になりましたが、遠路遥々お運びいただいた先生方に厚くお礼申し上げますとともに、ご協力頂いた関係各位に感謝いたします。(田中吉治 記)



四国地域支部連合会

平成27年度

四国地域支部連合同窓会

5月16日(土)、高知市総合あんしんセンター2階、高知県歯科医師会内の会議室において、四国地域支部連合同窓会総会が開催されました。同窓会本部より、矢崎秀昭会長、白井文規常任理事、本学より、矢島安朝水道橋病院長のご出席を賜りました。また講演会講師として、島村 大参議院議員(昭和60年卒)並びに、白須賀貴樹衆議院議員(平成12年卒)にもご臨席を頂きました。

鬼谷信美高知県支部副会長の開会の辞、校歌斉唱の後、物故会員の先生方へ黙祷を捧げました。永く四国地域支部連合会会長として御尽力、ご活躍された久保田 晃

先生(愛媛県)が総会のわずか11日前に急逝され、多くの会員に驚き、悲しみ、そして動揺が走りました。西川文雄高知県支部会長の挨拶の後、来賓の先生方からご挨拶を頂きました。矢崎会長からは同窓会の現状、取り組み等の話、白井常任理事からは同窓会創立120周年記念式典等についての話がありました。矢島先生からは水道橋校舎の様子や国試に対する学生、教職員の取り組み方について、スライドを交えての説明がありました。協議事項では、西川高知県支部会長より、亡くなられた久保田先生の後任の四国地域支部連合会会長の人選について提案があり、沖 義一先生(高知県)が満場一致で承認されました。来年

開催の徳島県支部の福崎博生会長の挨拶で総会は終了しました。

引き続き行なわれた講演では、島村、白須賀両議員から、歯科医師国保についてや政治の現状等のお話がありました。記念撮影後、高知県恒例のお待ちかね、伊勢えび料理「中來」へ。織田英正高知県歯科医師会会長のご挨拶、野村和男高知県歯科医師連盟理事長の乾杯のご発声で懇親会の開始です。伊勢えびを堪能した後、宿のホテルに戻り22階の展望レストランにて2次会。その後、街に繰り出し、名物屋台の餃子に舌鼓を打ちました。皆様、来年は徳島で会いましょう。(池田 顕 記)



群馬県支部

平成27年度 総会・学術講演会

平成27年度の群馬県同窓会総会・学術講演会は、7月11日(土)に群馬が誇る名湯の一つである伊香保温の中でも老舗旅館として有名な「岸権旅館」でおこなわれた。

一昨日までは、天候も悪く標高の高い伊香保では朝晩に暖房器具が必要なくらい冷え込む日が続いていたが、総会当日は熱い群馬県同窓会に呼応するかのように雲ひとつない澄み切った空でこの夏一番の暑い日となった。

物故会員に対しての黙祷の後、総会が行われ平成26年度の事業報告ならびに一般会計収支決算等が議決された。議事終了後、引田会長からの提案により平成28年度の関東ブロックの主管であることから出席した会員の方々と、「群馬のおもてなし」についての意見交換が行われた。

講演会は、東京歯科大学特任教授の石上恵一先生をお招きして「スポーツパフォーマンスに咬合の関与はあるのか?」という演題でお話していただいた。他大学にはまねの出来ないフィールドワークから得られたデータと、それに裏付けされたお話を参加した会員の方々はみんな非常に興味深く聞き入っていた。歯科の可能性を非常に感じさせた講演内容であったが、その一方で関係者の無知からマウスガードの装着によってプロゴルフで失格者が出た事からも、選手への装着の際には十分にルール等に配慮し指導に気を付けて欲

しいというお話もあった。またこの分野の研究では、日本がおそらく最先端に位置しており、JOC(日本オリンピック委員会)の強化スタッフでもある石上教授のお話は、今後オリンピックでの日本のメダル獲得に向けての取組みに関してシークレットの部分もあるので講演から得た情報は慎重に取り扱っていただきたいと、座長を務めた先生からの注意喚起があった。



また夜は、老舗旅館の美味しい料理と地酒による懇親会。そして伊香保温泉の茶褐色の名湯を堪能し、非常に有意義で楽しい一日を過ごして、その日は終わった。

翌日炎天下で行われたゴルフで、前日の講演が活かされたかどうかは定かではないが、熱中症で運ばれたという情報は届いていないので、参加者全員が無事に帰宅したのは確かであったと思う。

(片野勝司 記)



千葉県支部

平成27年7月9日(木)京成ホテル・ミラマーレにおいて3年ぶりの東京歯科大学との懇談会が開催されました。懇談会に先立ち平成2年卒中村通宏先生より社保講習会と同窓会創立120周年である今回は新潟県阿賀野市立吉田東伍記念博物館 館長渡辺文男様をお招きして学術講演会をおこないました。講演は血脇守之助先生が新潟県三条町の英語教師から歯科医師へと転身するきっかけ、また野口英世先生が高山歯科医学院の学僕となった流れなど母校の歴史を知るうえで大変有意義で楽しいご講演をしていただきました。

続いて大学との懇談会に移り、高原正明千葉県支部長より挨拶をしていただき、その中で会員の先生方へ「3つのお願い」をされました。第1に『11月29日開催の同窓会120周年記念への多数の先生の参加』第2は『現在始まっている大学西棟への同窓からの支援』最後に『衆議院議員白須賀貴樹君の



千葉県同窓会後援会への協力』がありました。大学からは水野嘉夫理事長・井出吉信学長・矢島安朝水道橋病院長・井上 孝千葉病院長のご臨席を賜り、最初に水野理事長より市川総合病院長時代の経験を踏まえたご挨拶をいただきました。続いて井出学長より、現在

の2年生3年生の半分以上は女学生であること、衛生士校は短大にする方向性で進んでいること、現在そして未来の大学のビジョンを聞かせていただきました。

懇親会は宮下恒太先生による乾杯のご発声にて開宴いたしました。年代の垣根を越えて終始和やかな雰囲気の中お酒もすすみ盛り上がりしました。最後に恒例の校歌斉唱をし、名残惜しみながらの閉会となりました。

(野田彰久 記)



川 崎 支 部

川崎水橋会学術講演会開催

平成27年7月4日中原歯科保健センターにおいて東京歯科大学川崎支部恒例の学術講演会が開催された。

今年は、慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室中川種明教授をお招きして『医科歯科連携をふまえた歯科治療－歯周病と糖尿病

などの基礎疾患との関連－』の講演が行われた。

大学病院の歯科という環境をふまえて医科歯科連携をとらえ、バイオフィルム感染症である歯周病と抗菌薬、歯周病と基礎疾患との関連、特に糖尿病について講演された。高齢者社会になって今後医科と患者の情報を密に共有して歯

科医療に携わっていく必要性や、まず歯科医師として必要不可欠となってきた全身との関連を再認識した。

講演後は講師を囲み懇親会となり、同窓での楽しい一時を過ごした。
(紺野義之 記)



掲示板

*この掲示板は、同窓会ホームページ <http://www.tdc-alumni.jp> にも記載されています。

日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。

印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日 時	演題及び講師 又は事業内容	会 場	主 催 連 絡 先	外部より 参加可否
連合会総会 平成27年 11月14日(土) 午後6時～	九州地域支部連合会総会	ホテルロイヤルオリオン 那覇市安里1-2-21 TEL 098-866-5533	沖縄県支部 連絡先 担当・石原 一 TEL 098-858-9955	同窓会員

横浜鶴見支部

8月29日(土)午後6時より、関内の鰯懷石「舍利膳」において、23名参加のもと、鶴見東歯会会員・家族・従業員レクリエーションが開催された。

鶴見に居ながらにして世界の料理を食べ尽くす企画も10年目。スペイン、中国、イタリア、ハワイ、インド、韓国、トルコ、フランス、スペインと各国の料理を堪能し、記念すべき第10弾は一旦わが母国に戻って、ちょっと豪華に「鰯懷石」と洒落込んでみた。

はじめに佐藤秀夫会長が挨拶し、グラスにビールが注がれると、吉田礎久先生の声高らかな乾杯の発声で「最高級プレミアム和牛ステーキ懷石コース」がス

タート！もちろん飲み放題。

色鮮やかなお料理は盛られたお皿やお椀にとってもマッチしており、芸術作品を見ているようで、味わいと共に楽しんだ。お待ちかねの和牛ステーキはミディアムレアでとろける軟らかさと溢れる肉汁。赤ワインを注文。

ここのお店のご主人は生麦にお住まいとか。さらにおかみさんに話を聞くと15年くらい前まで京急鶴見駅至近で割烹料理店を営んでおられたとのこと。皆で「あーあそこのお店かあ。よく行ったよ。懐かしいな。世の中狭いね」なんて言いながらご主人自慢の握り寿司をパクつき、懷石のフルコース8品を心ゆくまで堪能した。

毎年恒例の会員近況報告では「今年、息子がわが母校に入学した」と満面の笑みでご子息を紹介する者、「うちの息子は母校大学院で研究に勤しんでいる」と誇らしげに紹介する者。「早く鶴見東歯会に入って一緒にレクや旅行の幹事のお手伝いをしてね」と優しく懇願する者など、それぞれに近況を語った。

宴もたけなわであったが、森田正純先生の閉会の辞が述べられ、最後に形式にとられない鶴見東歯会らしい自由な並び順で記念撮影をし一本締めで、第10弾を結んだ。(宇佐美貴弘 記)



横浜南部支部

夏の会員・家族・従業員レクリエーション開催

平成27年8月20日(木)、毎夏恒例の会員・家族・従業員レクリエーションが神奈川県支部連合同窓会杉山紀子会長をお招きして開催された。今年は「三浦半島 味の旅」と題して企画され、三浦半島の夏の混雑を避けるため、平日の開催となった。

午前9時30分、京急三崎口駅に集合した一行7人は、タクシーに分乗し、城ヶ島へと向かった。

城ヶ島は、母校校歌の作詞でおなじみの北原白秋先生ゆかりの地で、記念館や「雨はふるふる…利休鼠の雨がふる」で有名な「城ヶ島の雨」の碑が立つ。記念館では

作品集の中から母校校歌を見ようと、白秋全集を出していただき、「東京歯科大学、あるいは東京歯科医学専門学校校歌」で索引を調べたが載っていない。そんなはずはないと皆首をかしげていたところ、田中五郎会員が、「校旗は燦たり」で引けば出ているかも、とのアドバイスにより引き直したところドンピシャ！。無事見つけることができた。校歌のページを開いて一同記念撮影。

その後白秋先生の碑や城ヶ島の海岸付近を散策した後、三崎口の「豊魚亭」に移動した。「豊魚亭」は、昨年末浜野文夫相談役がミニ講演会で「三崎で食事をするなら是非ここ」、と紹介された日本料

理店である。

浜野相談役は、ご存知の通り日本全国の美味しいものを食べ歩き、「味の旅」全九巻を上梓されているほどの食通である。その浜野相談役ご推薦の店とあって期待は高まった。

冷たいビールでのどを潤した後、地元のトマトとマグロを使った前菜から締めのにぎりまで、旬の海の幸を使った多彩な料理に一同大満足。美しい庭園を眺めながらいただく豊魚亭ならではの料理は天下一品であった。

(横浜南部支部広報・

渡邊宇一 記)



写真が同窓会ホームページ《<http://www.tdc-alumni.jp>》に掲載されています。

静岡県支部

平成27年7月12日ホテルアソシア静岡で臨時総会と学術大会を行いました。

臨時総会は喜田真司専務理事の司会のもと始まり、物故会員への黙祷を行い、報告事項、協議事項と進み、滞りなく終わり、引き続き学術大会へと進みました。

今回の学術大会は、基調講演として東京歯科大学から、クラウンブリッジ補綴学講座主任教授 佐藤亨先生を迎え「歯科審美と咬合－正中と筋肉位から考える－」から始まり、支部の学術大会では初めての試みとして、若手同窓会会員の臨床症例発表を行いました。

平成6年卒、赤堀仁則先生「エクストルージョンによる歯肉縁下カリエスおよび破折歯への対応」、平成14年卒、足立友秀先生「骨吸収の著しい歯牙に再生療法とインプラントを用いて保存を試みた症例」、平成8年卒、庵原英晃先生「結合組織移植術により歯周組織形態の回復をはかった症例」、平成18年卒、會田貴久先生「動揺歯固定材を用いた簡便な固定による歯牙移植法」、平成20年卒、笠原明人先生「マイクロスコプとCBCTを用いた歯牙保存に対する取り組み」、平成21年卒、塩田亜里沙先生「MRCシステムによる筋機能矯正」以上の6先生による症例発表を行いました。1人、10分の発表と討論は5分の持ち時間でした。

佐藤教授の基調講演では歯科審美を求めるには、顎口腔系における色彩美のみではなく形態美を考

慮し、それに加えて機能美との調和を図ることが重要となる。形態美、機能美を考えるには、基準が正中であるとのこと。赤堀先生は、カリエスや歯根破折により歯根が骨内にもぐってしまった歯牙をラバーコイルで牽引し骨上に歯牙を出してから歯冠補綴を行なった症例。足立先生は歯周病で周囲骨欠損に対して抜歯時に骨補填材を用いて骨の欠損を防ぎインプラント埋入をした症例。庵原先生は付着歯肉の退縮によって歯頸部が露出した症例に口蓋から採取した結合組織を移植する、歯肉結合組織移植術で改善が見られた症例。會田先生は右側上顎6の歯根破折症例に、上顎右側8の抜歯同時移植を行い、移植歯の固定に縫合ではなく、動揺歯固定材を用いて固定し、良好な結果が得られた症例。笠原先生はマイクロスコプとCBCTを用いて根管内に残留したファイルや根端から露出残留した根管充填材の除去を行い良好な結果を得た症例。塩田先生はMRCシステムによる筋機能矯正装置 Myobrace を使用した筋機能矯正は不正咬合の原因すなわち安静時に口を閉じ、舌を口蓋に位置させ、鼻呼吸を行い、嚥下時に口唇が動かないことにより良好な歯列、良好な顎顔面の成長を獲得できる。MRCは歯並びを治すだけでなく成長期の子供の頭蓋



佐藤教授と6人の演者

顎顔面の正しい成長を促す治療とことです。

若手の先生方大変有意義なおかつ素晴らしい発表を目の当たりにし、東京歯科の卒業生の臨床に取り組む姿勢や、素晴らしい症例写真に感動しました。

学術大会終了後会場を移して、神田先生の開会の辞で、懇親会を開始しました。

佐藤 亨教授のご挨拶、続いて静岡県歯科医師会副会長 小沢照雄先生のご挨拶に続いて、浜松の鈴木英生先生の乾杯のご発声で会は始まりました。学年の垣根を越えて楽しいひと時を過ごしました。時間と共にメートルも上がり、最後に荻原英生先生の指揮の元、校歌を全員で斉唱し12月の総会での再開を約束してお開きとなりました。（辻 吉純 記）



福岡県支部

福陵会学術講演会・総会・懇親会

本年度の福岡県支部（福陵会）学術講演会・総会を5月30日、福岡県歯科医師会館にて開催しました。

講演会では、同窓会副会長でもある宮地建夫先生を講師に。会報にも投稿されている欠損歯列について、「欠損歯列の私の読み方」の演題でご講演いただきました。

また、先生には講演に引き続き、同窓会の現状やアカデミア構想、同窓会創立120周年記念事業



等、更には母校水道橋校舎西棟新築や国家試験の状況などホットな話題を織り交ぜたお話をさせていただきました。

総会では平川誓生理事司会のもと、支部長挨拶に始まりこの度晴れて高齢会員（75才）になられた北 忠訓、三吉聖一朗両先生にお祝を差し上げました。

議長に廣田 稔先生を選出したあと、庶務・監査報告がなされ議案である決算、予算等は全て承認されました。



懇親会は会場を博多料亭「稚加榮」に移し、井口由彰先生から乾杯のご発声をいただき、終始和やかに進み最後に母校校歌を声高らかに斉唱して散会となりました。その後はもちろん中洲での二次会へと流れました。

来年10月21日（金）～23日（日）、福岡で日本歯科医学会が開催されます。22日（土）には九州歯科医学会・同窓会も併催されます。多くの同窓の方々が来福されることを期待しています。（永江健一 記）



クラス会だより

黎明会

昭和57年卒

かねてより期待の高かった札幌総会は、海の日連休を利用して、平成27年7月19日(日)、市内の海鮮居酒屋「開陽亭」の1フロアを借り切って開催された。参加者41名。前日の土曜日には、水道橋病院副院長高野正行君が、地域同窓会員のための学術講演会で講演した(演題「口腔粘膜診査のススメ」)のだが、黎明会員の多くはそれを聴かずに観光していた…。

去年亡くなった山田哲美君(卒後9人目、在学中を含めると11人目の物故者)に黙祷を捧げた後、武藤会長の挨拶に続く議事はすんなり進行、総会はあっという間に終了した。出席できなかった人たちのコメント一覧が配布されたが、病人の多さに一同嘆息。

懇親会。乾杯の音頭は一番遠くから参加の林 純滋君(岡山 1日違えば台風で来られなかった)。続いて参加者全員が一言ずつ近況報告。卒後33年。これまでの人生の苦難を笑顔で告白する人が続出。自らの人生を語れる年齢となったことを実感する。

大活躍の札幌総会実行委員長船本君。疲れのせいかボカ連発もご愛敬。

2次会はライブハウスを借り切ったの、自前のコンサート形式。ジャズコンボあり、おやしシャウトあり、学生時代の懐メロあり、声楽あり、フラダンスあり

…。「まだまだやれる」と、お互いを勇気づけた。石塚バンドにはメンバーとして、木下 優(昭和52年卒)溝越俊二(昭和56年卒)の両先生が、わざわざ東京から参加してくださった。この日が誕生日の竹元さんが、ケーキのろうそくの火を吹き消した。

最後は全員で校歌を大声で歌ってお開き。解散後は、深夜までカラオケ等に励んだグループもあった。翌20日、飛行機に余裕のある人は、朝からノーザンホースパークに行って、ぎりぎりまで語らいの時を過ごした。

なにせ北海道。参加者の要望はてんでばらばらで、幹事4人では、3日間の対応に限界があった。18日のゴルフはずぶ濡れだった。でも、歓迎の気持ちは伝わったと思っている。参加ありがと

う。

参加者は以下の通り。鮎瀬節子、石塚泰也、今村昭二郎、大島みどり、小倉真由美、小倉真理子、海塩秀男、金山 昇、金子紗由美、久保周平、黒田由紀子、小池美子、杉山節子、高野寿子、高野正行、高橋いつ子、竹元ゆうき、辻 吉純、富山雅史、中澤 章、西山 潔、野嶋直美、野嶋昌彦、馬場真菜美、林 純滋、古川 緑、松永治己、松村照代、三宅 晋、宮本克樹、武藤 彰、矢島佳子、山口哲生、山口雅弘、山倉大紀、山梨由美子、与謝野秋成。幹事は、船本能教、村上奈津子、合田和生、島田清純。

今回は2年後、東京開催。それまでお元気で。

(札幌・島田清純 記)



創 志 会

平成22年卒

平成27年8月23日(日)、ホテルメトロポリタンエドモント・クリスタルホールにて本学115期生(創志会)のクラス会が行われた。

まず行われた講演会では、学年主任であった矢島安朝教授(口腔インプラント学講座)による「東京歯科大学の現状と歯科医療の未来は？」にて歯科医療のパイを拡げるために、今後我々がどうしていけばよいかということについて、良い指針がいただけたと思う。また、同窓生代表として大平貴士先生(厚生労働省医政局歯科保健課 歯科衛生係長)が「10年後の歯科界について」の講演を行

い、今後の歯科界の展望を行政の立場からどのように考えているのかを聞ける貴重な機会となった。また同窓会より矢崎秀昭会長、高野博子先生、菅原圭亮先生にもお越しいただき、貴重なお話を聞かせていただくことが出来た。

その後、村松 敬教授(歯科保存学講座)の乾杯の音頭により、懇親会が開始された。約70名もの

同窓生が集まり、近況を報告しあい、昔話に花を咲かせた。同じ学び舎で6年の月日を過ごしても、卒業してから6年が経つと、歯科医師としての研修後の環境により大きく進路が変わるのだなあと感じた1日であった。

(理事・中原維浩 記)



写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。

クラス会開催日程

12	期	会(昭和39年卒)	と き	平成27年11月27日(金)～29日(日)
			ところ	お台場 ホテルグランパシフィック LE DAIBA
翔	靖	会(昭和55年卒)	と き	平成27年11月28日(土)
			ところ	ホテルニューオータニ(シリウスの間)
三	春	会(昭和60年卒)	と き	平成27年11月28日(土)
			ところ	東京丸の内 パレスホテル

OB 会・グループ・サークルだより

坂 英樹先生（平成2年卒）明海大学教授就任祝賀会報告



井出先生によるご挨拶

バレーボール部OB会長の坂英樹先生が、昨年10月1日付けをもちまして明海大学歯学部 病態診断治療学講座 歯科法医学分野の教授に就任されました。それを祝しまして、本年7月12日(日)「東

京ドームホテル シンシア」にて就任祝賀会を開催致しました。OB 74名、現役28名、大学からは井出吉信学長、森田雅義先生（顧問）をお招きし、総勢102名の盛大な会となりました。司会進行は岸本敏幸先生（平成21年卒）に務めていただきました。

初めに学長の井出吉信先生、友萌会元会長の片桐重雄先生（昭和37年卒）、顧問の森田雅義先生からご挨拶を頂きました。坂先生への記念品贈呈の後、宇井洋夫先生（昭和48年卒）による乾杯の音頭で祝宴が始まりました。

OBの藤本 卓先生（昭和62年卒）、塩崎雄生先生（平成2年卒）、長崎孝司先生（平成5年卒）、鈴木謙介先生（平成7年卒）、中原弘敬先生（平成7年卒）、石川一磨先生（平成10年卒）、山口祐一郎先生（平成12年卒）、宮本政幸先生（平成19年卒）、麻生 徹先生（平成22年



坂先生への記念品の贈呈

卒）、大泉康輔先生（平成22年卒）、高橋（旧姓 直井）香さん（衛生士校・平成2年卒）、三宅（旧姓 鈴木）美樹さん（衛生士校・平成3年卒）、山本（旧姓 高梨）敬子さん（衛生士校・平成3年卒）から祝辞を頂き、続けて現役男子・女子主将による歯学体への抱負がありました。

坂先生による謝辞を頂いた後、参加者一同による校歌の斉唱、記念撮影を行い、閉会の運びとなりました。

（平成24年卒 露木 悠 記）



ご来賓及びOBの先生方



外木守雄先生日本大学教授就任祝賀会

聖路加国際病院歯科口腔外科部長

小澤 靖 弘（昭和62年卒）

平成27年6月21日、ホテルニューオータニ鳳凰の間において、外木守雄先生日本大学教授就任祝賀会が行われました。外木守雄先生は昭和58年卒業（水真会）です。日本大学では学務副委員長、顎変形症外来主任、学会活動では、日本睡眠歯科学会理事長、日本口腔外科学会理事、日本睡眠学会理事など要職についておられます。

さて、日本大学歯学部と本学のつながりは深く、初代学部長（当時の名称は専門部歯科長）佐藤運雄先生は本学の前身である高山歯科医学院の出身で、1916年のちに日本大学歯学部となる東洋歯科医学校を設立し、1921年日本大学専門部歯科長、1943年同大学長、1946年からは理事長を務められました。約100年の時を経て、日本大学に本学出身の新しい教授が誕生したことになります。

式は先ず発起人を代表して東京歯科大学名誉教授 山根源之先生が挨拶を行い、続いて日本大学歯学部学部長・日本大学歯学部衛生学講座教授 前野正夫先生、日本



睡眠学会理事長・東京慈恵会医科大学葛飾医療センター病院長伊藤 洋先生、日本大学歯学部口腔外科学講座口腔外科学分野教授大木秀郎先生が、来賓の祝辞を述べられました。次に本学名誉教授野間弘康先生の乾杯の音頭で祝宴となりました。

後半では外木先生の活躍を記したDVDが上映され、細かった学生時代から貫禄の着いた最近の姿が披露されました。次にお嬢様の綾乃さんから外木先生および奥様に花束が贈呈されました。綾乃さんから外木先生に贈られた言葉

は、父を心配する娘の心境がとても良く込められており、参加者の感動と爆笑を誘っておりました。最後に外木先生より参加者への感謝の言葉と共に、奥様の徳子先生に真珠のブローチがプレゼントされました。本年は32回目の結婚記念日（真珠婚）に当たり、今回のサプライズプレゼントとなりました。

式は和やかな雰囲気の中、外木先生の今後の活躍を祈念しつつ、国立長寿医療センター・口腔感染制御研究室長 渡邊 裕先生の閉会の辞で、閉会となりました。



庶務日誌

7月

1) 理事会

7月15日(水) 第4回常任理事会

2) 委員会

7月1日(水) 事業推進部卒後研修委員会
 2日(木) 総務・厚生部ゴルフ大会委員会
 6日(月) 会務運営協議会
 10日(金) 広報部広報委員会
 13日(月) 事業推進部医療教養委員会
 17日(金) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会祝賀会小委員会
 18日(土) 事業推進部臨床セミナー委員会(補綴セミナー打合せ)
 24日(金) 総務・厚生部新進会員のつどい実行委員会
 24日(金) 事業推進部臨床セミナー委員会(矯正セミナー打合せ)
 25日(土) 事業推進部臨床セミナー委員会(補綴セミナー打合せ)
 28日(火) 事業推進部アカデミア情報オンデマンド配信検討会
 28日(火) 事業推進部臨床セミナー委員会(補綴セミナー打合せ)
 29日(水) 事業推進部アカデミア生涯研修企画会議
 30日(木) 総務・厚生部ゴルフ大会運営実行委員会
 31日(金) 事業推進部卒後研修委員会

3) 出張

7月4日(土) 新潟県支部総会 財部副会長出席
 学術講演会 講師・上田貴之准教授(母校)
 5日(日) 埼玉県支部総会 矢崎会長出席
 学術講演会 講師・亀山敦史准教授(母校)

9日(木) 千葉県支部学術講演会
 講師・渡辺文男氏(吉田東伍記念博物館館長)

11日(土) 中国地域支部連合会総会・支部長会
 矢崎会長, 臼井常任理事, 伊丹理事出席

学術講演会 講師・佐藤 亨教授(母校)

11日(土) 群馬県支部学術講演会
 講師・石上恵一特任教授(母校)

12日(日) 静岡県支部学術講演会
 講師・佐藤 亨教授(母校)

12日(日) 愛知県支部学術講演会
 講師・阿部二郎先生(東京都開業)

18日(土) 札幌支部学術講演会
 講師・高野正行准教授(母校)

22日(水) 東京地域支部連合会学術講演会
 講師・阿部 修先生(東京都開業)

25日(土) 中信支部学術講演会
 講師・笠原正貴教授(母校)

25日(土), 26日(日)
 全国歯科大学同窓・校友会懇話会
 矢崎会長, 宮地副会長, 高野常任理事, 佐々木常任理事出席

4) 事業

7月5日(日) TDC アカデミア2015
 臨床セミナー ペリオセミナー
 8日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修
 TDC 研修倶楽部
 13日(月) 同窓会創立120周年記念事業座談会
 15日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修
 DSM
 20日(月・祝) 学年代表者会
 23日(木) TDC アカデミア2015 卒後研修
 歯科臨床を語る会

8月

1) 委員会

- 8月4日(火) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会(係員配置打合せ会)
- 4日(火) 事業推進部社会保障制度研究委員会
- 6日(木) 渉外部渉外委員会
- 7日(金) 総務関係打合せ会
- 21日(金) 広報部広報委員会
- 24日(月) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会式典・講演会小委員会
- 24日(月) 事業推進部若手ネットワーク委員会
- 25日(火) 事業推進部臨床セミナー委員会(補綴セミナー最終予演会)
- 26日(水) 総務・厚生部新進会員のつどい実行委員会
- 28日(金) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会
- 30日(日) 事業推進部卒後研修委員会・医療教養委員会・臨床セミナー委員会全体委員会

2) 出張

- 8月20日(木) 東京地域支部連合会靖心会
矢崎会長出席
- 23日(日) 第115期創志会クラス会
矢崎会長, 高野常任理事出席
- 29日(土) 北多摩支部学術講演会
講師 大川延也先生(東京都開業)

3) 事業

- 8月19日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修
DSM, TDC 研修倶楽部

9月

1) 理事会

- 9月19日(土) 第4回理事会

2) 委員会

- 9月1日(火) 事業推進部社会保障制度研究委員会勉強会
- 4日(金) 二校会主催若手研修セミナー打合せ
- 8日(火) 事業推進部卒後研修委員会

- 11日(金) 広報部広報委員会

- 11日(金) 事業推進部アカデミア情報オンデマンド配信検討会

- 14日(月) 事業推進部医療教養委員会

- 14日(月) 会務運営協議会

- 15日(火) 同窓会創立120周年記念事業(常置委員会)全体委員会

- 25日(金) 渉外部渉外委員会

- 28日(月) 臨床セミナー委員会(研究委員会B)

- 29日(火) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会式典・講演会小委員会講演会打合せ

3) 出張

- 9月6日(日) 関東地域支部連合会総会・支部長会
矢崎会長, 高橋専務理事, 高原理事出席
- 6日(日) 東海地域支部連合会総会・支部長会
宮地副会長, 佐々木常任理事, 山田理事出席
- 17日(木) 東京地域支部連合会都歯関係東歯同窓懇談会
矢崎会長出席
- 30日(水) 練馬支部学術講演会
講師 古澤成博教授(母校)

4) 事業

- 9月3日(木) 同窓会創立120周年記念 第43回同窓会主催全国ゴルフ大会(霞ヶ関カンツリー倶楽部)
- 9日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修
TDC 研修倶楽部
- 10日(木) TDC アカデミア2015 医療教養
フロンランナーセミナー No.2
- 12日(土)・13日(日)
TDC アカデミア2015
臨床セミナー 補綴セミナー
- 13日(日) 同窓会創立120周年記念フォーラム
- 16日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修
DSM
- 24日(木) TDC アカデミア2015 卒後研修
歯科臨床を語る会

27日(日) 二校会主催若手研修セミナー

10月

1) 理事会

10月24日(土) 第5回理事会

2) 委員会

10月2日(金) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会(小委員会)

5日(月) 臨床セミナー委員会(研究委員会B)

5日(月) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会祝賀会小委員会

6日(火) 広報部広報委員会(小委員会)

7日(水) 総務・厚生部新進会員のつどい実行委員会

7日(水) 事業推進部医療教養委員会

7日(水) 事業推進部オンデマンド配信検討会(小委員会)

7日(水) 東京歯科大学・同窓会広報連携打合せ会

9日(金) 広報部広報委員会

16日(金) 事業推進部臨床セミナー委員会(矯正セミナー最終予演会)

16日(金) 事業推進部若手ネットワーク委員会

20日(火) 会務運営協議会

21日(水) 東京地域支部連合会保険講習会
矢崎会長出席

26日(月) 事業推進部卒後研修委員会

27日(火) 事業推進部アカデミア生涯研修企画会議

30日(金) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会祝賀会小委員会

3) 出張

10月1日(木) 下谷・浅草支部合同学術講演会
講師 大鶴聖一郎先生(東京都開業)

3日(土) 北陸地域支部連合会総会・支部長会
矢崎会長, 佐々木常任理事, 伊藤理事出席

学術講演会 講師・齊藤朋愛助教(母校)

10日(土) 東京地域支部連合会城西ブロック総会
浮地副会長出席

10日(土) 北海道地域支部連合会創立100周年記念式典

矢崎会長, 臼井常任理事出席

11日(日) 北海道地域支部連合会総会
矢崎会長, 臼井常任理事, 佐藤理事出席

18日(日) 第300回東京歯科大学記念学会・総会 同窓会創立120周年記念
矢崎会長出席

18日(日) 信越地域支部連合会総会
浮地副会長, 小池常任理事, 阿部理事出席

学術講演会 講師・外木守雄先生(日本大学歯学教授)

21日(水) 東京地域支部連合会保険講習会
矢崎会長出席

24日(土) 広島大学歯学部創立五十周年記念式典・講演会・祝賀会
宮地副会長出席

4) 事業

10月14日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修
TDC 研修倶楽部

21日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修
DSM

25日(日) 同窓会創立120周年記念リベラル
アーツ・セミナー

29日(木) TDC アカデミア2015 卒後研修
歯科臨床を語る会

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略・届出順)

●昭 39 卒	落 合 武 (75歳)	東京都中野区	27. 5. 31
●昭 18.9 卒	和 田 知 雄 (92歳)	神奈川県横浜市	27. 3. 25
●昭 23 卒	宇佐美 達 (87歳)	新潟県新潟市	27. 6. 27
●昭 32 卒	石 井 愼 一 (82歳)	東京都町田市	27. 7. 8
●昭 25 卒	森 田 多賀雄 (89歳)	神奈川県横須賀市	27. 4. 20
●昭 18.9 卒	賤 間 敏 夫 (94歳)	島根県鹿足郡	27. 7. 26
●昭 32 卒	澤 田 宣 彦 (83歳)	熊本県八代市	27. 7. 31
●昭 43 卒	廣 瀬 勇 (76歳)	東京都渋谷区	27. 7. 30
●昭 36 卒	野 村 栄 一 (79歳)	東京都世田谷区	27. 8. 4
●昭 44 卒	阿曾沼 肇 (71歳)	岩手県奥州市	27. 8. 10
●昭 22 卒	陣之内 励 志 (92歳)	東京都大田区	27. 8. 8
●昭 23 卒	中 村 善佐左門 (89歳)	青森県黒石市	27. 8. 21
●昭 31 卒	田 中 悦 (85歳)	東京都品川区	27. 8. 20
●昭 27 卒	梅 田 昭 夫 (87歳)	東京都江東区	27. 8. 31
●昭 27 卒	鮎 瀬 泰 典 (86歳)	栃木県大田原市	27. 9. 1
●昭 36 卒	土 橋 愛 敬 (80歳)	東京都日野市	27. 8. 27
●昭 31 卒	小 山 哲 夫 (83歳)	富山県氷見市	27. 9. 10
●昭 33 卒	大 橋 和 夫 (81歳)	東京都北区	27. 9. 10
●昭 27 卒	石 山 和 平 (84歳)	北海道小樽市	27. 9. 18
●昭 43 卒	山 本 吉 彦 (72歳)	神奈川県横浜市	27. 9. 20

追 悼

—— 厩田尚子さん亡くなる ——

—— 嶺驥会(昭和30年卒) ——



葛飾柴又の寅さんと発音が同じでもこちらは難しい字を書く厩さんが心不全で、平成27年1月20日に逝去されました。頭がよ

く、字が綺麗で、几帳面な彼女に、クラス雑誌「らくがき」の会計を、本当に長い間担当してもらっていました。我々は、敗戦間もない昭和23年春、最後の旧制予科に入学しました。同級生80数名の内、女子は僅か5名と云う時代

で、すべてAクラスに入っていて、男女共学に慣れていない時代でしたので、初々しいものがありました。それから67年、真に長い付き合いでした。戦後の混乱の中、市川での3年間は旧制高校の雰囲気漂う感慨深い学生生活を

送りました。

蒲郡の伊藤克己君が、昭和62年6月に亡くなった時には、私の故郷の伊勢で、父が危篤だと云う事で行ったり来たりしていた時だったので、何故か私と柿田さんが葬儀に出席しました。うさぎ追いし……と云う童謡歌が流され、彼らしい告別会でした。

らくがき会の行事の中で、平成元年（1989年）土肥の椎貝清文君の招きで、富士山の伏流水の柿田

川の下見に柿田さんと3人で出掛け椎貝宅に泊めて戴いた事もありました。

この様に何事にも付き合いが良く、心やさしい方でしたが、ただ単に心やさしいばかりでなく、戦争に対する深い悲しみと思ひやりをお持ちの方でした。らくがき会写真集発刊に寄せられた柿さんの文章を読み返し、その思いを新たにしました。『参拝後、無言館に向う。先の大戦で学徒動員を受け

絵筆を銃に、剣に代えさせられた学徒の絵が展示されて居り、その思いは如何ばかりであったかと、ひしひしと胸を打つ対面であった。少し重苦しい気分で、次の北向観音に向う。現世の幸福を受けず逝った無言館の学生達への細やかな贐になればと心より願ひ、祈る。』 合掌

（昭和30年卒・足代弘文 記）

恩田千爾君を偲ぶ

嶺驥会(昭和30年卒)



もう一人、平成27年3月9日に恩田君が肺炎で亡くなっていました。家族や同級生から何の

連絡もなく、東京歯科大学の会報の逝去会員のページを見て、びっくりした次第でした。

恩田君は卒後、上條解剖学教室に残り、研鑽を積み、第一講座の助教授に昭和35年に任命され、胎生後期の乳歯芽の位置・排列の変化や石灰化に関する色々な研究をされました。

昭和40年岩手医大歯科の教授として移られ、学友会囲碁部長を与えられ下手なりにも励み、趣味としてもNHKの囲碁有段クラスで頭の体操と思い楽しんでいました。

昭和47年に新設された松本歯科

大学に移り、新しいものづくめの中で随分苦勞された様子でした。部活としてバスケット部の部長として、運動音痴なりに20数年、勤められました。

定年後、奥様の関係で港の見える「横浜みなとみらい21」の高級マンションで悠々自適の生活を送り、囲碁・フィットネス倶楽部で汗を流すと云う、羨ましい余生を過されました。数年前より緑の美しい有料老人ホームに入られ残りの人生を静かに過ごされました。

前出のらくがき写真集の恩田君の「今思うこと」の中に『みなとみらいの地を離れ如何にして自分らしく生きるべきか宿題は多いです。新鮮な気分で新しい一步を踏み出しました』と。

平成5年（1993年）6月、松本歯科大学在職中に、らくがき旅行の幹事になって戴き、雨季の季節

にもかかわらず晴天に恵まれ2間でビーナスライン・安曇野穂高の清流でなければ育たないと云われているわさび畑・アートヒルズを見学しました。割烹旅館、桃山で泊り楽しい旅でした。荒川上君（平成6年3月逝去）がこの旅行を最後に体力低下で来られなくなり、印象深い旅行でした。

恩田君は地道に研究・教鞭に取り組まれ、真面目に人生を過ごされた方だと思います。

新住所に移られてから一度しか連絡を取りませんでしたので失礼しました。

この11月には、松本歯科大学第一解剖学教室にて、恩田千爾名誉教授の追悼会が催される由、御冥福をお祈り申し上げます。

（昭和30年卒・足代弘文 記）

井口俊介君を偲ぶ

シチャ会(昭和48年卒)



3月18日のシチャ会メールで井口君の逝去を知りましたが、すぐにはとても信じられません

でした。というのもその二カ月前の1月12日に久しぶりに京都で会って、近況を語り合い楽しい時間を過ごしたばかりだったからです。

彼とは専門課程になってからクラシック音楽や作家論から付き合いが始まり、シベリウスの交響曲第2番やフルトベングラー指揮の「運命」を自慢げに聴かせてもらったのがついこの間の事のようにです。

卒業後も事あるたびに仕事や家族、趣味について連絡を取り合っていました。特に井口君の趣味については圧巻で、テニスの各種チャンピオンから始まり、カーレーサーとしては「'93フレッシュマントロフィーレース in SUZUKA」の第4戦、5戦を連続優勝してレース雑誌に取り上げられました。その後は登山、源流釣り、海釣りに熱中してしまし

た。特に釣りに関しては多くの会で「プロ」と称されていたようです。

でも遊んでばかりいた訳ではありません。今回の不幸の後、院長を失った歯科医院の後片付けを手伝いに来た新進気鋭の歯科医が、残された機械、器具、材料、薬剤、書籍を観て「これら全てを一人で使いこなされていたのですか？　すごいですね！」と驚嘆していたそうです。そう、歯科医師としての彼はその道においてもプロ中のプロを続けるべく努力をしていたのです。

二年前の年賀状に「実は前立腺癌になってしまった」と記されていたのにびっくりして心配していましたが、井口君らしく専門医以上に勉強して治療方針も自身で決めて、一応順調に推移していたようでした。しかし心のうちではさすがにいろいろ考えを巡らしていたようで、「京歯月報」の山岳同好会の報告投稿で文章を次のように締めて覚悟の程を窺わせています。

「～顧みれば人生の貴重な部分を占めてきた源流の日々。今、ふ

と心によぎるのは、団塊の世代の私にとってこうした単独行をあとどれだけ続けられるのかという一抹の寂寥感。一方でまたこうも思うのである。いつの日か傍らの連れ合いに手を握られ、夢の中で数々の思い出の源流に遊べれば、これはこれで申し分のない人生の終焉ではないかと。」

そして全ての準備を終えた彼は磯釣りの事故で先を急いでしまいました。海に散骨するようにとの遺言だったようですが、阪大を卒業して一流企業に勤めているご子息が「しばらくは家にいてもらよ。」と宣言し、遺骨は今も優しい奥様と一つ屋根の下に居ます。

5月末のシチャ会の宇奈月クラス旅行がありましたが、黒部は彼の源流釣りの本拠地でもあり何度も訪れていると聞いていたので、「称名の滝」を眺めながら彼の居ない無念を痛感しつつ冥福を祈らずにはいませんでした。

井口君、小生の人生に掛け替えない多くの思い出を遺してくれてありがとう。残念です、寂しいです。

(昭和48年卒・秋草裕民 記)



故人を偲ぶ水仙

Shirofumi Ajiro

◆投 稿 規 定

※平成26年度より、偶数月発行から年間4回（2，6，10，12月）の発行になりました。

- (1) 原稿締め切り
原稿の締め切りは、発行前月の10日までとし、原則として締め切り翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投 稿 様 式
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮下さい。ワープロ等電子機器使用の場合は1行15字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ（2Lなど）で集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (4) 写真等の返却
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真の場合は、その旨書き添えて下されば返却いたします。写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

(5) 投 稿 字 数

投稿欄	内容	文字数、備考
追悼	故人の追悼文	600字程度でお願いしています。
すいどうばし いなげ	随想、詩、短歌、 時評など	1編1,700字程度（1ページ）。投稿者本人にしか解らない思い入れや、取り止めのない随筆はご遠慮いただき、出来るだけ大学や同窓会に縁（ゆかり）あるものが望ましい。
支部のうごき クラス会だより		1ページ1,700字程度（1ページ以内でお願いします） 写真が入る場合下記を参考に文字数を減らしてください。 全員の集合写真は720字に相当、会場風景や大勢のスナップ写真は360字相当、数人のスナップ写真は120字相当で掲載します。 尚、同窓会ホームページよりひな型をダウンロードできますのでご利用下さい。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ

<http://tdc-alumni.jp/organization/dousoukai/kouhoubu/> をご覧下さい。

投稿送付書

郵送で投稿の方は下記送付書に内容を記載し、同封をお願いします。

お名前（漢字）		フリガナ	所属支部	支部
卒業年数（どれか1つ）	（昭和・平成・西暦） _____ 年卒 / _____ 期卒			
住所（自宅・勤務先）	〒 _____			
電話番号（自宅・連絡先）	— —	FAX 番号	— —	
投稿先 ☐ に✓印チェック	同窓会会報 ☐ カラーグラビア ☐ 追悼 ☐ 支部のうごき ☐ ふるさと自慢 ☐ すいどうばし ☐ いなげ ☐ クラス会だより ☐ OB, グループ・サークル			
貼付写真枚数	枚			
その他ご希望	（例 写真の順番・重要度など）			

◆へんしゅうこうき

★巻頭ページの「卒業アルバムから見た母校の変遷」いかがでしたか？

水道橋旧校舎や市川校舎、そして千葉校舎と、思わず「懐かしい！」と思われた先生も多かったのではないのでしょうか？これを機に、ご自身の卒業アルバムを紐解いてみてはいかがでしょう…新たな一步を踏み出すきっかけになるかもしれません。

★今月号は、創立120周年記念のテーマ「伝統そして未来への飛躍」の『未来』に焦点をあてた特集として、本年4月に卒業された120期卒業生の想いを聴くことが出来ました。皆其々がとても素晴らしい将来像をしっかりと見据えていて感激しました。それに比べ、卒業したての頃の私はどうだったかと思うと反省しきりです。歯科界の将来を明るく担ってくれるフレッシュな先生方に拍手!!

★口腔保健オープンフォーラムの取材をさせていただきました。大々先輩の血脇守之助先生は、むし歯の治療に留まらず、口腔を清潔にすることが重要であると「口腔衛生」を唱えられ、大正3年に日本で初めて『万歳歯ブラシ』という『歯ブラシ』を創ったそうです。このときの『歯ブラシ』という名称が、日本中に広まり現在まで使われているとの事です。そして、昭和3年には、『むし歯予防デー』を提唱し、ラジオで歯を磨く事の重要性を訴えたり、小学校に出向いて正しい歯みがきの仕方を伝えるなど、まさに口腔衛生の礎を解いた先生でもありました。

★昨年の会報でご報告させていただいた「東歯祭」が10月25日に行なわれます。昨年の取材では若い学生さん達のキラキラした目がとても印象的で感動しました。今年も取材に行って参りますので、報告をさせていただきます。

★【同窓会創立120周年記念式典・祝賀会】まで、あと1ヵ月余となりました。お申し込みはもう済まされたでしょうか？大変多くの先生方からお申し込みをいただいております、この会報が発刊するころには、締め切りになっているかもしれない…という嬉しい状況です。

実行委員会では、先生方のご期待に応えられるよう様々な催しを企画しております。広報部からの企画もありますので、どうぞお楽しみに！また、会場では、多くの先生方の写真撮影のために広報部が会場を走り回っておりますので、お気軽にお声掛け下さい。

最後に…この編集後記を書いていて実感しました。

血脇先生の時代から、卒後すぐの先生や学生さんに至るまで、やはり我が校は素晴らしい!! 心から同窓会を誇りに思います。(佐々木葉子 記)

広報部広報委員会

委員長	白田 準
副委員長	福井 雅之
	山口 雅史
委員	古澤 成博
	奥野 圭子
	佐々木 葉子
	皆川 雅彦
	渡邊 宇一
	島田 篤
	西村 哲雄
	横田 東生

広報部担当理事 小池 修

平成27年10月20日 印刷

平成27年10月25日 発行

東京歯科大学同窓会会報 第401号

同窓会ホームページアドレス

<http://www.tdc-alumni.jp>

発行人 小 池 修

編集人 白 田 準

東京歯科大学同窓会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

電話 (03) 5275-1761

FAX (03) 3264-4859

印刷所 一世印刷株式会社

〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

電話 (03) 3952-5651 (代)